豊中市埋蔵文化財発掘調査概要

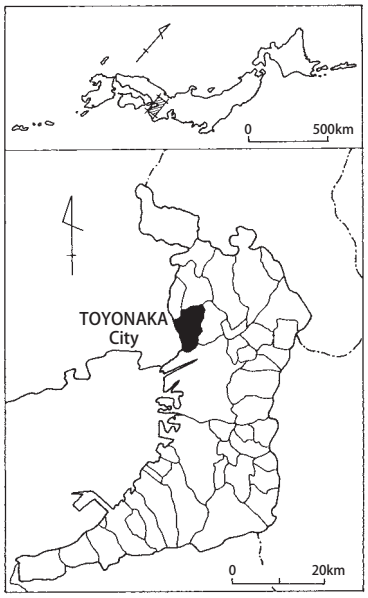
令和４・５年度（2022・2023年度）

令和６年（2024年）３月

豊 中 市 教 育 委 員 会

豊中市埋蔵文化財発掘調査概要

令和４・５年度（2022・2023年度）



令和６年（2024年）３月

豊 中 市 教 育 委 員 会

序　文

豊中市は、大阪府の北西部に位置し、西は兵庫県と接しています。千里丘陵にかつて広大な森林を控えたこの地は、神崎川や猪名川から常に豊かな水がもたらされ、古くから人々の生活の場が育まれてきた結果、多くの歴史的遺産が受け継がれてきました。その一方、商都大阪に隣接する関係により、早くから大阪近郊のベッドタウンとしての開発が進められてきた結果、すみやかに埋蔵文化財の保護に取り組む必要がありました。近年になって開発の勢いは落ち着いてきたものの、依然として小規模開発が行われており、住宅の老朽化に伴う建て替えも多く、埋蔵文化財の保護について迅速な対応が求められています。

本書は郷土の文化財としての埋蔵文化財の重要性を踏まえ、国の補助を受けて実施した緊急発掘調査の概要報告です。今回は、令和 4 年度（2022 年度）に調査を実施した桜塚古墳群、新免遺跡、本町遺跡、令和 5 年度（2023 年度）に調査した小曽根遺跡（今西氏屋敷）、ならびに令和 4・5 年度の各遺跡における確認調査に加え、令和 3 年度（2021 年度）後期に実施した各遺跡における確認調査も掲載いたしました。

永きにわたって受け継がれてきた貴重な歴史的遺産は、わたしたち現代に暮らす人間にとっても大切な知識をもたらしてくれます。本書が、郷土豊中の豊かな未来形成のために役立つことを願ってやみません。

調査の実施にあたっては、土地所有者、施工関係者、近隣の住民の皆様に、深いご理解と多大なご協力を賜りました。また文化庁、大阪府教育委員会ならびに関係諸機関には、格別のご指導とご配慮をいただきました。このような各方面の方々のお力添えにより、豊中市の文化財保護行政が推進できましたことを、ここに厚く感謝いたしますとともに、今後ともより一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

令和 6 年（2024 年）3 月 31 日

豊中市教育長　岩元義継

例　　言

1．本書は、令和４年度（2022 年度）国庫補助事業（総額 7,433,990 円、国庫 3,713,000 円、市費 3,720,990 円）及び、令和５年度（2023 年度）国庫補助事業（総額 11,446,000 円、国庫 5,723,000 円、市費 5,723,000 円）として計画、実施した埋蔵文化財の緊急発掘調査の概要報告書である。また令和４年（2022 年）１～３月に実施した確認調査の成果も併せて収録した。

2．令和３年度事業として令和３年（2021 年）４月１日から令和４年（2022 年）３月 31 日まで、また令和４年度事業として令和４年（2022 年）４月１日から令和５年（2023 年）３月 31 日までの間、発掘調査ならびに整理作業を実施した。また令和５年度事業として令和５年（2023 年）４月１日から令和６年（2024 年）３月 31 日までの間、発掘調査ならびに整理作業を実施した。

3．発掘調査は、本市教育委員会事務局社会教育課文化財保護係・郷土資料館が実施した。

4．本書のうち、第Ⅰ・Ⅳ章は小堀 僚、第Ⅱ章は中村 美琴が執筆した。第Ⅲ章は小堀と井上陽波（大阪大学大学院人文学研究科）が分担執筆した。第Ⅴ章は中村と清水 篤が、また第Ⅵ・Ⅶ章は各調査担当者の見解をもとに、淺田尚子が執筆した。
なお、全体の編集は小堀が行なった。

5．各挿図に掲載した方位表記のうち、M. N. は磁北、また表記のないものは国土座標系（第Ⅵ系）に基づく座標北を示す。

6．挿図・本文中の土色表記の基準は、『新版標準土色帖 2010 年版』に基づく。

7．挿図に掲載した出土遺物の縮尺は、原則１：３または１：４とする。

8．各調査地の土地所有者、施工業者ならびに近隣住民の方々には、文化財の保護に対して深いご理解とご協力をいただきました。併せてここに明記し、深謝いたします。

本書掲載本発掘調査一覧

遺跡名	次数	調査地	調査面積	担当者	調査期間
桜塚古墳群	第 15 次	豊中市南桜塚３丁目 10-10	96.0 ㎡	中村 美琴	令和４年（2022 年）８月２日～８月 29 日
新免遺跡	第 75 次	豊中市玉井町２丁目 72、76-3	160.0 ㎡	小堀　僚	令和４年（2022 年）８月 29 日～９月 27 日
本町遺跡	第 45 次	豊中市本町３丁目 51	415.0 ㎡	小堀　僚	令和４年（2022 年）12 月 22 日～令和５年３月 31 日
小曽根遺跡（今西氏屋敷）	第 36 次（第 13 次）	豊中市浜１丁目 424-3、426	191.4 ㎡	中村 美琴	令和５年（2023 年）６月 22 日～８月 31 日

目　次

第Ⅰ章　位置と環境　（小堀）
1．地理的環境 …… 1
2．歴史的環境 …… 1

第Ⅱ章　桜塚古墳群第 15 次調査　（中村）
1．調査の経緯 …… 5
2．調査の成果 …… 7
（1）遺跡の概要 …… 7
（2）基本層序 …… 7
（3）検出した遺構と遺物 …… 7
3．まとめ …… 8

第Ⅲ章　新免遺跡第 75 次調査　（小堀・井上）
1．調査の経緯 …… 9
2．調査の成果 …… 9
（1）遺跡の概要 …… 9
（2）基本層序 …… 11
（3）検出した遺構 …… 11
（4）出土遺物 …… 12
3．まとめ …… 14

第Ⅳ章　本町遺跡第 45 次調査 …… （小堀）
1．調査の経緯 …… 15
2．調査の成果 …… 15
（1）遺跡の概要 …… 16
（2）基本層序 …… 16
（3）検出した遺構と遺物 …… 16
3．まとめ …… 32

第Ⅴ章　小曽根遺跡第 36 次（今西家 13 次）調査　（中村・清水）
1．調査の経緯 …… 35
2．調査の成果 …… 35
（1）遺跡の概要 …… 35
（2）基本層序 …… 36
（3）検出した遺構と遺物 …… 36
3．まとめ …… 40

第Ⅵ章　確認調査の成果（2022 年）　（淺田）
確認調査の概要……41

第Ⅶ章　確認調査の成果（2023 年）　（淺田）
確認調査の概要……63

挿図・表目次

（第Ⅰ章　位置と環境）

第 1 図　市内遺跡分布図 …… 2
第 2 図　調査地点と周辺の地形 …… 4

（第Ⅱ章　桜塚古墳群第 15 次調査）

第 3 図　調査範囲図（1：250） …… 5
第 4 図　調査地位置図（1：5,000）…… 5
第 5 図　調査区平面・断面図（1：80） …… 6
第 6 図　落ち込み 1 断面図（1：50） …… 7
第 7 図　出土遺物（1：2）…… 8

（第Ⅲ章　新免遺跡第 75 次調査）

第 8 図　調査範囲図（1：500）…… 9
第 9 図　調査地位置図（1：5,000）…… 9
第 10 図　調査区平面・断面図（1：100）…… 10
第 11 図　溝 3 須恵器甕出土状況図（1：４）…… 12
第 12 図　土坑 1　平面・断面図（1：30） …… 13
第 13 図　出土遺物（1：４、1：1） …… 14

（第Ⅳ章　本町遺跡第 45 次調査）

第 14 図　調査範囲図（1：400）…… 15
第 15 図　調査地位置図（1：5,000）…… 15
第 16 図　調査区平面・断面図（1：100）…… 17・18
第 17 図　近世遺構平面図（1：200） …… 19
第 18 図　土坑 3 平面・断面図（1：40） …… 20
第 19 図　井戸 3 平面・断面図（1：40） …… 20
第 20 図　井戸 4 平面・断面図（1：40） …… 20
第 21 図　近世出土遺物（1：４）…… 20
第 22 図　飛鳥～奈良時代　遺構平面図（1：200） …… 22

第 23 図　掘立柱建物２ 平面・断面図（1：50）…… 22
第 24 図　溝 1 断面図（1：40）…… 23
第 25 図　飛鳥～奈良時代関連遺構　出土遺物（1： 4）…… 24
第 26 図　古墳時代後期遺構　平面図（1：150）…… 25
第 27 図　竪穴住居２柱穴断面図（1：30）…… 26
第 28 図　竪穴住居４柱穴断面図（1：30）…… 26
第 29 図　竪穴住居５柱穴断面図（1：30）…… 26
第 30 図　竪穴住居６柱穴断面図（1：30）…… 27
第 31 図　カマド 1 平面・断面図（1：5）…… 28
第 32 図　掘立柱建物 1 平面・断面図（1：50）…… 29
第 33 図　古墳時代後期 出土遺物（1： 4）…… 30
第 34 図　防空壕 平面・断面・見通し図（1：40）…… 31
第 35 図　昭和 23 年（1948 年）の航空写真から分かる空襲被害と建物疎開状況 …… 32
第 36 図　本町遺跡の建物群推定図 …… 33

（第Ⅴ章　小曽根遺跡第 36 次 (今西氏屋敷第 13 次) 調査）

第 37 図　調査範囲図（1：400）…… 35
第 38 図　調査地位置図 …… 35
第 39 図　調査区平面・断面図（1：100）…… 37・38
第 40 図　土坑（井戸）17 断面図（1：20）…… 39
第 41 図　「小曽根郷六箇村絵図之写」に見える字南郷の集落　伝・文化七年（1810 年）…… 40

（第Ⅵ章　確認調査の成果（2022 年））

第 1 表　　令和 4 年（2022 年）確認調査一覧表 …… 41
第 42 図　確認調査地点位置図 …… 42
第 43 図　トレンチ断面図 …… 43
第 44 図　トレンチ掘削状況 …… 43
第 45 図　トレンチ平面・断面図 …… 43
第 46 図　トレンチ掘削状況 …… 43
第 47 図　トレンチ平面・断面図 …… 43
第 48 図　トレンチ断面図 …… 44
第 49 図　トレンチ掘削状況 …… 44
第 50 図　トレンチ断面図 …… 44
第 51 図　トレンチ断面図 …… 44
第 52 図　トレンチ断面図 …… 45
第 53 図　トレンチ掘削状況 …… 45
第 54 図　トレンチ断面図 …… 45

第 55 図　トレンチ掘削状況 …… 45
第 56 図　トレンチ断面図 …… 45
第 57 図　トレンチ掘削状況 …… 46
第 58 図　トレンチ平面・断面図 …… 46
第 59 図　トレンチ断面図 …… 46
第 60 図　トレンチ掘削状況 …… 46
第 61 図　トレンチ断面図 …… 46
第 62 図　トレンチ掘削状況 …… 47
第 63 図　トレンチ断面図 …… 47
第 64 図　トレンチ掘削状況 …… 47
第 65 図　トレンチ断面図 …… 47
第 66 図　トレンチ掘削状況 …… 47
第 67 図　トレンチ平面・断面図 …… 47
第 68 図　トレンチ掘削状況 …… 48
第 69 図　トレンチ断面図 …… 48
第 70 図　トレンチ掘削状況 …… 48
第 71 図　トレンチ断面図 …… 48
第 72 図　トレンチ掘削状況 …… 48
第 73 図　トレンチ断面図 …… 48
第 74 図　トレンチ掘削状況 …… 49
第 75 図　トレンチ断面図 …… 49
第 76 図　トレンチ掘削状況 …… 49
第 77 図　トレンチ断面図 …… 49
第 78 図　トレンチ掘削状況 …… 49
第 79 図　トレンチ断面図 …… 49
第 80 図　トレンチ掘削状況 …… 50
第 81 図　トレンチ断面図 …… 50
第 82 図　トレンチ掘削状況 …… 50
第 83 図　トレンチ断面図 …… 50
第 84 図　トレンチ掘削状況 …… 50
第 85 図　トレンチ断面図 …… 50
第 86 図　トレンチ掘削状況 …… 51
第 87 図　トレンチ断面図 …… 51
第 88 図　トレンチ掘削状況 …… 51
第 89 図　トレンチ断面図 …… 51
第 90 図　トレンチ掘削状況 …… 51
第 91 図　トレンチ断面図 …… 51

第 92 図　トレンチ掘削状況 …… 52
第 93 図　トレンチ断面図 …… 52
第 94 図　トレンチ掘削状況 …… 52
第 95 図　トレンチ断面図 …… 52
第 96 図　トレンチ掘削状況 …… 52
第 97 図　トレンチ断面図 …… 52
第 98 図　トレンチ掘削状況 …… 53
第 99 図　トレンチ平面・断面図 …… 53
第 100 図　トレンチ掘削状況 …… 53
第 101 図　トレンチ平面・断面図 …… 53
第 102 図　トレンチ掘削状況 …… 53
第 103 図　トレンチ平面・断面図 …… 53
第 104 図　トレンチ掘削状況 …… 54
第 105 図　トレンチ断面図 …… 54
第 106 図　トレンチ掘削状況 …… 54
第 107 図　トレンチ断面図 …… 54
第 108 図　トレンチ掘削状況 …… 54
第 109 図　トレンチ断面図 …… 54
第 110 図　トレンチ掘削状況 …… 55
第 111 図　トレンチ断面図 …… 55
第 112 図　トレンチ掘削状況 …… 55
第 113 図　トレンチ断面図 …… 55
第 114 図　トレンチ掘削状況 …… 55
第 115 図　トレンチ断面図 …… 55
第 116 図　トレンチ掘削状況 …… 56
第 117 図　トレンチ断面図 …… 56
第 118 図　トレンチ掘削状況 …… 56
第 119 図　トレンチ平面・断面図 …… 56
第 120 図　トレンチ掘削状況 …… 56
第 121 図　トレンチ平面・断面図 …… 56
第 122 図　トレンチ掘削状況 …… 57
第 123 図　トレンチ平面・断面図 …… 57
第 124 図　トレンチ掘削状況 …… 57
第 125 図　トレンチ断面図 …… 57
第 126 図　トレンチ掘削状況 …… 57
第 127 図　トレンチ断面図 …… 57
第 128 図　トレンチ掘削状況 …… 58

第 129 図　トレンチ断面図 …… 58
第 130 図　トレンチ掘削状況 …… 58
第 131 図　トレンチ断面図 …… 58
第 132 図　トレンチ掘削状況 …… 58
第 133 図　トレンチ断面図 …… 58
第 134 図　トレンチ掘削状況 …… 59
第 135 図　トレンチ断面図 …… 59
第 136 図　トレンチ掘削状況 …… 59
第 137 図　トレンチ断面図 …… 59
第 138 図　トレンチ掘削状況 …… 59
第 139 図　トレンチ断面図 …… 59
第 140 図　トレンチ掘削状況 …… 60
第 141 図　トレンチ断面図 …… 60
第 142 図　トレンチ掘削状況 …… 60
第 143 図　トレンチ断面図 …… 60
第 144 図　トレンチ掘削状況 …… 60
第 145 図　トレンチ断面図 …… 60
第 146 図　トレンチ掘削状況 …… 61
第 147 図　トレンチ断面図 …… 61

（第Ⅶ章　確認調査の成果（2023 年））

第 2 表　　令和 5 年（2023 年）確認調査一覧表 …… 63
第 148 図　確認調査地点位置図 …… 64
第 149 図　トレンチ掘削状況 …… 65
第 150 図　トレンチ断面図 …… 65
第 151 図　トレンチ掘削状況 …… 65
第 152 図　トレンチ平面・断面図 …… 65
第 153 図　トレンチ掘削状況 …… 65
第 154 図　トレンチ断面図 …… 65
第 155 図　トレンチ掘削状況 …… 66
第 156 図　トレンチ断面図 …… 66
第 157 図　トレンチ掘削状況 …… 66
第 158 図　トレンチ断面図 …… 66
第 159 図　トレンチ掘削状況 …… 66
第 160 図　トレンチ断面図 …… 66
第 161 図　トレンチ掘削状況 …… 67
第 162 図　トレンチ断面図 …… 67

第 163 図　トレンチ掘削状況 …… 67
第 164 図　トレンチ断面図 …… 67
第 165 図　トレンチ掘削状況 …… 67
第 166 図　トレンチ断面図 …… 67
第 167 図　トレンチ掘削状況 …… 68
第 168 図　トレンチ断面図 …… 68
第 169 図　トレンチ掘削状況 …… 68
第 170 図　トレンチ断面図 …… 68
第 171 図　トレンチ掘削状況 …… 68
第 172 図　トレンチ断面図 …… 68
第 173 図　トレンチ掘削状況 …… 69
第 174 図　トレンチ断面図 …… 69
第 175 図　トレンチ掘削状況 …… 69
第 176 図　トレンチ平面・断面図 …… 69
第 177 図　トレンチ断面図 …… 69
第 178 図　トレンチ掘削状況 …… 70
第 179 図　トレンチ断面図 …… 70
第 180 図　トレンチ掘削状況 …… 70
第 181 図　トレンチ断面図 …… 70
第 182 図　トレンチ掘削状況 …… 70
第 183 図　トレンチ断面図 …… 70
第 184 図　トレンチ掘削状況 …… 71
第 185 図　トレンチ断面図 …… 71
第 186 図　トレンチ掘削状況 …… 71
第 187 図　トレンチ平面・断面図 …… 71
第 188 図　トレンチ掘削状況 …… 71
第 189 図　トレンチ断面図 …… 71
第 190 図　トレンチ掘削状況 …… 72
第 191 図　トレンチ断面図 …… 72
第 192 図　トレンチ掘削状況 …… 72
第 193 図　トレンチ断面図 …… 72
第 194 図　トレンチ掘削状況 …… 72
第 195 図　トレンチ平面・断面図 …… 72
第 196 図　トレンチ掘削状況 …… 73
第 197 図　トレンチ断面図 …… 73
第 198 図　トレンチ掘削状況 …… 73
第 199 図　トレンチ断面図 …… 73

第 200 図　トレンチ掘削状況 …… 73
第 201 図　トレンチ断面図 …… 73
第 202 図　トレンチ掘削状況 …… 74
第 203 図　トレンチ平面・断面図 …… 74
第 204 図　トレンチ掘削状況 …… 74
第 205 図　トレンチ断面図 …… 74
第 206 図　トレンチ掘削状況 …… 74
第 207 図　トレンチ断面図 …… 74
第 208 図　トレンチ掘削状況 …… 75
第 209 図　トレンチ断面図 …… 75
第 210 図　トレンチ掘削状況 …… 75
第 211 図　トレンチ断面図 …… 75
第 212 図　トレンチ掘削状況 …… 75
第 213 図　トレンチ平面・断面図 …… 75
第 214 図　トレンチ掘削状況 …… 76
第 215 図　トレンチ断面図 …… 76
第 216 図　トレンチ掘削状況 …… 76
第 217 図　トレンチ断面図 …… 76
第 218 図　トレンチ掘削状況 …… 76
第 219 図　トレンチ断面図 …… 76
第 220 図　トレンチ掘削状況 …… 77
第 221 図　トレンチ断面図 …… 77
第 222 図　トレンチ掘削状況 …… 77
第 223 図　トレンチ断面図 …… 77
第 224 図　トレンチ掘削状況 …… 77
第 225 図　トレンチ断面図 …… 77
第 226 図　トレンチ掘削状況 …… 78
第 227 図　トレンチ断面図 …… 78
第 228 図　トレンチ掘削状況 …… 78
第 229 図　トレンチ断面図 …… 78
第 230 図　トレンチ掘削状況 …… 78
第 231 図　トレンチ断面図 …… 78
第 232 図　トレンチ掘削状況 …… 79
第 233 図　トレンチ断面図 …… 79
第 234 図　トレンチ掘削状況 …… 79
第 235 図　トレンチ断面図 …… 79
第 236 図　トレンチ断面図 …… 79

第 237 図　トレンチ掘削状況 …… 80
第 238 図　トレンチ平面・断面図 …… 80

写真図版目次

図版 1　桜塚古墳群第 15 次調査

（1）調査区西半部　全景（北から）
（2）調査区東半部　全景（北から）

図版 2　桜塚古墳群第 15 次調査

（1）落ち込み 1 西半部　断面（南から）
（2）出土遺物（1･2 重機掘削、3 確認調査）

図版 3　新免遺跡第 75 次調査

（1）東半区検出状況（東から）
（2）西半区検出状況（東から）

図版 4　新免遺跡第 75 次調査

（1）東半区完掘状況（北から）
（2）西半区完掘状況（東から）

図版 5　新免遺跡第 75 次調査

（1）東半区完掘状況（東から）
（2）土坑 1 断面（北から）

図版 6　新免遺跡第 75 次調査

（1）土坑 1 完掘状況（北から）
（2）土坑 1 内ピット完掘状況（東から）

図版 7　新免遺跡第 75 次調査

（1）ナイフ形石器出土状況（北から）
（2）溝 1 断面（東から）

図版 8　新免遺跡第 75 次調査

（1）溝 3 須恵器甕 出土状況（北から）
（2）埋め戻し状況（北西から）

図版 9　新免遺跡第 75 次調査

（1）溝 3 出土　須恵器　甕
（2）土坑 1 出土 ナイフ形石器

図版 10　本町遺跡第 45 次調査

（1）調査前（東から）
（2）重機掘削（南から）

図版 11　本町遺跡第 45 次調査

（1）北半区 黒褐色土層上面 遺構検出状況（東から）
（2）北半区　基盤層面　遺構検出状況（東から）

図版 12　本町遺跡第 45 次調査

（1）南半区 基盤層面 遺構検出状況（北東から）
（2）調査区全域に層厚約 30 ～ 50cm の黒褐色堆積土層

図版 13　本町遺跡第 45 次調査

（1）北半区　完掘状況（南から）
（2）南半区　完掘状況（南から）

図版 14　本町遺跡第 45 次調査

（1）井戸 3（南から）
（2）井戸 4（北から）

図版 15　本町遺跡第 45 次調査

（1）掘立柱建物 2（南から）
（2）SP132（掘立柱建物 2 柱穴）（南から）

図版 16　本町遺跡第 45 次調査

（1）溝 1　完掘状況（東から）
（2）溝 1　西アゼ（西から）

図版 17　本町遺跡第 45 次調査

（1）竪穴住居 1（北西から）
（2）竪穴住居 2（南から）

図版 18　本町遺跡第 45 次調査

（1）竪穴住居 3（南から）
（2）竪穴住居 4（東から）

図版 19　本町遺跡第 45 次調査

（1）竪穴住居 5（東から）
（2）竪穴住居 6（北から）

図版 20　本町遺跡第 45 次調査

（1）土坑 44（左)･竪穴住居 7（右）（東から）
（2）カマド 1（北から）

図版 21　本町遺跡第 45 次調査

（1）掘立柱建物 1（北から）
（2）SP126（掘立柱建物 1 柱穴）（南から）

図版 22　本町遺跡第 45 次調査

（1）防空壕　検出状況（南東から）
（2）防空壕　断面（東から）

図版 23　本町遺跡第 45 次調査

（1）防空壕　完掘状況 1（南から）
（2）防空壕　完掘状況 2（南から）

図版 24　本町遺跡第 45 次調査

（1）現地説明会写真 1
（2）現地説明会写真 2

図版 25　本町遺跡第 45 次調査

（1）近世出土遺物（第 21 図）
（2）飛鳥～奈良時代出土遺物（第 25 図）

図版 26　本町遺跡第 45 次調査

（1）古墳時代後期 遺構出土遺物（第 33 図）
（2）黒褐色土層内出土遺物（第 33 図）

図版 27　小曽根遺跡第 36 次調査

（1）調査区西半部　遺構面全景（北から）
（2）調査区東半部　遺構面全景（北から）

図版 28　小曽根遺跡第 36 次調査

（1）調査区北壁断面（部分・南から）
（2）調査区西壁断面（部分・東から）

図版 29　小曽根遺跡第 36 次調査

（1）土坑 9 遺物出土状況（西から）
（2）土坑（井戸）17 断面（南から）

図版 30　小曽根遺跡第 36 次調査

（1）土坑 9 遺出土遺物
（2）土坑 15・17・20・22 出土遺物

第Ⅰ章　位置と環境

１．地理的環境

豊中市は大阪市の北方に位置し、西は猪名川をはさんで兵庫県と接しており、旧国名では摂津国に属する。近世以前は大都市近郊の農村であったが、明治 43 年（1910 年）箕面有馬電気軌道（現在の阪急電鉄宝塚線）開通を契機に宅地化が進み、現在では市域面積約 37 ㎢中に 40 万人もの人口を擁する北摂最大の住宅都市へと発展した。ここに至った背景としては大阪市近郊であることに加え、名神高速道路や阪神高速道路などの自動車専用道路、阪急電鉄や北大阪急行、大阪モノレールによる電車網、さらには大阪国際空港に示される交通の利便性の高さが挙げられる。

一方、地形に目を転じると、豊中市は巨視的に見て北から南に向かって標高が徐々に低くなるなだらかな地形を呈しており、市内最高地点である島熊山（海抜約 100m）から最も低い大島町付近（海抜 1m 以下）にかけての比高差はおよそ 100m である。このような地形的特徴から市内は、おおよそ北部・中部・南部という三地域に区分できる。北部一帯は千里丘陵と刀根山丘陵と呼ばれる２つの丘陵地からなる。前者の千里丘陵は大阪層群の模式地としてその名が知られている通りである。続いて中部一帯は主に千里丘陵から派生する中･低位段丘を中心とした通称豊中台地に該当し、最後に南部一帯は猪名川水系、天竺川、高川の沖積作用によって形成された平野部という見方ができる。

第Ⅱ章桜塚古墳群、第Ⅲ章新免遺跡、第Ⅳ章本町遺跡は豊中台地の低位段丘上、第Ⅴ章小曽根遺跡（今西氏屋敷）は天竺川と高川に挟まれた沖積地にそれぞれ立地する。

２．歴史的環境

ここでは、今回報告する４遺跡の動向を中心に記述する。

桜塚古墳群　豊中台地上の現在の岡町駅周辺に広がる桜塚古墳群は、大きく西群と東群にわけることができ、西群に位置する大石塚古墳・小石塚古墳、東群に位置する大塚古墳・御獅子塚古墳・南天平塚古墳が現存している。明治期の絵図などによって、少なくとも 40 ～ 50 基の古墳がかつて存在したといわれるが、開発により消滅したため上記の５基が現存するのみである。近年、継続的な発掘調査によっても古墳の新規発見が相次いでおり、古墳群の南側にも数基の古墳の存在が確認されている。

第Ⅱ章で報告する調査地は東群に現存する南天平塚古墳の近接地にあたり、東群の古墳が存在したとしても不思議ではない場所である。

新免遺跡　豊中台地上に位置する新免遺跡は、弥生時代中期から集落が展開されている。豊中市域における弥生遺跡は弥生時代中期に低地から台地上に進出する傾向がうかがえ、新免遺跡は千里川流域における好例といえる。

同遺跡は弥生時代中期～終末期と古墳時代中期～後期に、それぞれ盛期を迎える。弥生時代中期から終末期にかけて多数の竪穴住居と方形周溝墓からなる集落が形成され、千里川流域としては中

1. 太鼓塚古墳群
2. 野畑春日町古墳群
3. 野畑遺跡
4. 野畑春日町遺跡
5. 少路遺跡
6. 武蔵国岡部藩安部氏桜井谷陣屋跡
7. 桜井谷石器散布地
8. 羽鷹下池南遺跡
9. 待兼山古墳
10. 待兼山遺跡
11. 内田遺跡
12. 柴原遺跡
13. 北刀根山遺跡
14. 桜井谷窯跡群
15. 蛍池北（宮の前）遺跡
16. 蛍池東遺跡
17. 蛍池西遺跡
18. 蛍池遺跡
19. 麻田藩陣屋跡
20. 南刀根山遺跡
21. 御神山古墳
22. 上野遺跡
23. 青池古墳
24. 熊野田遺跡
25. 金寺山廃寺
26. 新免宮山古墳群
27. 金寺山廃寺塔刹柱礎石
28. 本町遺跡
29. 新免遺跡
30. 箕輪東遺跡
31. 箕輪遺跡
32. 山ノ上遺跡
33. 勝部北遺跡
34. 走井遺跡
35. 岡町北遺跡
36. 岡町遺跡
37. 岡町南遺跡
38. 桜塚古墳群
39. 下原窯跡群
40. 長興寺遺跡
41. 梅塚古墳
42. 埴輪散布地
43. 大坂城鉄砲奉行支配焔硝蔵跡
44. 原田西遺跡
45. 勝部遺跡
46. 勝部東遺跡
47. 原田城跡（北城）原田城跡（南城）
48. 原田遺跡
49. 曽根遺跡
50. 曽根東遺跡
51. 原田中町遺跡
52. 原田南遺跡
53. 曽根埴輪窯跡
54. 豊島北遺跡
55. 曽根南遺跡
56. 城山遺跡
57. 服部遺跡
58. 若竹町遺跡
59. 石蓮寺廃寺
60. 石蓮寺遺跡
61. 寺内遺跡
62. 利倉北遺跡
63. 利倉遺跡
64. 利倉南遺跡
65. 利倉西遺跡
66. 椎堂の前遺跡
67. 服部西遺跡
68. 穂積遺跡
69. 穂積村囲堤
70. 小曽根遺跡
71. 春日大社南郷目代今西氏屋敷
72. 北条遺跡
73. 小曽根南遺跡
74. 上総国飯野藩保科氏浜陣屋跡
75. 上津島川床遺跡
76. 上津島遺跡
77. 上津島南遺跡
78. 穂積ポンプ場遺跡
79. 島田遺跡
80. 庄内遺跡
81. 島江遺跡
82. 庄本遺跡

第１図　市内遺跡分布図

心的な集落へ発展する。続いて古墳時代中期後半～後期前半に迎える盛期には、遺跡中央～北部一帯に展開する居住地とともに、遺跡の南東部一帯には新免古墳群が形成される。これらの背景として、千里川上流域に展開する桜井谷窯跡群との関連性が考えられ、同遺跡から確認される須恵器不良品を含んだ廃棄土坑・溝の存在は両者の強い関連性を推察させうる。

第Ⅲ章で報告する調査地は中部に位置するが、周辺の第 33 次調査で古墳時代後期の集落が確認されている以外の調査例がなく、新免遺跡のなかでもその様相は不明確な場所にあたる。

本町遺跡　千里川中流域に立地する本町遺跡は新免遺跡とも接しており、新免遺跡と同様に弥生時代中期から遺構が確認されている。遺跡の盛期は古墳時代後期～奈良時代であるが、近世期には「新免村」の集落と能勢街道が遺跡内に存在しているため、近世期の遺構も多く確認されている。古墳時代後期の集落からは、須恵器不良品が多数出土した土坑や溝が確認されており、新免遺跡と同様に、千里川上流の桜井谷窯跡群における須恵器の流通を担っていた可能性がある。遺跡の東方には金寺山廃寺が古代に存在したことが確認されており、須恵器流通の集落が仏教寺院の母体集落に変容していくようすが推察される。

第Ⅳ章で報告する調査地は遺跡の中央部に位置し、既往の調査も数多くされており、古墳時代後期の集落の中心的場所であると考えられる。

小曽根遺跡（春日大社南郷目代今西氏屋敷）　小曽根遺跡は弥生時代前期に遺跡の形成が始まり、中期に盛期を迎え、終末期以降次第に衰退する。集落が再び出現する時期は平安時代後期であり、以後近世まで継続する。市南部は春日社等の荘園、垂水西牧榎坂郷にあたり、その経営には奈良春日社から下向した今西氏が目代としてあたった。春日大社南郷目代今西氏屋敷は小曽根遺跡の南西部に位置しており、現在も今西氏が居住する。現屋敷地の周囲には 15 世紀代の堀が確認されており、屋敷地推定範囲の東辺でも 13 世紀代の堀跡とみられる遺構が確認されている。

今回第Ⅴ章で報告する調査地は、春日大社南郷目代今西氏屋敷の東側に立地しており、近世期には「字南郷」の集落地となっていた場所である。

第２図　調査地点と周辺の地形

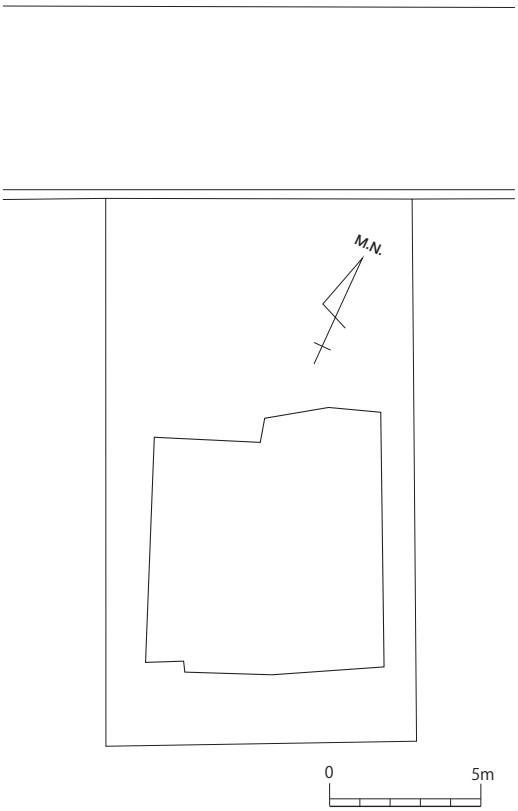
第Ⅱ章　桜塚古墳群第 15 次調査

1．調査の経緯

当該調査地は豊中市南桜塚３丁目 10-10 に所在し、国指定史跡桜塚古墳群の南天平塚古墳の南西に位置する。

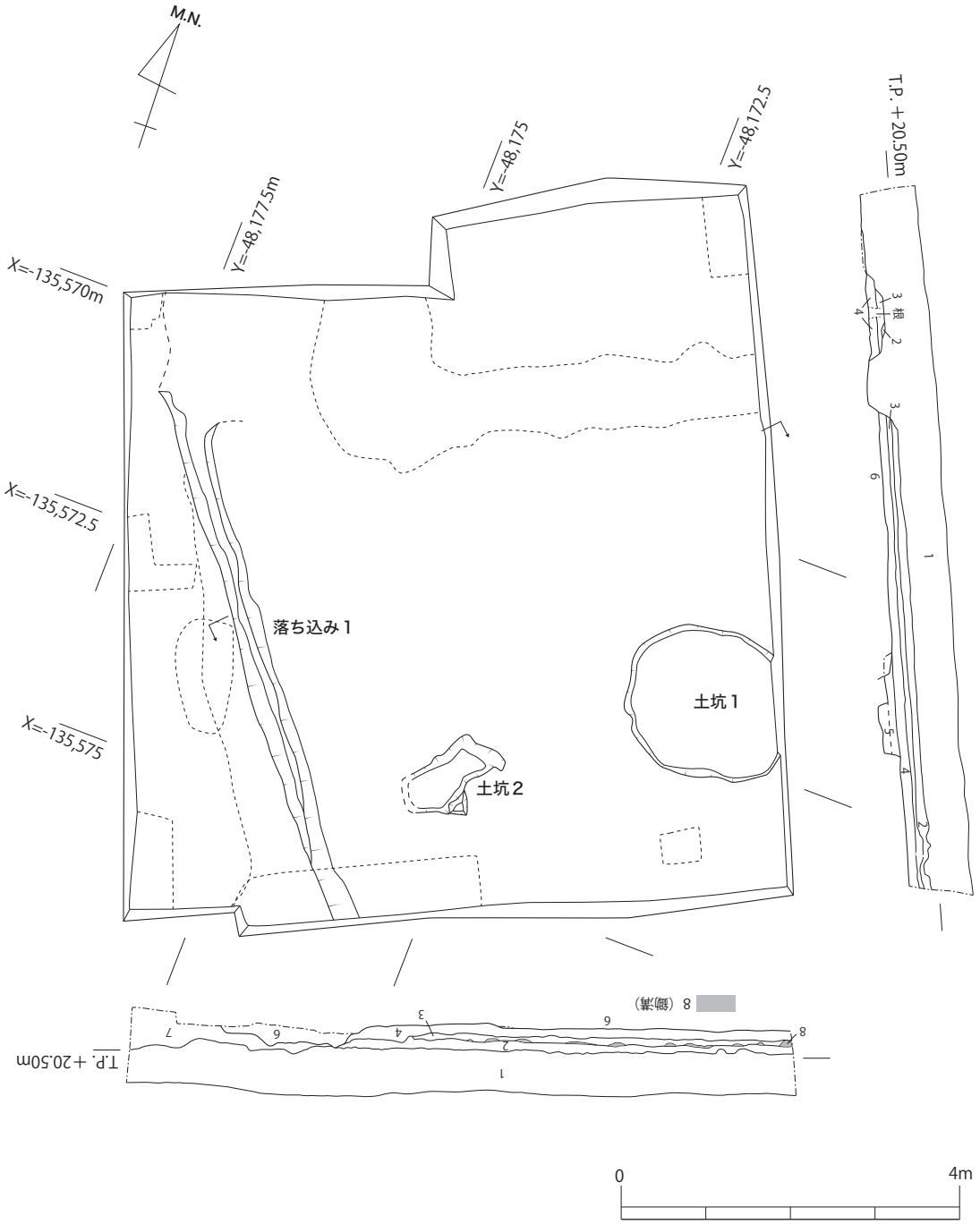
令和４年（2022 年）５月 16 日付けで提出された埋蔵文化財発掘の届出に基づき、同年６月 30 日に確認調査を実施した。その結果、現地表下 55cm ～ 80cm で基盤層を検出し、その上面で落ち込み遺構と坏と考えられる須恵器片【図版１-（２）-3】を確認した。一方、現況の計画では基礎掘削深度が地表下 2m まで達し、遺構の破壊は免れないことが判明した。事業者と協議を行ったが、建築計画を変更する余地がないため、記録保存のために本発掘調査を実施することになった。

発掘調査は建築範囲にあたる 96㎡を、令和４年(2022 年)8 月２日～８月 29 日までの期間で実施した。



第３図　調査範囲図（１：250）

第４図　調査地位置図（１：5000）



1. 現代の盛土。
2. 褐灰色（7.5YR4/1）～黒褐色（7.5YR3/1）中粒砂。しまり弱い。近世の陶磁器片、瓦片、埴輪片を含む。旧耕作土（SD-1 上層）。
3. 褐灰色（7.5Y5/1）～灰褐色（7.5Y5/2）中粒砂～細粒砂。しまり弱い。近世の陶磁器片を含む。（SD-1 中層）。
4. 灰白色（10YR8/1）～黄橙色（10YR7/8）極細粒砂。しまり強い。粘性あり。近世の陶磁器片を含む。（SD-1 下層）。
5. 灰白色（10YR8/1）～にぶい黄橙色（10YR7/4）粗粒砂～中粒砂。しまり弱い。しまりの強い灰白色（N7/0）中粒砂や基盤層（6 層）由来のブロック土を含む。ガラス片を含む。底面の起伏が激しく不整形である。（SK-1）。
6. 灰白色（7.5YR8/1）～浅黄橙色（7.5YR8/4）シルト～粘土。しまり強い。粘性強い。径 5mm～1cm ほどの細礫含む。（基盤層）
7. 褐色（7.5YR4/3）～暗褐色（7.5YR3/3）中粒砂～細粒砂。基盤層（6 層）由来のブロック土を 10% 含む。撹乱層。
8. 褐灰色（10YR5/1～6/1）細粒砂～極細粒砂。しまりやや強い。粘性弱い。径 5mm ほどの細礫含む。（鋤溝）

第５図　調査区平面・断面図（１：80）

2.　調査の成果

（1）遺跡の概要

桜塚古墳群は、豊中台地と呼ばれる中位段丘の平坦面に立地し、猪名川の氾濫原である西方、大阪湾に通じる南側の低湿地を望見する位置を占める。これまで行われてきた多くの調査から、4 世紀半ばから 5 世紀代にかけての周辺地域最大の古墳群であることがわかっており、首長系列であると推定される古墳から、鉄製の武器・武具をはじめとする豊富な副葬品が出土することでもよく知られてきた。

明治 12 年（1879 年）に描かれた絵図「三十六墳所在総図」では、36 か所に古墳状の高まりが認められていたが、昭和 12 年（1937 年）から実施された土地区画整理事業で大半が消滅し、大石塚古墳・小石塚古墳・大塚古墳・御獅子塚古墳・南天平塚古墳の 5 基のみが現存する。これらは、桜塚古墳群として国の史跡に指定されて保護が図られている。

しかしながら、市街地化が進んだ現在においても、先の絵図に描かれていない古墳が検出されることがあり、当該調査までに少なくとも 10 基の古墳が新たに確認されており、40 基以上の古墳が存在したと推察されている。

（2）基本層序

今回の調査地における基本層序は、概ね 5 層からなる。

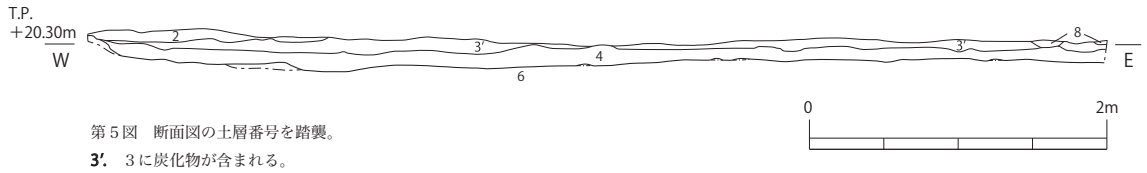
第 1 層は現代の盛土および、攪乱である。第 2 層は褐灰色～黒褐色中粒砂であり、第 3 層は褐灰色～灰褐色を呈する中粒砂～細粒砂、第 4 層は灰白色～橙色極細粒砂である。2 ～ 4 層は近世以降の耕作土並びに落ち込み 1 の埋土であり、近世以降の陶磁器片などが出土している。第 5 層は灰白色～浅黄橙色シルト～極細粒砂であり、当該調査地における基盤層に相当する。

（3）検出した遺構と遺物

以下では、今回の調査で検出した遺構と遺物について述べる。

落ち込み 1　調査区西側において検出した。南北軸幅 6m ～ 6m60cm 以上、東西軸幅は 6 m 以上、深さは約 30cm である。落ち込みは 2 段で形成されており、遺構埋土は 3 層に分けることができる。遺構埋土は東側に向かって続いており、調査区外まで伸びていくことが判明した。

また調査区東側では、落ち込み中層に鋤溝が南北軸方向に何本も走っていることが確認された。落ち込み 1 からは陶磁器片が出土しており、江戸時代以降のものと考えられ、近世以降の耕作関連遺構である可能性が高い。

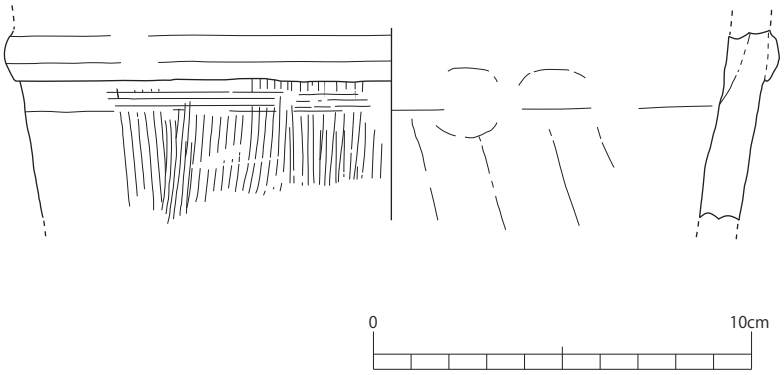


第 5 図　断面図の土層番号を踏襲。
3′.　3 に炭化物が含まれる。

第 6 図　落ち込み 1 断面図（1：50）

土坑 1　調査区東半部で検出した。平面形は円形で、幅約 1m80cm、深さ約 20cm である。土坑の底面は起伏が激しく、基盤層由来のブロック土が堆積する。

円筒埴輪片　調査区西半部の重機掘削時に出土した。残存高は5.1cmで、復元径は20.4cmとなる。外面全体にタテハケが施されており、丸みを帯びた突帯が付いている。色調は外面が灰黄褐色、内面がにぶい黄橙色、断面は橙色～オリーブ褐色を呈する。埴輪は窯で焼成されており、硬質になっている。川西宏幸による円筒埴輪編年（注1）、Ⅴ期（5世紀後葉～6世紀）と推測される。この埴輪片が作られた時期は、南天平塚古墳が築造された時期と一致している。またこの埴輪片以外にも数点出土しており、第7図の埴輪片と色調や突帯が似ているものも確認されている。一方で【図版1-（2）-2】のように色調が、内外面ともに橙色～黄橙色で、第7図の埴輪片よりも軟質なものもある。いくつかの種類の埴輪が周辺の古墳で使用されていたということが読み取れ、南天平塚古墳、あるいは他の未確認の古墳で使用されていた可能性がある。



第7図　出土遺物（1：2）

その他の遺構・遺物　調査区東側では、基盤層直上から杭痕を検出した。それぞれ一辺2.5cm～3.5cm四方の正方形を呈しており、確認した杭痕4本の内3本は、北西から南東にかけて一直線上に配置されている。近世以降の耕作に伴うものであると思われる。また調査区中央部から土坑2を検出した。深さは約15cmで平面は不整形であった。

遺物は、埴輪片以外に近世以降の陶磁器片や瓦片・鉄釘が出土している。落ち込み1と土坑1以外の遺構に伴う遺物は出土していない。

3.　まとめ

今回の調査では、調査区内から南天平塚古墳の築造時期と同じ頃に製作された埴輪片が数点出土した。これらの資料は、土地区画整理事業などの際に、南天平塚古墳から流入したものである可能性と、当該調査地周辺に新たな古墳が存在し、そこから移動されてきた可能性のいずれかが推測される。そのため、今後の近隣での調査の際に着目していく必要がある。

また近世以降の耕作に伴う落ち込み1や、鋤溝を確認した。南桜塚では、昭和12年（1937年）から土地区画整理が実施されており、今回検出された耕作の痕跡は、区画整理前後の当該地の土地利用について、知ることができる貴重な遺構といえよう。

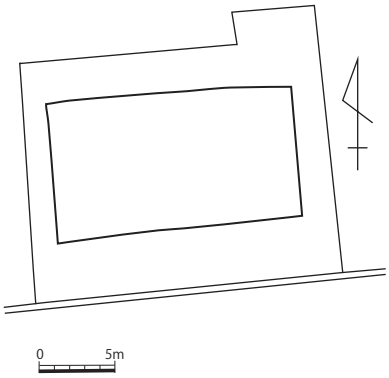
【参考文献】

川西宏幸「円筒埴輪総論」『考古学雑誌』第六四-二号（1978）日本考古学協会

第Ⅲ章　新免遺跡第 75 次調査

１．調査の経緯

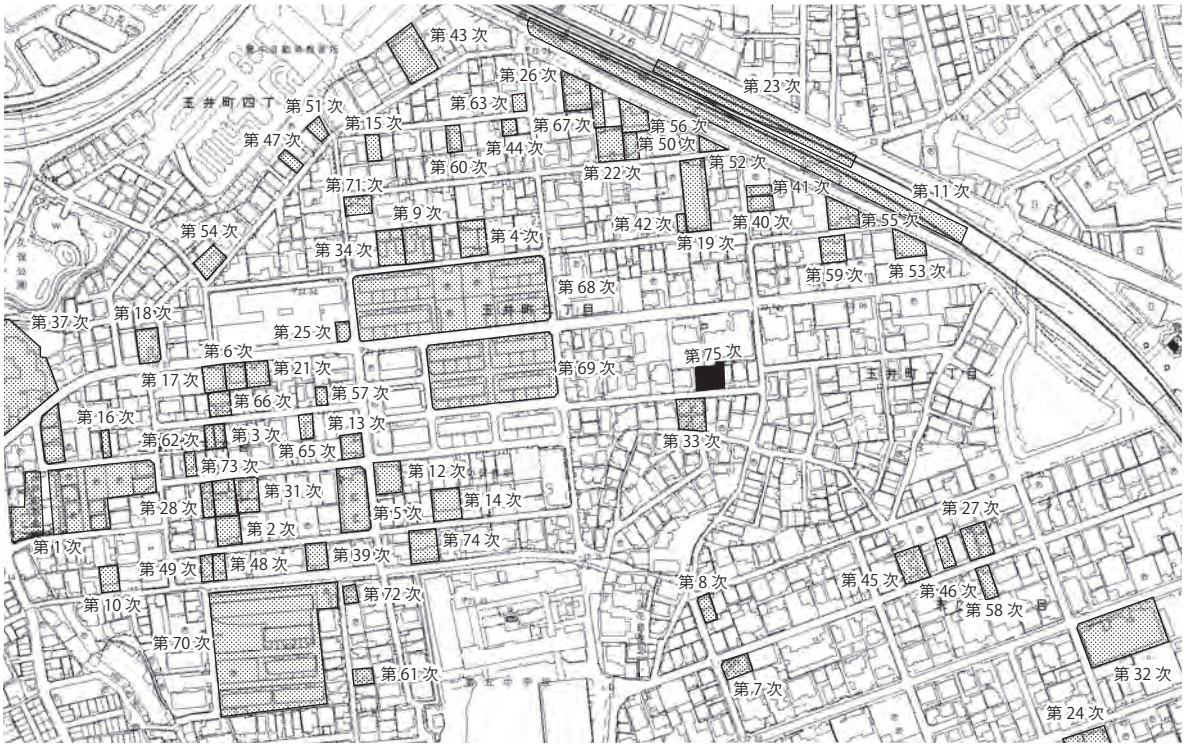
今回の調査地は、玉井町 2 丁目 72、76-3 に所在する。旧計画に伴う前年度の確認調査において、敷地東側では既に地表下 50cm の基盤層上に遺構が検出されている。今回改めて令和 4 年（2022 年）7 月 27 日に提出された土木工事等による埋蔵文化財発掘の届出に基づいて、8 月 4 日確認調査を実施したところ、地表下 25cm から 60cm で基盤層とその上面より遺構を検出した。一方、予定建物建築に伴う掘削深度は地表下 1.21m に達することから、現行の計画の場合、遺構の破壊は免れないことが判明した。このことについて事業主と協議の結果、建築計画に変更はなく、よって緊急の本発掘調査を実施することになった。現地調査は令和 4 年（2022 年）8 月 29 日から 9 月 27 日にかけて場内反転による調査を実施し、調査面積は 160.0 ㎡である。（小堀）



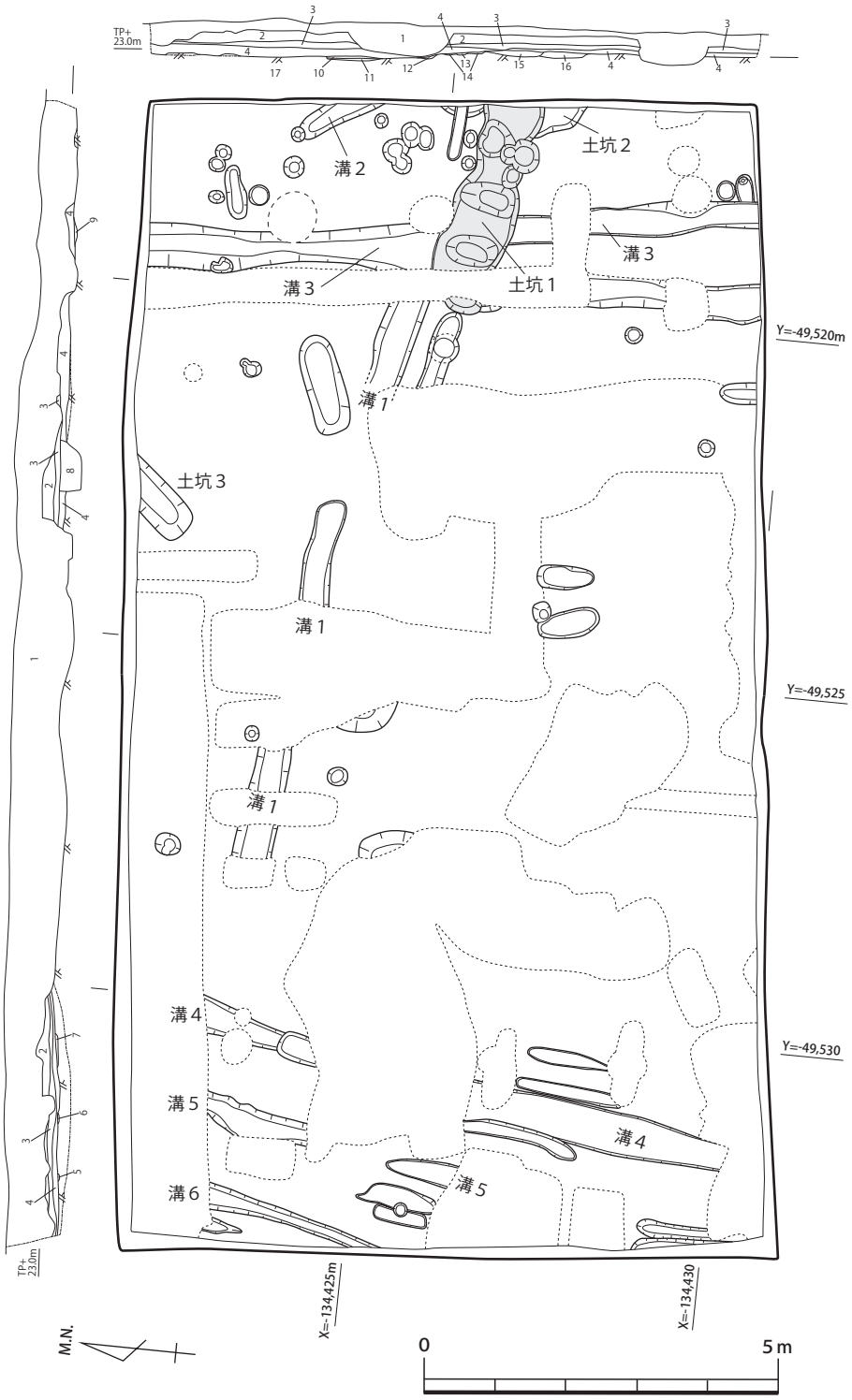
第８図　調査範囲図（1：500）

２．調査の成果

(1) 遺跡の概要



第９図　調査地位置図（1：5,000）



1. 現代盛土層・攪乱
2. 10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂。しまり弱い。（旧耕作土）
3. 2.5Y4/4 ～ 4/6 オリーブ褐色細粒砂～極細粒砂。しまりやや強い。
4. 10YR4/3 ～ 4/4 にぶい褐色～褐色細粒砂～極細粒砂。しまり強い。
5. 2.5Y4/4 オリーブ褐色細粒砂～粗粒砂に基盤層ブロックが混じる。φ2mm 程の礫混じる。（溝６埋土）
6. 2.5YR4/4 オリーブ褐色極細粒砂～中粒砂。φ8mm 程の礫混じる。（溝５埋土）
7. 2.5Y4/4 オリーブ褐色細粒砂～中粒砂。φ1 ～ 2mm 程の礫混じる。（溝４埋土）
8. 10YR3/4 ～ 10YR4/6 暗褐色～褐色シルト。しまりやや強い。（土坑３埋土）
9. 10YR3/2 黒褐色シルトに鉄分を含む。（溝３埋土）
10. 2.5Y4/4 オリーブ褐色極細粒砂。しまりやや強い。（溝２埋土上層）
11. 2.5Y7/4 浅黄色細粒砂および 2.5Y5/6 黄褐色細粒砂。しまり強い。（溝２埋土下層）
12. 10YR4/4 褐色極細粒砂に基盤層ブロックが混じる。（ピット埋土）
13. 10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂。しまり強い。（溝埋土）
14. 10YR4/4 褐色極細粒砂。しまり強い。（土坑埋土）
15. 10YR4/4 褐色極細粒砂に基盤層ブロック混じる。（土坑１埋土）
16. 10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂に基盤層ブロック混じる。（土坑２埋土）
17. 5Y8/1 灰白色～ 10YR6/8 明黄褐色極細粒砂。φ1mm ～ 1cm 程の礫を含む。（基盤層）

第 10 図　調査区平面・断面図（1：100）

新免遺跡は豊中駅の西側から市立第五中学校一帯（玉井町・末広町・立花町）にかけて広がる複合遺跡であり、調査次数が計 74 次と調査歴が市内で最多となる遺跡である。遺跡内のエリアごとに様相は異なっており、阪急電鉄の高架事業に伴う第 11 次調査地や第 19 次調査地を中心とする遺跡北部では、弥生時代中期から終末期、古墳時代後期に竪穴住居などの集落遺構が密集している。このうち、第 19 次調査では大量の須恵器を廃棄した溝状遺構が検出されており、桜井谷窯跡群との関連性を示唆する重要な遺構である。第 70 次調査地を中心とする遺跡西部でも、弥生時代中期から終末期にかけての竪穴住居や方形周溝墓などが密集している。また第 70 次調査では原位置出土ではないものの、旧石器時代の国府型ナイフ形石器が新免遺跡で唯一出土している。一方遺跡の南東部では古墳の周溝が多数発見されており（新免古墳群）、桜塚古墳群の造墓活動が終焉する時期に築かれている古墳群として注目される。今回の調査地周辺は遺跡の中央部にあたり、調査歴が少ないエリアである。調査地南西部に隣接する第 33 次調査では、古墳時代後期の竪穴住居 2 棟と掘立柱建物 1 棟、竪穴住居消滅後の小溝 5 条と、近世～近代の大溝が確認されている。今回の調査地では主に古墳時代後期の遺構の検出が期待された。（小堀）

（2）基本層序

調査地の基本層序は、第 1 層の現代盛土層、第 2 層の 10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂層（旧耕作土）、第 3 層の 2.5Y4/4 ～ 4/6 オリーブ褐色細粒砂層（床土）、第 4 層の 10YR4/4 褐色極細粒砂層、第 5 層（第 10 図では 17 層）の 5Y8/1 灰白色極細粒砂層（基盤層）となっている。遺構面は基盤層となる第 5 層上面であり、第 4 層までの重機掘削後、人力で掘削し調査を行った。（小堀）

（3）検出した遺構

検出した遺構の年代は、おおよそ古墳時代後期と中世前半期の 2 時期に分けられる。以下、時期別に報告する。

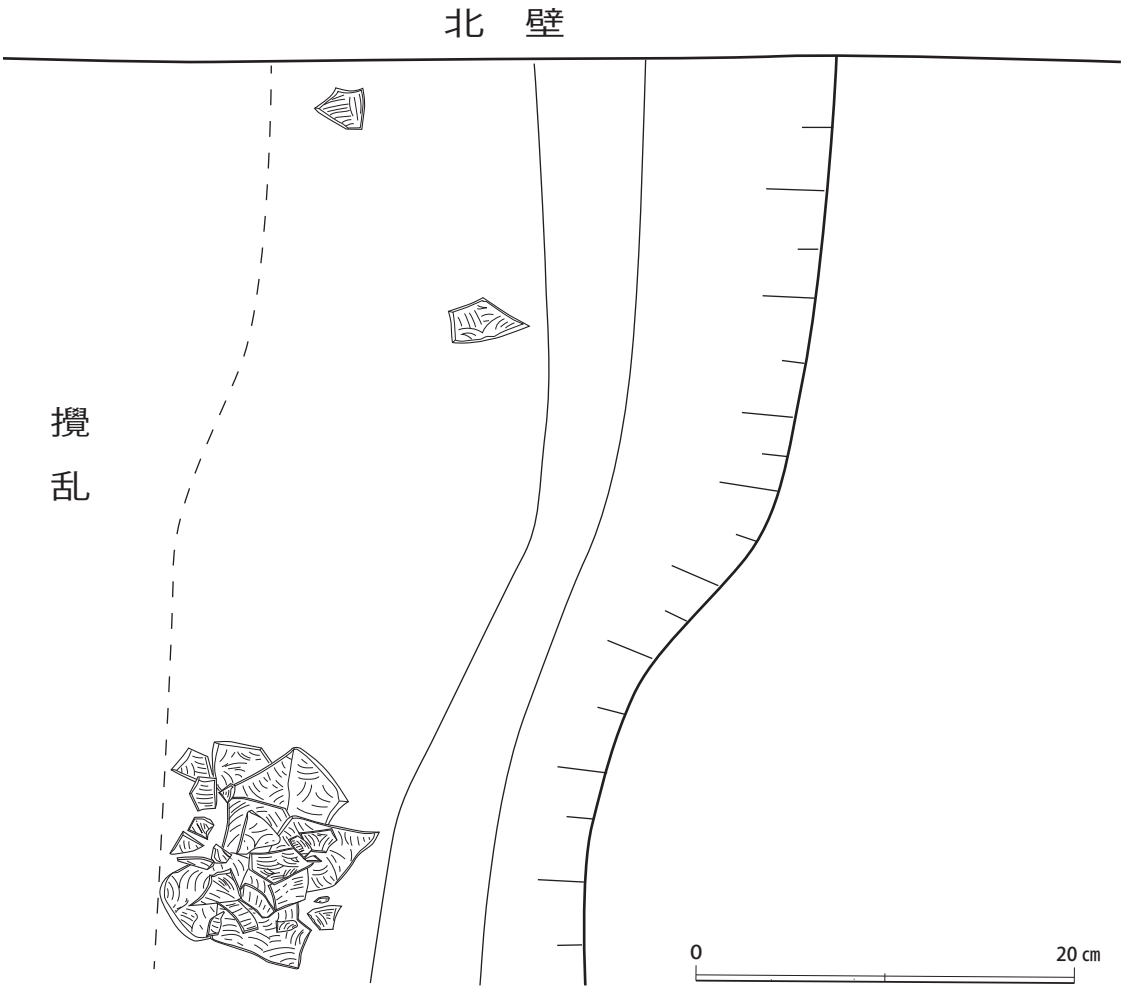
古墳時代後期

古墳時代後期の遺構は調査区の東側に偏っている。

溝 3 は調査区東側を南北にはしる溝である。上部は削平を受けているものと思われるが、幅約 40 ～ 60cm で、深さは 5 ～ 10cm ほど残存している。溝 3 の北側からは第 11 図の須恵器甕が一括で出土した。体部のみの残存のため図化できなかったが、図版 9 に写真を掲載している。**土坑 2** は調査区東壁にかかる土坑である。深さ約 10cm の小規模な土坑だが、後述する須恵器の坏身が出土している。

中世前半期

土坑 1 は調査区東壁にかかる土坑であり、２つ以上の土坑が切り合い、溝状に長くなっている。土坑 1 は深さ約 10 ㎝であるが、床面に複数のピット群が検出された。床面の各ピットの底には直径 1 ～ 3cm 程の小礫と土器細片が敷き詰められていた（第 12 図）。土器は主に須恵器と瓦器椀で



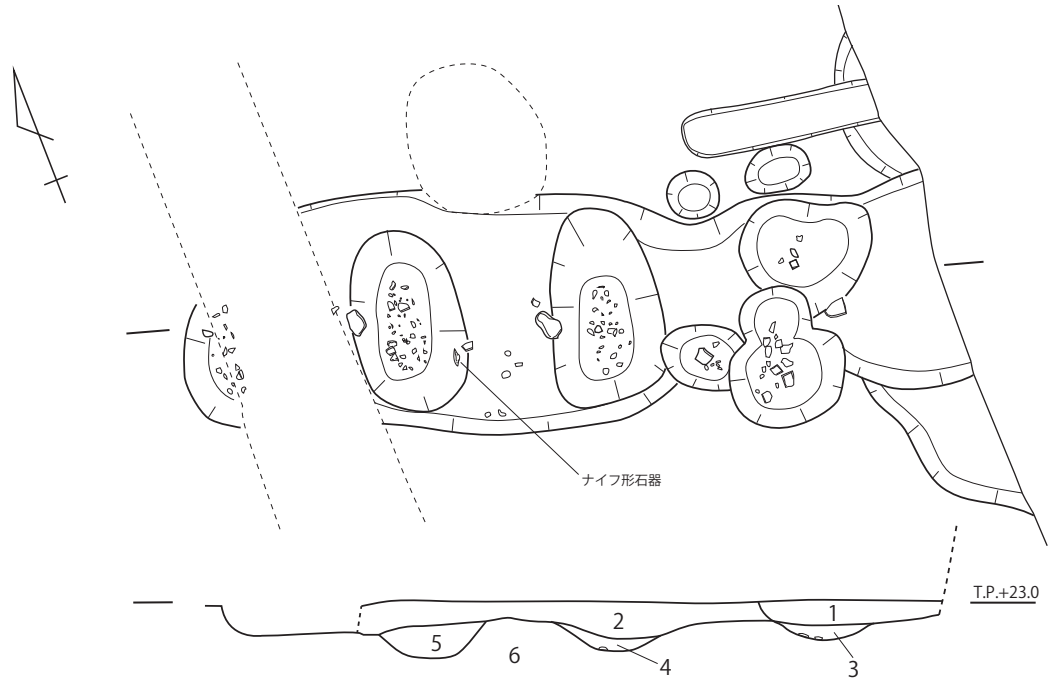
第 11 図　溝 3 須恵器甕出土状況図（1：4）

あり、瓦器椀片が遺構の時期を示す遺物だが、細片のため図化していない。12 ～ 13 世紀の範疇におさまるものと考えられる。土坑および床面のピット群の性格については不明である。土坑 1 の床面からは上述する国府型ナイフ形石器が出土した。遺構形成時、敷き詰めた小石・土器細片に混じっていたものと考えられる。

溝 1 や**溝 4・溝 5・溝 6** はやや傾きがあるものの方位に沿って掘られた小溝である。遺物の出土がないため、時期の特定は困難だが、中世前半期～近世におさまるものと思われる。また、これら小溝は耕作に伴う溝と考えられる。（小堀）

（4）出土遺物

第 11 図 1 はナイフ形石器である。土坑 1 下層西側落ち込み東側肩部付近から出土した。残存長 5.3cm、最大幅 1.5cm、最大厚さ 0.75cm をはかる。用材にはサヌカイトを使用し、片刃の槍先状の形態をとる。瀬戸内技法によって剥取された横長剥片を素材とし、背面の一側面部から急角度の細部調整剥離を加えている。打面部の除去は不十分である。風化はそれほど進行していないものの、先端部・基部・刃部の一部に欠けが認められる。諸特徴から典型的な国府型ナイフ形石器と分かる。本資料は須恵器片、瓦器片とともに出土したことから、後世の耕作に伴い検出位置に移動したと考



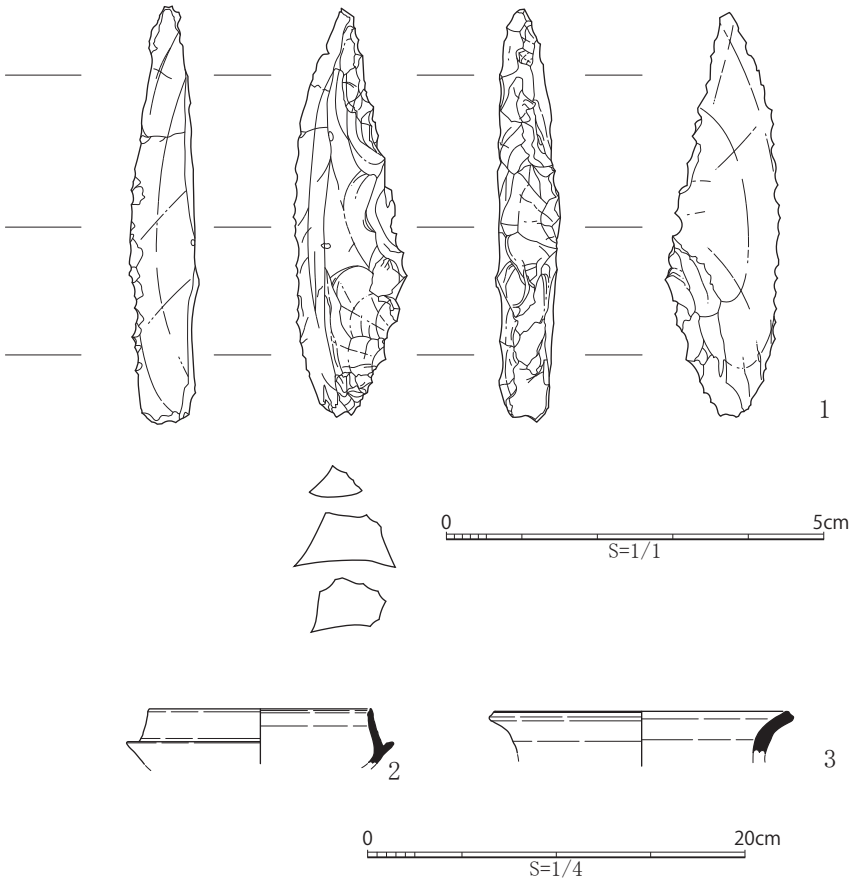
1. 10YR3/2 黒褐色シルトにφ～ 2cm 程の基盤層ブロック混じる
2. 10YR3/2 黒褐色シルトにφ～ 1cm 程の基盤層ブロック混じる
3. 10YR5/2 灰黄褐色シルトに鉄分含む（床面に土器片・小礫が集中・しまりやや悪い）
4. 2.5Y3/2 黒褐色極細粒砂に鉄分含む（ややしまり悪い）
5. 10YR3/1 黒褐色極細粒砂に鉄分含む（床面に土器片・小礫が集中・しまりやや悪い）
6. 5Y8/1 灰白色～ 2.5Y8/8 黄色粘土（基盤層）

0　2m

第 12 図　土坑 1　平面・断面図（1：30）

えられる。単独遊離資料であるため層位的な位置付けは難しいが、近郊に位置する蛍池西遺跡や市内の複数遺跡で出土した国府型ナイフ形石器とともに、豊中市内における後期旧石器時代の人類活動を示す良好な資料であるといえよう。第 11 図２・３は須恵器で、２は土坑２、３は土坑１下層東側落ち込み床面から出土した。２は須恵器坏身であり、復元口径 11.6cm、残存高 2.9cm、立ち上がり高 1.8cm を測る。内面、外面はともに回転ナデで仕上げられている。大型品でありながら口縁端部に段をもつ点、高く立ち上がる点から、陶邑田辺編年 MT 15 型式期、実年代では６世紀前半に属するものと推定できる（註１・２）。３は須恵器甕の口縁部片で、復元口径 15.4cm、残存高 2.2cm を測る。口縁部は外反しており、端部の外面はわずかに肥厚する。内面・外面は回転ナデで調整されている。２と同様に古墳時代後期の所産と考えられる。これらの他に、溝３から須恵器の甕体部片が出土した。図示し得なかったが、図版９に写真を掲載した。底部付近の破片と思われ、外面はタタキ、内面には同心円状の当て具痕が認められる。新免遺跡における既往の調査では北方の桜井谷窯跡群で生産されたとみられる須恵器が多く出土していることから、本報告の須恵器についても須恵器生産との関連を示す資料として評価したい。（井上）

註１　田辺昭三 1966『陶邑古窯跡群』Ⅰ　平安学園考古学クラブ
註２　田辺昭三 1981『須恵器大成』　角川書店



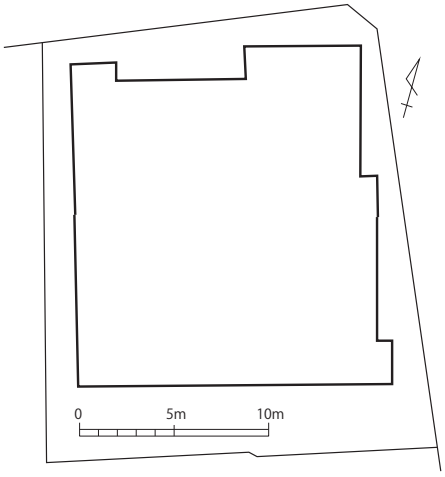
第 13 図　出土遺物（1：4、ナイフ形石器は 1：1）

3．まとめ

今回の調査成果では古墳時代後期の集落の一端をうかがうことができた。しかし、検出した遺構は溝のみであるため、古墳時代後期の集落に関しては縁辺部であったことは確かであろう。調査地南西側での新免遺跡第 33 次調査の成果も、古墳時代後期の竪穴住居や遺構は調査地の西側を中心に偏っている。また溝状遺構も第 33 次調査地では南東から北西にかけて数条検出されているが、当調査の成果と併せると集落域の縁辺を示している可能性が高くなった。12 世紀から 13 世紀の遺構としては土坑及び小ピットが今回の調査で検出されている。主に調査区西側で検出している小溝が当該期のものと仮定すると、中世前半期に耕作地として土地利用されていたことが考えられる。土坑 1 内の小ピット群の底面に敷き詰められた小石や小土器片が何のために行われたという点に関しては、今後の調査成果に期待したい。また今回はこの小ピット群から想定外に旧石器時代のナイフ形石器が出土した。新免遺跡では第 70 次調査以来の 2 例目であり、かつ豊中市内でも 20 例ほどの発見例にとどまるため、貴重な資料と言えるだろう。近隣の発見例では豊中台地上で発見されることが多いため、今後も発見される可能性がある。資料の増加を待って、旧石器時代に関する調査成果については留意していきたい。（小堀）

第Ⅳ章　本町遺跡第 45 次調査

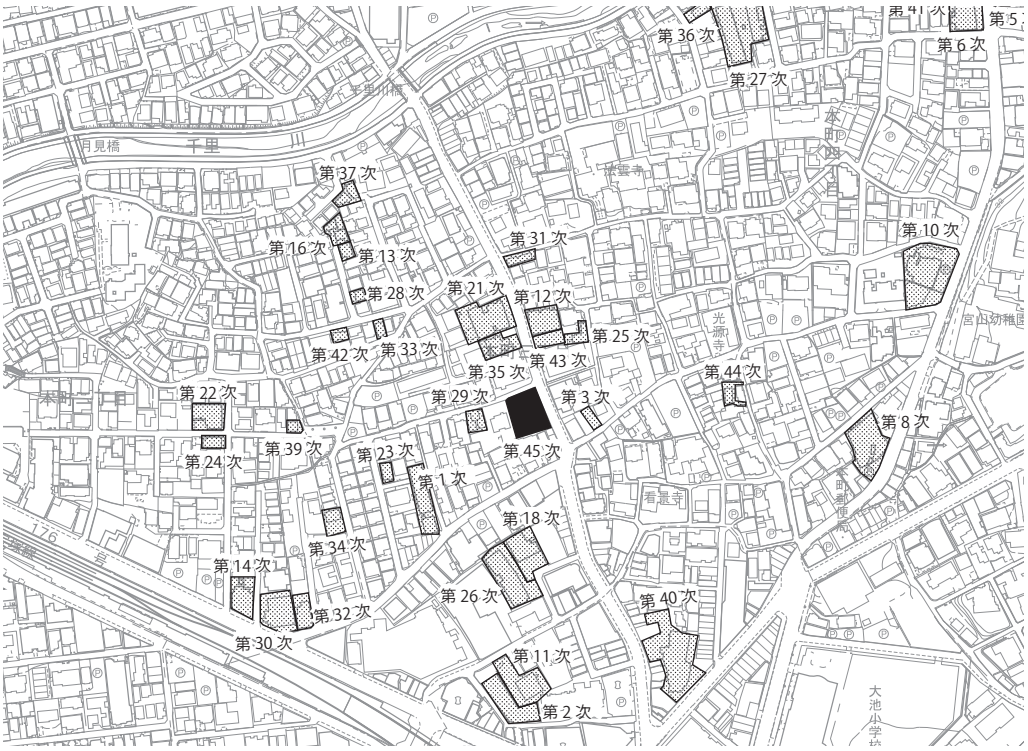
1．調査の経緯



第 14 図　調査範囲図（1：400）

今回の調査地は、本町 3 丁目 51 に所在する。令和 4 年（2022 年）9 月 9 日に提出された土木工事等による埋蔵文化財発掘の届出に基づいて、11 月 11 日に確認調査を実施したところ、地表下 45cm から 80cm で遺物包含層または遺構埋土と考えられる黒褐色土層を検出し、地表下 85cm から 120cm で基盤層とその上面より明確な遺構を検出した。一方、予定建物建築に伴う掘削深度は地表下 90cm に達し、改良工事は地表下 7m まで達することから、現行の計画の場合、遺構の破壊は免れないことが判明した。このことについて事業主と協議の結果、建築計画に変更はなく、よって緊急の本発掘調査を実施することになった。現地調査は令和 4 年（2022 年）12 月 22 日から令和 5 年（2023 年）3 月 31 日にかけて場内反転による調査を実施し、調査面積は 415.0 ㎡である。なお前半調査区の調査終盤に報道発表を行い、2 月 12 日に現地説明会を開催したところ、1,800 名もの参加があった。

2．調査の成果



第 15 図　調査地位置図（1：5,000）

（1）遺跡の概要

本町遺跡は豊中台地の低位段丘上に広がる、弥生時代中期から近世にわたる複合遺跡であり、遺跡の範囲は東西約 600m、南北約 900m に及ぶ。本町遺跡の南辺は新免遺跡と接しており、弥生時代および、古墳時代後期における同遺跡の集落は、新免遺跡との関連が強く結びつくものと考えられる。古代には東側に金寺山廃寺が成立しており、古代寺院の母体となる集落になっていたものと思われる。また、近世段階までには新免村の集落が成立しており、近世につづく集落遺構もこれまで第 40 次調査などで確認されている。

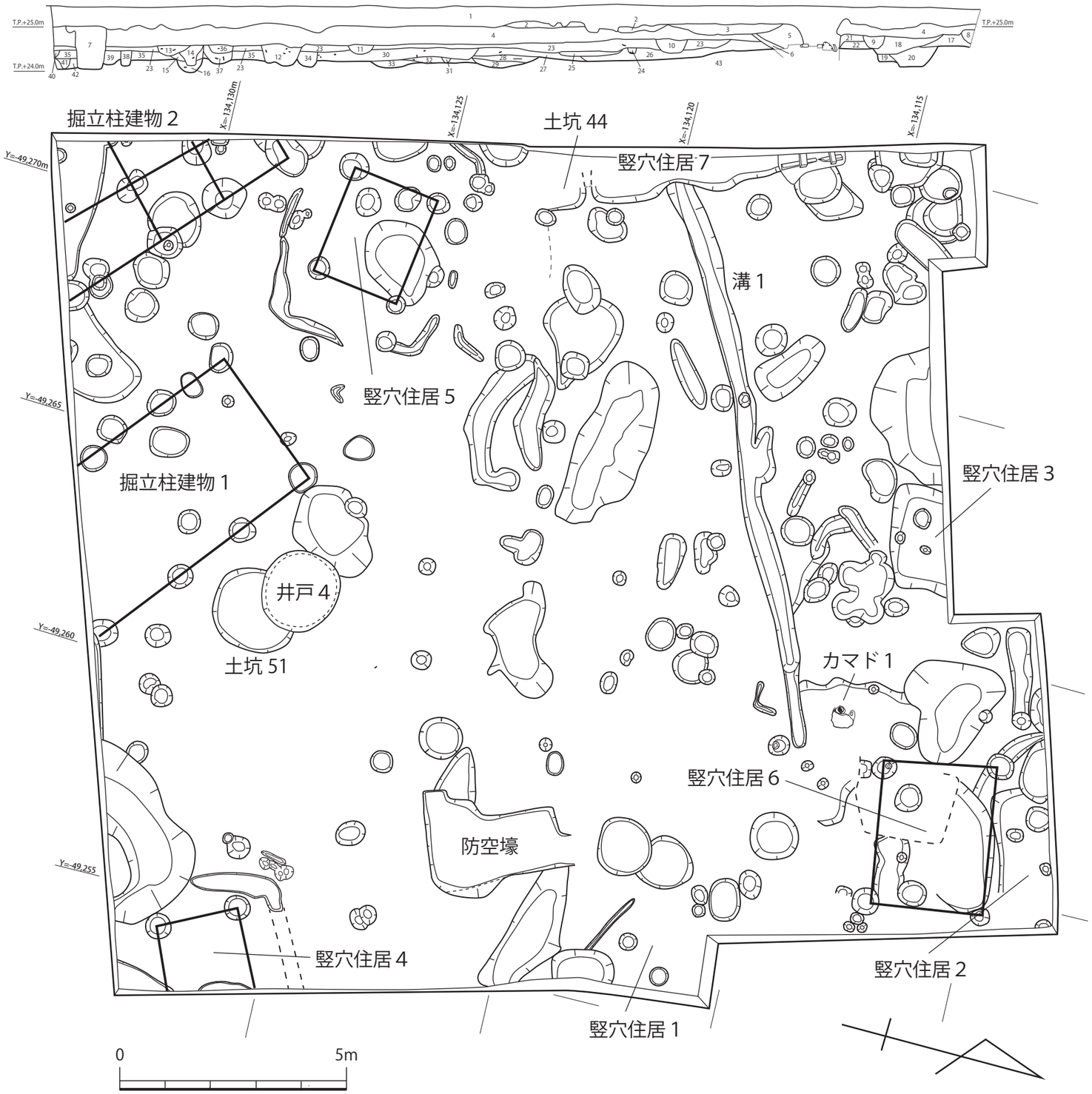
調査地周辺は、遺跡の中でも特に古墳時代後期から奈良時代にかけての遺構が特に集中する範囲にあたる。調査地周囲 100m の範囲内では第 1 次・3 次・12 次・21 次・23 次・25 次・29 次・35 次・43 次調査が過去に行われているが、いずれの調査地でも古墳時代後期の竪穴住居や掘立柱建物などの集落遺構を検出している。第 12 次調査地では溝状遺構の埋土から、焼け歪みを含む多くの須恵器が出土しており、当時期の集落は市北部の桜井谷窯跡群で生産された須恵器を、集積・選別していたことが考えられる。第 29 次調査地では庇付きの大型掘立柱建物が検出されているほか、第 1 次調査地では古墳時代後期の溝状遺構から土馬が出土している（市指定文化財）。飛鳥時代から奈良時代にかけての遺構は古墳時代後期と比較すると減少するが、第 21 次調査地では掘立柱建物を検出しており、集落がこの時期にも機能していたことが考えられる。

（2）基本層序

最上層は現代の盛土層（層厚約 10 ～ 50cm）である。その直下に近世の整地層と思われるにぶい黄色極細粒砂層（層厚約 20 ～ 50cm）が広がっている。今回近世面の調査を実施していないが、近世遺構面は、このにぶい黄色極細粒砂層の上面にあたると思われる。にぶい黄色極細粒砂層の下層は、多くの土器片を含む黒褐色極細粒砂～シルト層（層厚 20 ～ 50cm）が堆積している。黒褐色土層の性格はそのほとんどが遺物包含層ではなく、遺構の切り合いや重複によって堆積した遺構埋土である。調査区北側では層厚 20 ～ 30cm 台であるのに対し、南側では平均で層厚約 50cm 程堆積しており、調査区南半部の層厚が厚い傾向にある。黒褐色土層は上層・下層ともにおおよそ 6 世紀代の須恵器が出土しており、堆積時期も古墳時代後期の範疇に入るものと考えられる。なお、黒褐色土の上面からは飛鳥・奈良時代の遺構が掘りこまれており、飛鳥・奈良時代の遺構面と捉えることができる。黒褐色土層の下層は浅黄色極細粒砂層を中心とする基盤層（洪積層）となる。今回の調査では最大層厚約 50cm の黒褐色土層内の遺構検出を試みたが、識別が困難で調査期間の制約もあり、最終的に基盤層面の最終遺構面まで掘り下げ調査を行った。

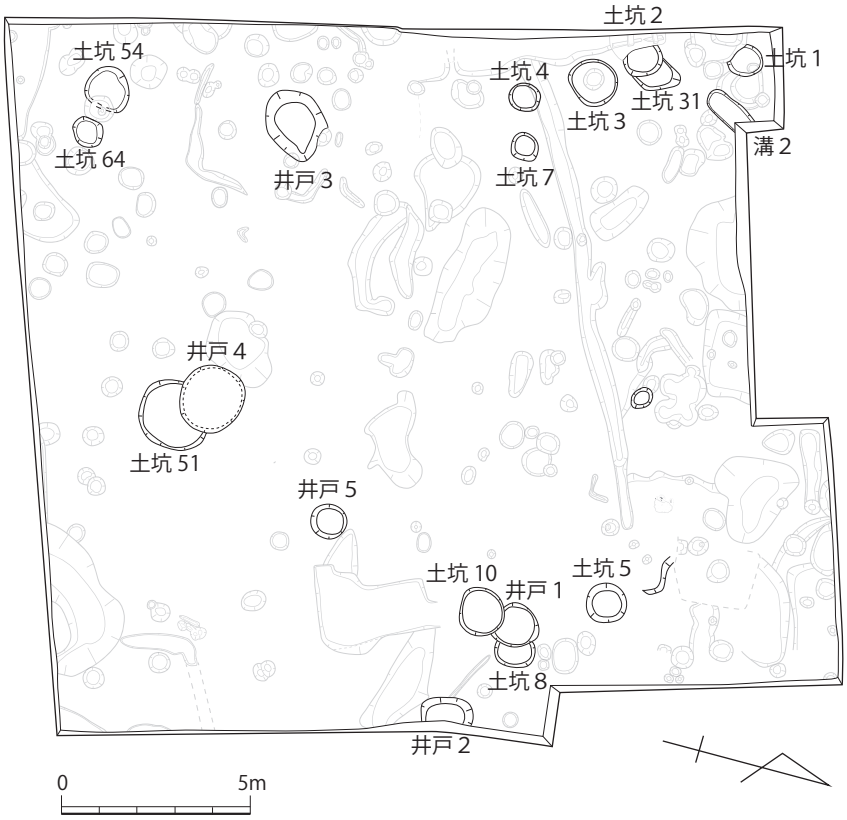
（3）検出した遺構と遺物

検出した遺構の時期はおおよそ近代、近世、飛鳥～奈良時代、古墳時代後期の 4 時期に分けられる。以下時期別に報告する。



1．現代盛土層・攪乱
2．7.5Y6/1 灰色細粒砂～極細粒砂にφ～ 1cm 程の礫および鉄分をわずかに含む 。
3．5Y6/1 灰色極細粒砂～シルトにφ～ 5cm 程の基盤層ブロックや瓦片を多く含む。
4．2.5Y6/4 にぶい黄色極細粒砂（近世整地層）
5．2.5Y6/3 にぶい黄色細粒砂（粗粒砂混じり）にφ～ 1cm 程の礫や瓦片をわずかに含む。
6．10YR4/2 灰黄褐色シルト及び、2.5Y6/3 にぶい黄色極細粒砂が相互に混じり合う。
7．10YR3/3 暗褐色細粒砂～極細粒砂に黒褐色シルトブロックや、φ～ 5cm 程の基盤層ブロックがまばらに混じる。
8．10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂にφ～ 5mm 程の小礫を含む。
9．10YR4/1 褐灰色シルトに 10YR5/2 灰黄褐色極細粒砂ブロックをまばらに含み、φ～ 2cm 程の礫を含む。(ピット埋土）
10. 10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂に土師器片・須恵器片及び、φ～ 5mm 程の小礫がまばらに混じる。【溝 1 埋土】
11. 7.5YR2/2 黒褐色極細粒砂～シルトにφ～ 2cm 程の礫及び、土師器片を含む。（ピット埋土）
12. 7.5YR3/2 黒褐色極細粒砂にφ～ 1cm 程の礫及び、土師器片を含む。【SP181 埋土】
13. 10YR2/2 黒褐色極細粒砂にφ～ 5mm 程の小礫わずかに含み、土師器片がまばらに混じる。（ピット埋土）
14. 7.5YR2/2 黒褐色極細粒砂にφ～ 5mm 程の小礫、基盤層ブロックをわずかに含む。土師器片を含む。【SP140 埋土】
15. 10YR2/3 黒褐色極細粒砂に基盤層ブロックが多く混じる。【SP140 埋土】
16. 7.5YR3/2 黒褐色極細粒砂にφ～ 2cm 程の基盤層ブロック及び、土師器片を含む。【SP140 埋土下層】
17. 10YR3/1 黒褐色極細粒砂にφ～ 5mm 程の小礫、土器をまばらに含む。
18. 10YR3/1 黒褐色極細粒砂～シルトに 10YR5/2 灰黄褐色極細粒砂ブロック及び、φ～ 1cm 程の礫を含む。【土坑 30 埋土】
19. 7.5YR3/1 黒褐色シルトにφ～ 1cm 程の基盤層ブロック及び、土師器片を含む。【土坑 30 埋土】
20. 7.5YR2/1 黒色シルトにφ～ 5mm 程の小礫をわずかに含む。【土坑 30 埋土下層】
21. 7.5YR3/1 黒褐色極細粒砂
22. 10YR4/1 褐灰色極細粒砂にφ～ 5mm 程の小礫や基盤層ブロックが、まばらにかなり多く混じり合う。
23. 10YR3/1 黒褐色極細粒砂に土師器片・須恵器片及び、φ～ 4cm 程の礫が多く混じる。
24. 10YR3/1 黒褐色極細粒砂と 10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂が混じる。底面に土師器あり。（ピット埋土）
25. 10YR3/1 黒褐色極細粒砂に土師器片・須恵器片及び、φ～ 1cm 程の小礫をまばらに含む。
26. 10YR3/1 黒褐色極細粒砂【竪穴住居 7 埋土】
27. 10YR2/2 黒褐色極細粒砂～シルトにφ3cm 程の礫・基盤層ブロックを含む。土師器片・須恵器片を含む。【土坑 44 埋土】
28. 10YR2/3 黒褐色極細粒砂に基盤層ブロックを少量まばらに含む。【土坑 67 埋土】
29. 7.5YR3/1 黒褐色極細粒砂～シルトに少量の基盤層ブロックをまばらに含む。【土坑 67 埋土】
30. 10YR2/2 黒褐色極細粒砂に少量の基盤層ブロックをまばらに含む。【竪穴住居 5 埋土】
31. 10YR2/3 黒褐色極細粒砂【竪穴住居 5 側溝埋土】
32. 10YR2/2 黒褐色極細粒砂にφ～ 2cm 程の礫や基盤層ブロック及び、須恵器片を少量まばらに含む。
33. 7.5YR3/2 黒褐色極細粒砂に基盤層ブロックわずかに含む。土師器片を含む。【土坑 66 埋土】
34. 10YR2/2 黒褐色極細粒砂【SP148 埋土】
35. 5YR2/1 黒褐色極細粒砂～シルトに基盤層ブロックをわずかに含む。
36. 7.5YR2/2 黒褐色極細粒砂にφ～ 2cm 程の礫をわずかに含む。土師器片・須恵器片を含む。【SP141 埋土】
37. 7.5YR2/2 黒褐色極細粒砂～シルトにφ～ 2cm 程の基盤層ブロック及び礫をわずかに含む。【SP141 埋土】
38. 5YR2/1 黒褐色極細粒砂に基盤層ブロックをわずかに含む。【SP139 埋土】
39. 7.5YR2/2 黒褐色極細粒砂に基盤層ブロック・φ～ 1cm 程の礫をわずかに含む。土師器片を含む。【土坑 65 埋土】
40. 10YR2/3 黒褐色細粒砂～極細粒砂に基盤層ブロックがまばらに含む。
41. 5YR2/1 黒褐色シルトにφ～ 2cm までの基盤層ブロックを少量含み、須恵器片を含む。（ピット埋土）
42. 7.5YR3/1 黒褐色極細粒砂～シルトに、少量の基盤層ブロックをまばらに含む。
43. 2.5Y7/3 浅黄色極細粒砂（基盤層）

第 16 図　調査区平面・断面図（1：100）



第 17 図　近世遺構平面図（1：200）

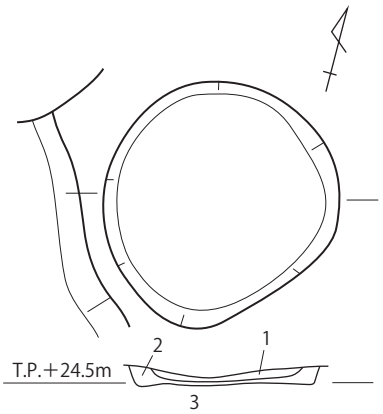
近世

近世の遺構は調査区全域で確認された（第 17 図）。これらの遺構は近世新免村の集落関連遺構と想定される。しかし、これらの近世遺構は黒褐色土層中、または基盤層上で検出されているため、本来は上層の近世整地土層上面が近世遺構面にあたるものと考えられる。以下主な遺構別に報告する。

土坑 3 は調査区北西部において検出した土坑である（第 18 図）。直径約 1m の円形の土坑であり、深度が浅く、底面が平坦になっている。この特徴から、土坑 3 は近世の埋桶遺構の可能性が考えられる。同様の埋桶遺構と考えられる土坑は他にも、土坑 1 や土坑 2 があり、調査区北西部では複数の埋桶が存在していたものと考えられる。土坑 3 からは第 21 図 3 の遺物が出土している。土師質の燈明皿であるが、内面には橙色の施釉が施されている。概ね 19 世紀代の江戸時代後期の所産と思われる。

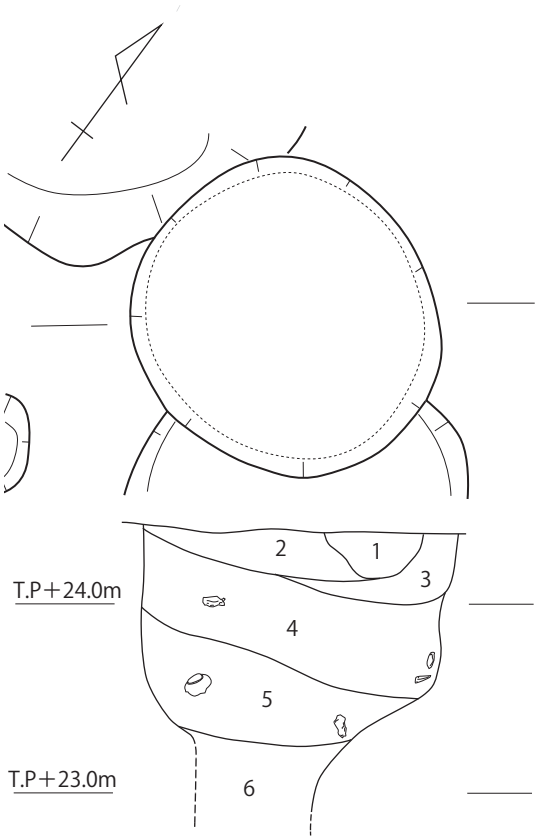
井戸 3 も調査区西部で検出された井戸である（第 19 図）。検出の上面では崩落の影響により 1.7m × 1.1m 程の楕円形を呈しているが、断面図における第 8 層は使用時の幅が比較的残っているため、機能時は幅約 80cm 程度であったと想定される。なお、人力での掘削に限界が生じたため、遺構面より約 1 mまでの掘削に留めたが、以下も続いていくものと考えられる。井戸 3 からは第 21 図 4 の遺物が出土している。瓦質土器の脚付火鉢であり、概ね 18 世紀代の所産と考えられる。

井戸 4 は調査区の南側で検出された井戸である（第 20 図）。検出の上面では崩落の影響により、直径約 1.5m の規模で検出されたが、断面図における 6 層以下では直径が約 60 ～ 70cm であり、使用時の直径は同様の規模であったことが想定される。井戸 3 と同じく、検出面より約 1.5m まで掘り下げたが、崩落の危険があったため以下の掘削を行っていない。井戸 4 では第 21 図 1 ・ 2 が出土している。 1 は口径 6.5cm の小型の椀状陶器であり、底部の 3 方向に小型の脚部と口縁部に 1 か所把



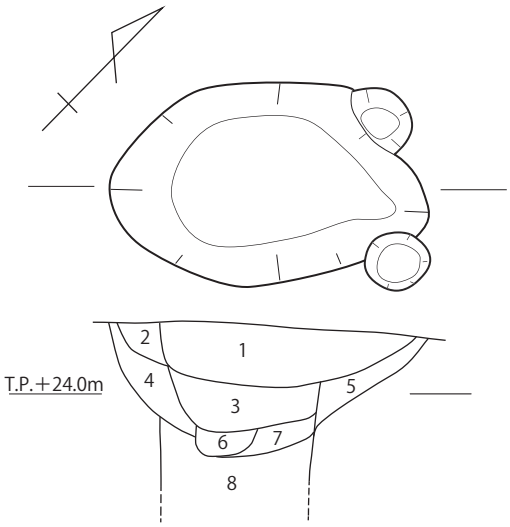
１．2.5Y5/2 暗灰黄色細粒砂に小礫・瓦・陶磁器類を含む。
２．5Y5/1 灰色細粒砂
３．2.5Y3/1 黒褐色シルト（下層遺構埋土）

第 18 図　土坑３平面・断面図（１：40）



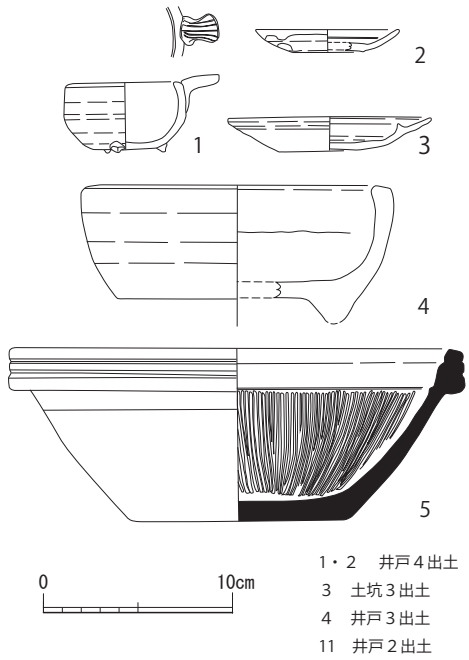
１．2.5Y3/1 黒褐色シルトにφ～ 2cm 程の基盤層ブロックがまばらに混じる。
２．2.5Y8/2 灰白色粗粒砂にφ～ 3cm 程の礫を含む。
３．10YR6/2 灰黄褐色細粒砂にφ～ 4cm 程の黒褐色シルトブロックが混じる。
４．2.5Y5/1 褐灰色粗粒砂にφ～ 10cm 程の礫が混じる。
５．5Y4/1 灰色細粒砂～中粒砂にφ～ 5cm 程の礫を含む。
６．N4/ 灰色極細粒砂

第 20 図　井戸４平面・断面図（１：40）



１．2.5Y5/2 暗灰黄色極細粒砂に土師器片わずかに含む。
２．2.5Y5/1 黄灰色細粒砂に土師器片わずかに含む。
３．2.5Y6/2 灰黄色極細粒砂～シルトに炭化物わずかに含む。
４．2.5Y4/2 暗灰黄色細粒砂に炭化物わずかに含む。
５．10YR5/2 灰黄褐色細粒砂にφ～ 3cm 程の礫を含む。
６．10YR6/1 褐灰色中粒砂に鉄分を含む。
７．10YR5/1 黄灰色細粒砂に鉄分を含む。
８．5 Y6/1 灰色細粒砂に鉄分を含む。

第 19 図　井戸３平面・断面図（１：40）



第 21 図　近世出土遺物（１：４）

手がつく。把手の上面には沈線が 5 本引かれており、形状からも魚の尻尾を模しているものと思われる。回転ヘラケズリとロクロナデにより成形されており、外面の上半及び内面には褐色の釉薬が施されている。2 は土師器の皿であるが、外面の一部及び内面には橙色の釉薬がかかる。復元口径 7.7cm と小型で、底部には糸切り痕が残る。これらの特徴から 18 世紀後半から 19 世紀前半の江戸時代後期頃のものと想定される。そのほか図化していないが、肥前系の磁器など多数の近世遺物が出土している。

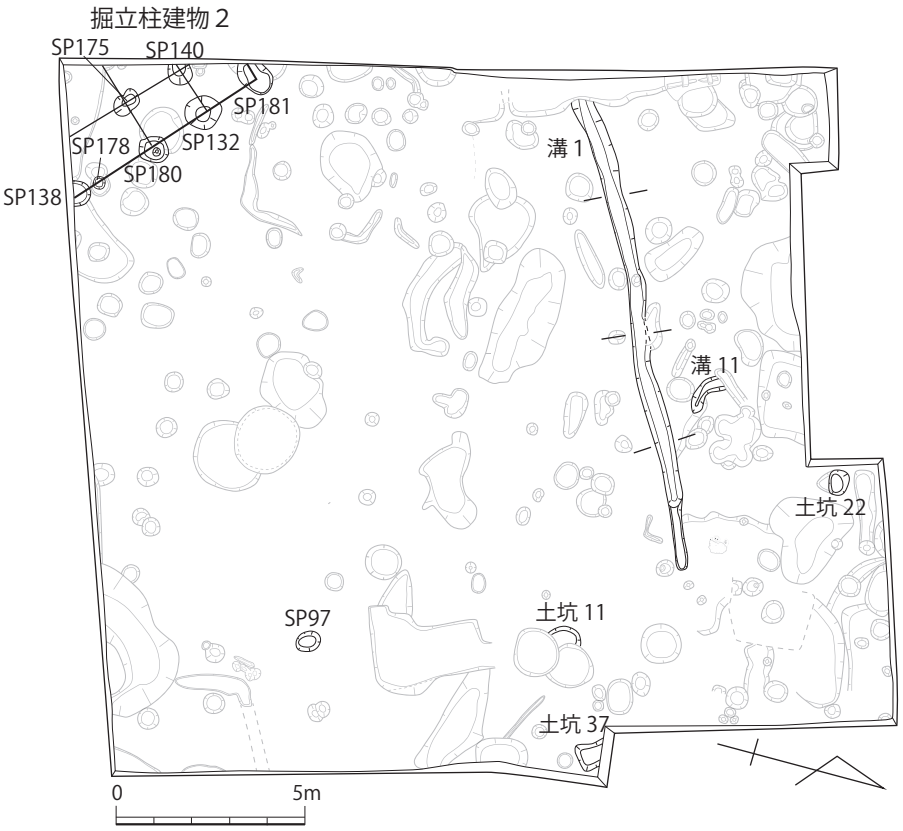
井戸 2 は調査区東側で検出した井戸である。埋土上層からは昭和期の 10 円硬貨が出土しており、近現代においても機能していたことが分かる。井戸 2 の下層からは第 21 図 5 のすり鉢が出土している。8 条の単位で摺目が細かく刻まれており、江戸時代後半期の堺焼のすり鉢と考えられる。

今回の調査では近世後半期の遺構が多く検出された。明治初期の地形図には当調査区の東側を通る能勢街道及び、新免村の集落が描かれているが、当調査区は新免村の集落域のなかでも縁辺部に位置している。近世新免村の成立期は不明な点が残るが、当調査区が集落域となったのは 18 世紀後半以降になるものと考えられる。

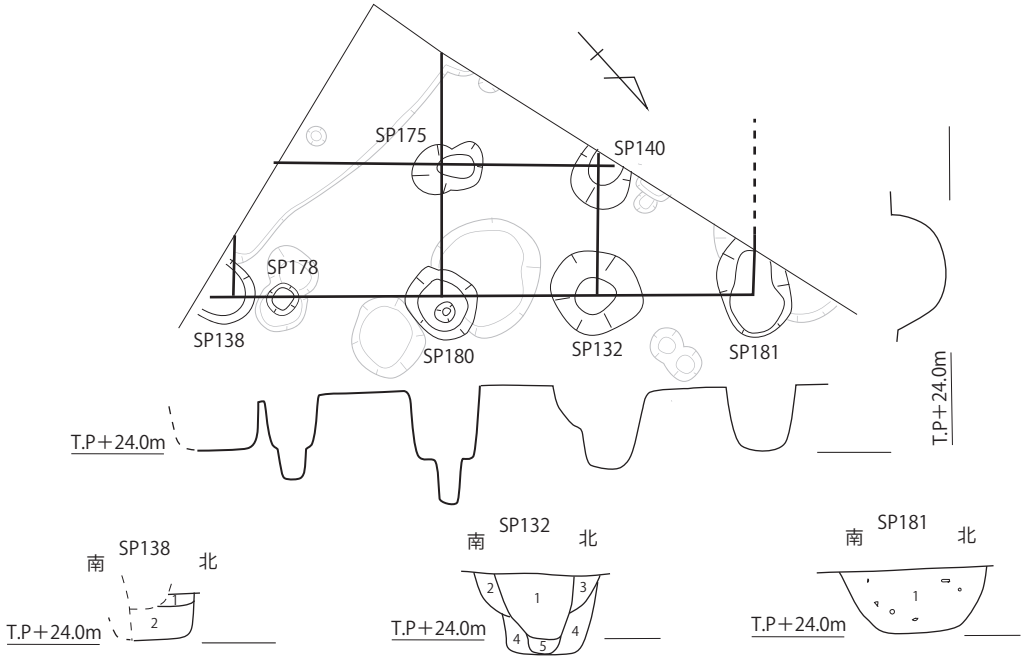
飛鳥時代～奈良時代

飛鳥時代から奈良時代における遺構面は、黒褐色土層上面である。今回の調査では掘立柱建物 1 棟、溝状遺構、土坑・ピットを検出している（第 22 図）。重機掘削時に黒褐色土層の中間部まで掘り下げを行ったため、未検出となってしまった遺構も多く存在するものと考えられる。黒褐色土層の掘削の際には未検出となってしまった遺構からの遺物が多く出土している（第 25 図 1 ～ 6）。第 25 図 1 は調査区西側の黒褐色土層中から出土した須恵器のいわゆる鉄鉢形の鉢であり、金寺山廃寺との関連性が疑われる。第 25 図 2 は調査区東側の黒褐色土層の上層部で出土した須恵器の坏 H 身であり、6 世紀末から 7 世紀初頭の所産と考えられる。第 25 図 3 ・ 4 は須恵器の坏 G 身及び蓋である。3 の蓋は調査区中央の黒褐色土層中から出土した。4 の身は調査区南西側の黒褐色土層内から出土している。両個体とも 7 世前半から中頃の範疇におさまるものと考えられる。第 25 図 5 ・ 6 は須恵器坏 B の身である。5 は調査区中央の黒褐色土層上層から出土し、高台の形状から 7 世紀末から 8 世紀初頭頃の所産と考えられる。6 は調査区南西側の黒褐色土層中から出土し、8 世紀代の所産と考えられる。以下、検出した遺構別に報告する。

掘立柱建物 2 は調査区南西隅で検出した総柱の掘立柱建物である（第 23 図）。南から SP138・SP180・SP132・SP181・SP140・SP175 の柱穴を検出したが、建物の範囲は調査区の外側に向かっていくものと思われるため、全容は把握できなかった。今回の調査では 3 間分の柱列を確認しているが、1 間あたりの長さは約 1 m である。掘立柱建物 2 の柱穴からは第 25 図 7 ～ 10・12 の遺物が出土している。7 は SP181 から出土した須恵器坏 G 蓋であり 7 世紀中頃から後半期の所産と考えられる。12 も SP181 から出土した須恵器の高坏の坏部と思われる個体である。第 25 図 8 は SP178 から出土した須恵器坏 G 蓋である。SP178 は掘立柱建物 2 の軸上にあたるピットであり、補完の役割のあった遺構の可能性がある。8 の坏 G 蓋も 7 と同様に 7 世紀中頃から後半の所産と考えられる。第 25 図 9 も SP178 から出土した坏 G 身であり、7 世紀中頃から後半と思われる。第 25 図 10 も SP178 から出土した土師器鍋の把手である。これらの遺物から掘立柱建物 2 は 7 世紀中頃から後半期にかけて機能していたものと考えられる。この掘立柱建物 2 だが、今回調査地の西側、宅地 1 件



第 22 図　飛鳥～奈良時代 遺構平面図（1：200）



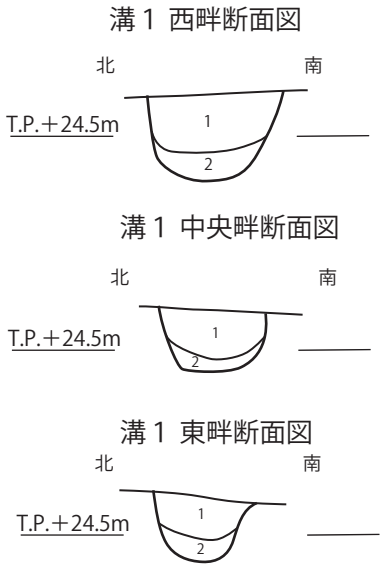
1．7.5YR3/1 黒褐色極細粒砂にφ1 ～ 5cm 程の基盤層ブロックがまばらに混じる。
2．7 .5 YR3/1 黒褐色シルトにφ～ 1cm 程の基盤層ブロックがわずかに混じる。

1．10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂にφ～ 4cm 程の黒褐色シルトブロック、基盤層ブロック、土器片がまばらに混じる。
2．2.5Y3/3 暗オリーブ褐色極細粒砂にφ～ 2cm 程の基盤層ブロック、土器片含む。
3．10YR3/1 黒褐色シルトに基盤層ブロックが 60% 含む。
4．10YR4/1 褐灰色極細粒砂にφ～ 2cm 程の基盤層ブロックがまばらに混じる。
5．5YR2/1 黒色シルトにφ～ 5mm 程の基盤層ブロックを含む。

1．10YR3/2 黒褐色シルトに多数の土器片とφ～ 2cm 程の礫を含む

第 23 図　掘立柱建物 2 平面・断面図（1：50）

を挟んだ先で実施されている本町遺跡第 29 次調査で検出された、大型掘立柱建物と方位が一致している。本町遺跡第 29 次調査で検出された大型掘立柱建物は柱穴が直径 1 mを越える庇付きの建物で、古墳時代の豪族居館として概要が報告されている（豊中市教育委員会 2006）。今回の掘立柱建物 2 は 7 世紀中頃から後半であり、柱穴の規模も大規模なものとは言えないが、建物の方位が一致していることから、一連の建物群としての性格が十分に考えられる。



1．10YR3/2 黒褐色極細粒砂にφ15cm 程の基盤層ブロックが混じる。土師器片・須恵器片を約 3% 含む。
2．10YR2/1 黒色極細粒砂～シルトにφ1.5cm 程の牙層ブロック及び、土師器片を含む。

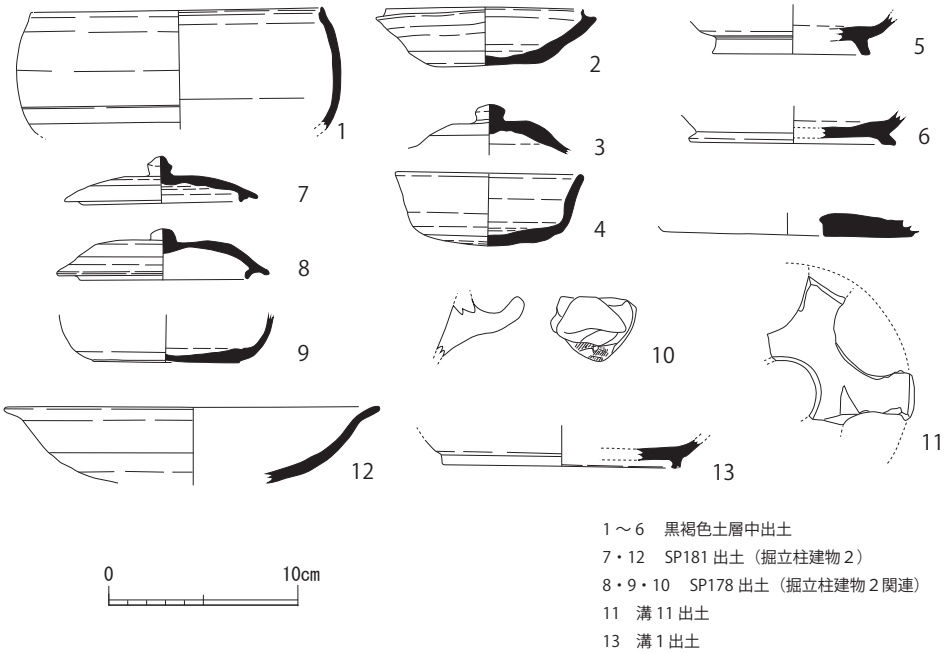
第 24 図　溝 1 断面図（1：40）

溝 1 は調査区の東西をはしる溝状遺構である（第 24 図）。途中で途切れているが、これは削平をうけているからであり、本来はさらに東へと伸びていたものと考えられる。東端近くで溝は一段上がっており、削平を受けている東側は西側に比べやや高くなると思われる。溝の深さは検出面より最大で 50 ㎝ほどあり、断面は「U」字状を呈している。溝 1 からは第 25 図 13 の須恵器坏 B 身が出土している。高台の特徴から、溝 1 も 8 世紀代に機能していたと考えられる。

溝 11 は調査区北側の小規模な溝である。図化していないが、7 世紀代と思われる須恵器坏 G が出土している。また、溝 11 からは古墳時代後期のものと考えられる、第 25 図 11 の須恵器の甑が出土している。

古墳時代後期

地表下 45cm から 120cm の範囲で、層厚 20 ～ 50 ㎝ほど堆積している黒褐色土層は、調査区内の全域に堆積しているが、遺物包含層ではなく、各遺構埋土の切り合いによって堆積しているものである。この黒褐色土層だが、上層・下層ともに 6 世紀前半から後半にかけての須恵器が出土しており、長く見積もっても 6 世紀代の約 100 年の間に堆積したことになる。黒褐色土層内は各遺構埋土が切り合っており、急激な開発が 6 世紀代に行われたことを示している。また調査区北側は堆積が薄いのに対し、南側にかけて厚くなる傾向がある。これは、もともと南側に存在した浅い谷状地形に遺構埋土が堆積していった結果のものと考えられる。黒褐色土層内におさまる遺構面調査が行えなかったため、第 26 図の古墳時代後期の遺構平面図は基盤層上で検出にいたった遺構を表記している。なお黒褐色土層中におさまる遺構は、検出が困難であったことを表記しておきたい。第 33 図 9 ~18 は黒褐色土層内から出土した遺物である。第 33 図 9 ・10・11 は須恵器の坏蓋、12・13 は須恵器の坏身、14・15 は須恵器の高坏脚部、16 は須恵器の瓶、17 は須恵器の用途不明の碗状品、18 は須恵器の甑である。6 世紀中頃の遺物が多いが、6 世紀後半期の遺物もみられる。後述



第 25 図　飛鳥～奈良時代関連遺構　出土遺物（1：4）

する基盤層面の遺構は 6 世紀前半のものが多いため、黒褐色土層中の遺構は 6 世紀中頃から後半期のものが多い可能性がある。

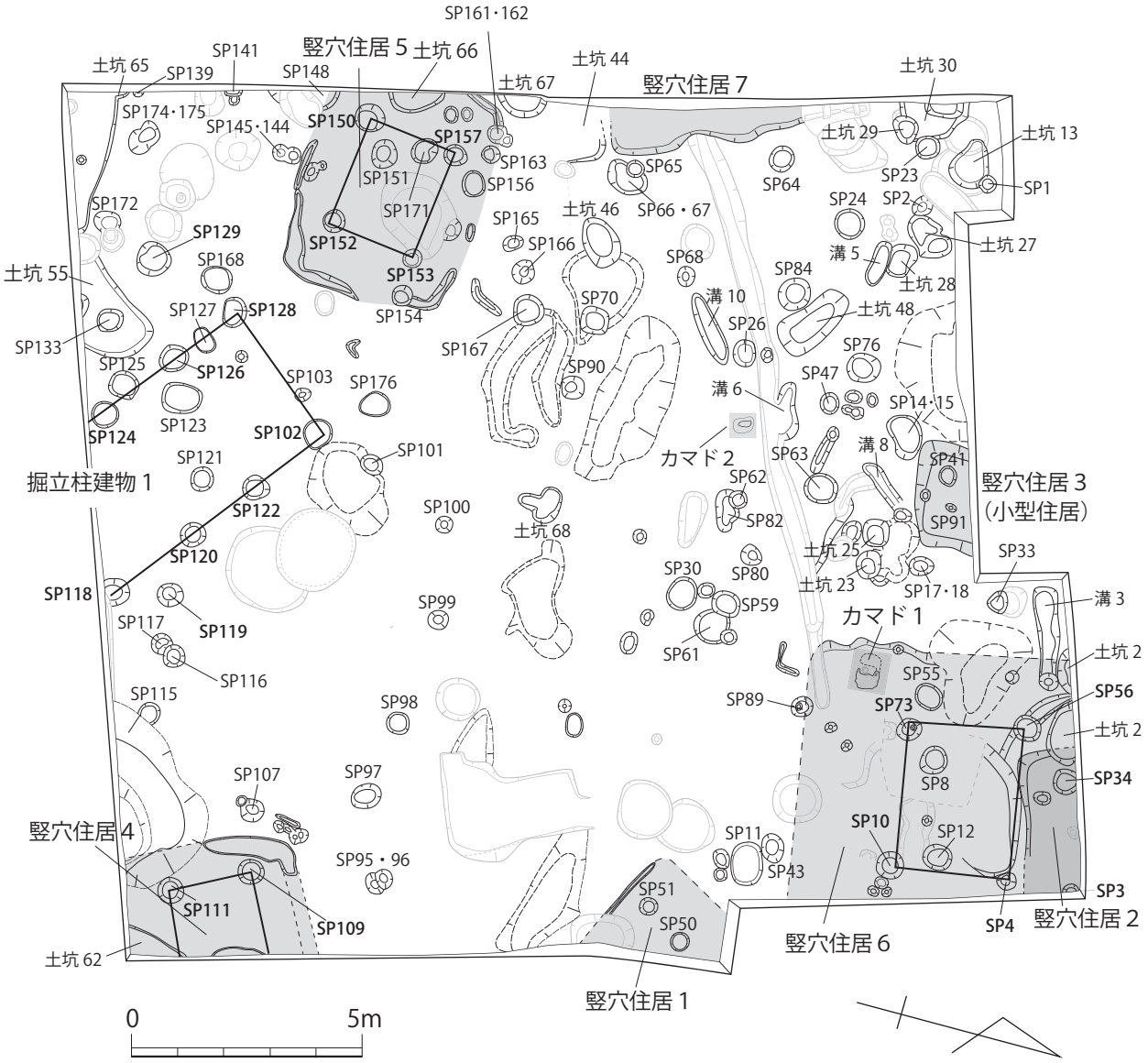
第 26 図の基盤層上の遺構は竪穴住居が 9 棟（住居跡が不明瞭なカマド遺構を含む）、掘立柱建物が 1 棟、その他小土坑やピットが検出された。また、第 26 図の点線で囲われた複数の不定形土坑状遺構は倒木痕である。検出面での輪郭は比較的明瞭だが、土器片がほとんど入ることなく、基盤層との境界も不明瞭である。同様の倒木痕は隣接地である本町遺跡第 43 次調査でも確認されている（陣内 2017）。今回の調査では 11 か所の倒木痕を確認している。自然的に倒木したものか、人為的なのかは不明瞭であるが、倒木痕の上面に遺構が成立しているため、倒木後に各遺構が形成されていった様子がわかる。以下、主要な遺構別に報告する。

竪穴住居 1 は調査区東側で検出した方形の竪穴住居である。側溝一辺がわずかに確認されたのみであり、一辺 3 m以上あるのは確実であるが、正確な規模は不明である。遺物の出土は無かったが、層位的に 6 世紀代であるのは間違いないだろう。

竪穴住居 2 は調査区北東で検出した方形の竪穴住居である。住居内の SP34 及び SP3 が主柱穴と考えられる（第 27 図）。部分的な検出で正確な規模は不明だが、SP34・SP3 の距離を考えると一辺約 4 m程の竪穴住居になるものと考えられる。図化できていないが、竪穴住居 2 埋土の出土遺物から、6 世紀中頃の竪穴住居と思われる。

竪穴住居 3 は調査区北側で検出した方形の竪穴住居である。一辺が約 3.5m とかなり小型な遺構であるため、小屋的な建物であったと想定したい。図化できていないが、竪穴住居 3 の埋土からは 6 世紀前半の土器が出土しており、当該期に機能していたとみて間違いないだろう。

竪穴住居 4 は調査区南東部で検出した方形の竪穴住居である。SP111 及び SP109 が主柱穴と考えられる（第 28 図）。また部分的ではあるが北西部の側溝を検出している。それぞれの距離から、一辺約 4 m程の竪穴住居になるものと考えられる。出土遺物はなかったが、層位的に 6 世紀代の竪穴

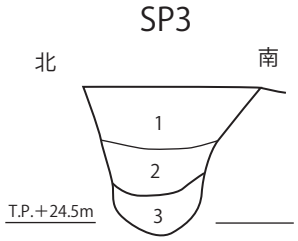


第 26 図　古墳時代後期遺構　平面図（1：150）

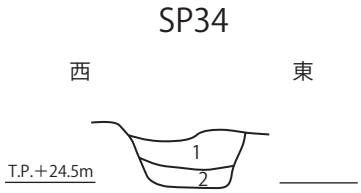
住居と考えられる。

竪穴住居 5 は調査区西側で検出した方形の竪穴住居である。主柱穴 4 基を検出したほか、今回の調査で唯一側溝の全周を検出できた住居である。側溝から南北約 4 m×東西約 5 mの竪穴住居であることがわかる。SP150・SP157・SP152・SP153 が竪穴住居を構成する主柱穴であり、主柱穴間は約 2 mである（第 29 図）。SP150 や SP152 からは 6 世紀前半から中頃にかけての須恵器が出土していることから、竪穴住居 5 はおおよそ 6 世紀第二四半期頃に機能した住居であると考えられる。

竪穴住居 6 は調査区北東側で検出した方形の竪穴住居で、竪穴住居 2 と一部切り合っている。主柱穴 4 基を検出したほか、竪穴の落ち込みラインとみられる基盤層の落ちを西側の一部で確認した。落ち込みラインより復元すると、一辺約 7.5 m程の竪穴住居になると思われる。SP73・SP56・SP4・SP10 がそれぞれ主柱穴となっており、主柱穴間は南北 2.5 m×東西 3m である（第 30 図）。竪穴住居 6 の直接的な遺構からの遺物の出土はなかったが、住居の想定範囲内の黒褐色土内の土器は 6 世紀前半から中頃にかけてのものが主体を占めているため、竪穴住居 6 の時期もその範疇におさま

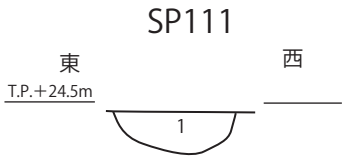


１．7.5YR3/2 黒褐色極細粒砂にφ～ 1cm 程の小礫を含む。土器片を少量含む。
２．7.5YR3/2 黒褐色極細粒砂にφ～ 2cm 程の小礫を含む。土器片をほとんど含まない。
３．7.5YR4/1 褐灰色細粒砂～極細粒砂にφ～ 2cm 程の小礫及び、基盤層ブロックを含む。

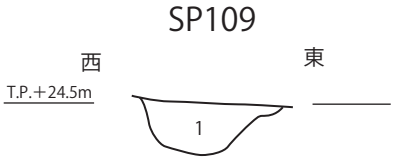


１．10YR3/1 黒褐色極細粒砂にφ1cm 程の基盤層ブロックと土器片を含む。
２．10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂～シルトにφ2.5cm 程の基盤層ブロックを多く含む。

第 27 図　竪穴住居 2 柱穴断面図（1：30）

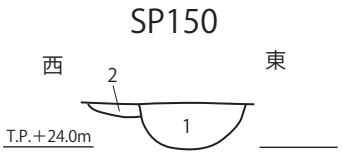


１．2.5Y2/1 黒色シルトにφ～ 3cm 程の基盤層ブロックをまばらに含む

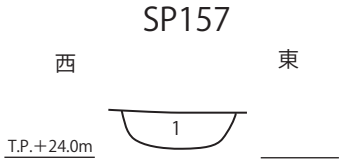


１．10YR3/1 黒褐色極細粒砂に基盤層ブロックが 50% 相互に混じり合う。

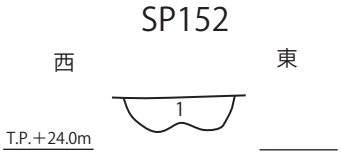
第 28 図　竪穴住居 4 柱穴断面図（1：30）



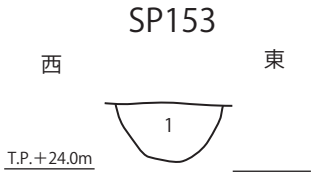
１．2.5Y3/1 黒褐色極細粒砂～シルトにφ～ 3cm 程の基盤層ブロックがまばらに混じる。
２．2.5Y3/2 黒褐色極細粒砂にφ～ 10cm なでの基盤層ブロックが約 30% 混じる。



１．7.5YR3/1 黒褐色極細粒砂にφ0.5 ～ 4cm 程の基盤層ブロックがまだらに混じり合う。



１．10YR3/1 黒褐色極細粒砂にφ～ 7cm 程の基盤層ブロック、須恵器片を含む。

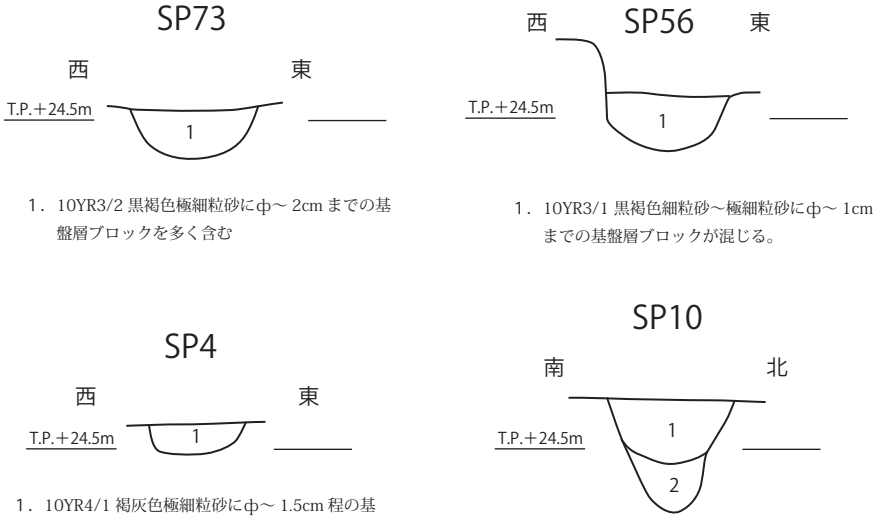


１．7.5YR3/1 黒褐色極細粒砂にφ1 ～ 5cm 程の基盤層ブロックをまばらに含む。

第 29 図　竪穴住居 5 柱穴断面図（1：30）

るものと考えられる。

竪穴住居 7 は調査区西側で検出した方形の竪穴住居である。調査区西端での検出遺構であったため、主柱穴等は確認できていないが、一辺 5 m程度の方形の落ち込みになると思われることから、竪穴住居と推定した。なお、南側の落ち込み遺構である土坑 44 も竪穴住居となる可能性がある。第 19 図の西壁面図では竪穴住居 7（26 層）が土坑 44（27 層）を切っているが、両遺構の埋土ともに酷似



第 30 図　竪穴住居 6 柱穴断面図（1：30）

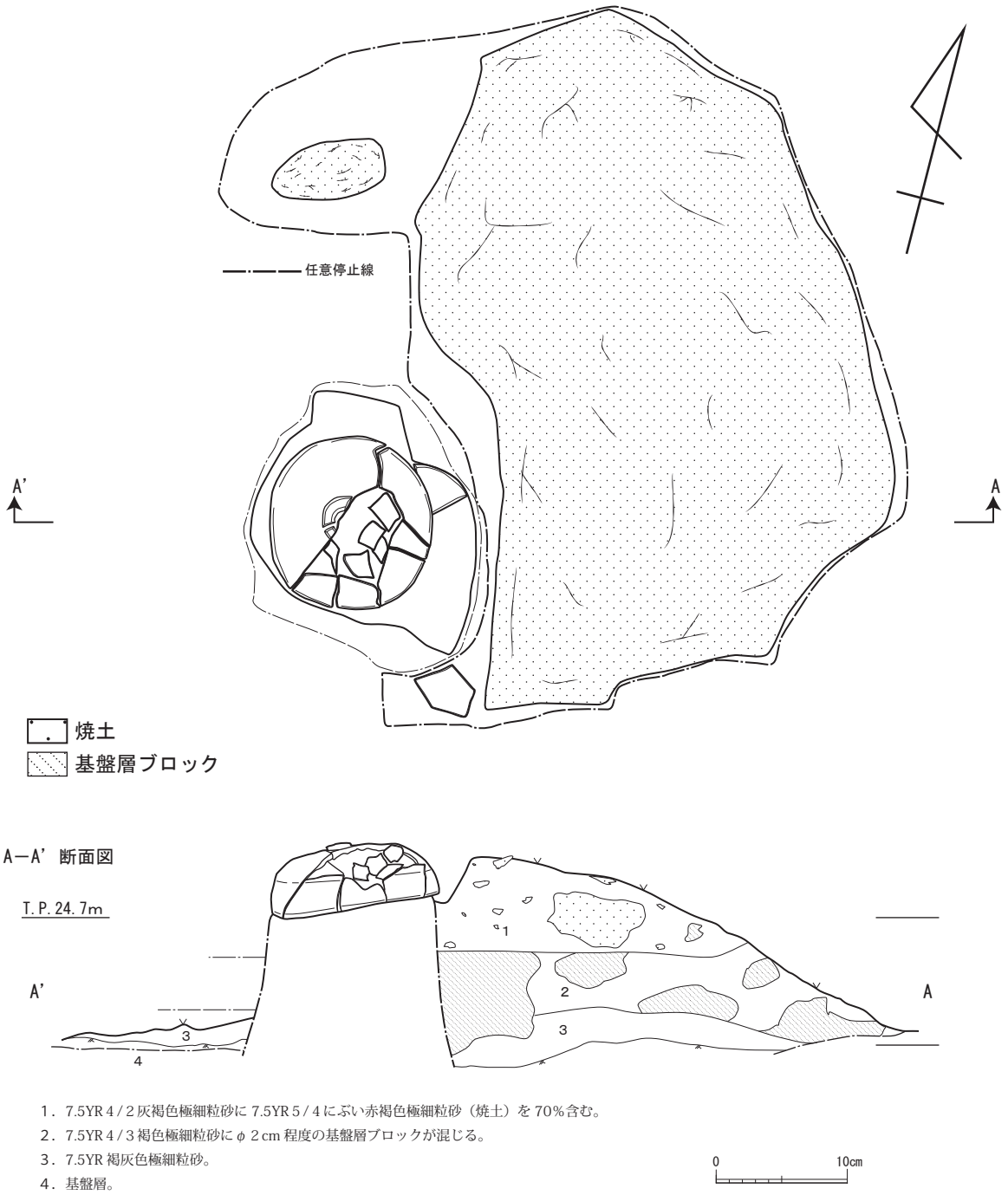
しており再検討の余地がある。出土遺物はないが、層位的に 6 世紀代のものと考えられる。

カマド 1 は調査区北側で検出したカマド遺構である（第 31 図）。いずれかの竪穴住居に伴うカマドであることは確実だが、黒褐色土層の複雑な切り合いがあり、残念ながらこのカマドの属する竪穴住居を特定できなかった。カマド 1 は焼土塊が「L」字状に検出され、中央には支脚となる須恵器の高坏が倒立の状態で検出された。しかし、周辺の調査成果から本来は「L」字状ではなく「コ」の字状になるものと思われ、西側の焼土塊は削平を受けているものと考えられる。よって焚口は南側に存在したものと思われる。このことから、カマド 1 は方向軸的に竪穴住居 6 に伴うものではないことがわかる。第 33 図 1 は支脚として使用された須恵器の高坏である。カマドとしての二次的な使用が行われているため、被熱を受けており、やや軟質化している。この高坏は 6 世紀中頃のものと考えられ、カマドも当該期に使用されていたものと考えられる。

カマド 2 は調査区中央北寄りで検出された焼土塊の遺構である。カマド 1 のように支脚となる土器などは検出できなかったが、焼土の状況からカマド遺構の一部であることは確実と思われる。カマド 1 と同様に、このカマド遺構に伴う竪穴住居は特定できなかった。

掘立柱建物 1 は調査区南端で検出された掘立柱建物である（第 32 図）。一部は調査区外に外れるため全容は把握できなかったが、1 間× 3 間以上となる。南西・北東方向の 1 間は約 3 m、南東・北西方向の 1 間は約 2 m であり、SP128・SP126・SP124・SP118・SP120・SP122・SP102 の柱穴によって構成されている（第 32 図）。第 33 図 2 は SP118 から出土した須恵器の坏身であり、6 世紀前半頃の所産と思われる。また他の柱穴でも 6 世紀前半から中頃の須恵器が出土しており、なかでも 6 世紀前半期の数量が多いことから、6 世紀第一四半紀ごろに機能していたと考えられる。

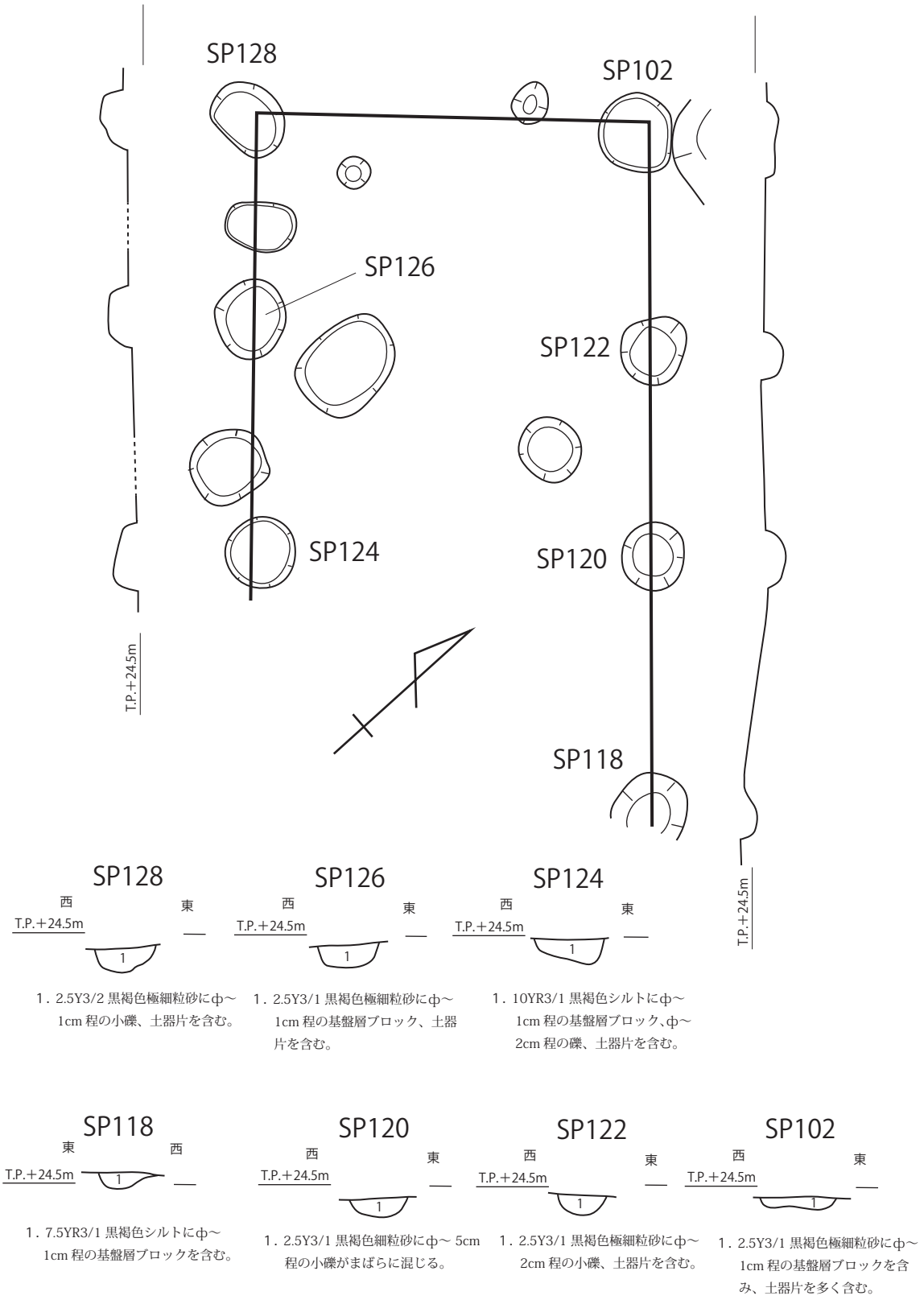
そのほか建物や柱列の復元はできなかったが、調査区南側の SP123・SP119・SP129 からも遺物が出土している。第 33 図 3 は SP123 から出土した須恵器の坏身である。第 33 図 4・5・6 は SP119 から出土しており、 4 ・ 6 は須恵器の坏身、 5 は須恵器の坏蓋である。第 33 図 7 ・ 8 は



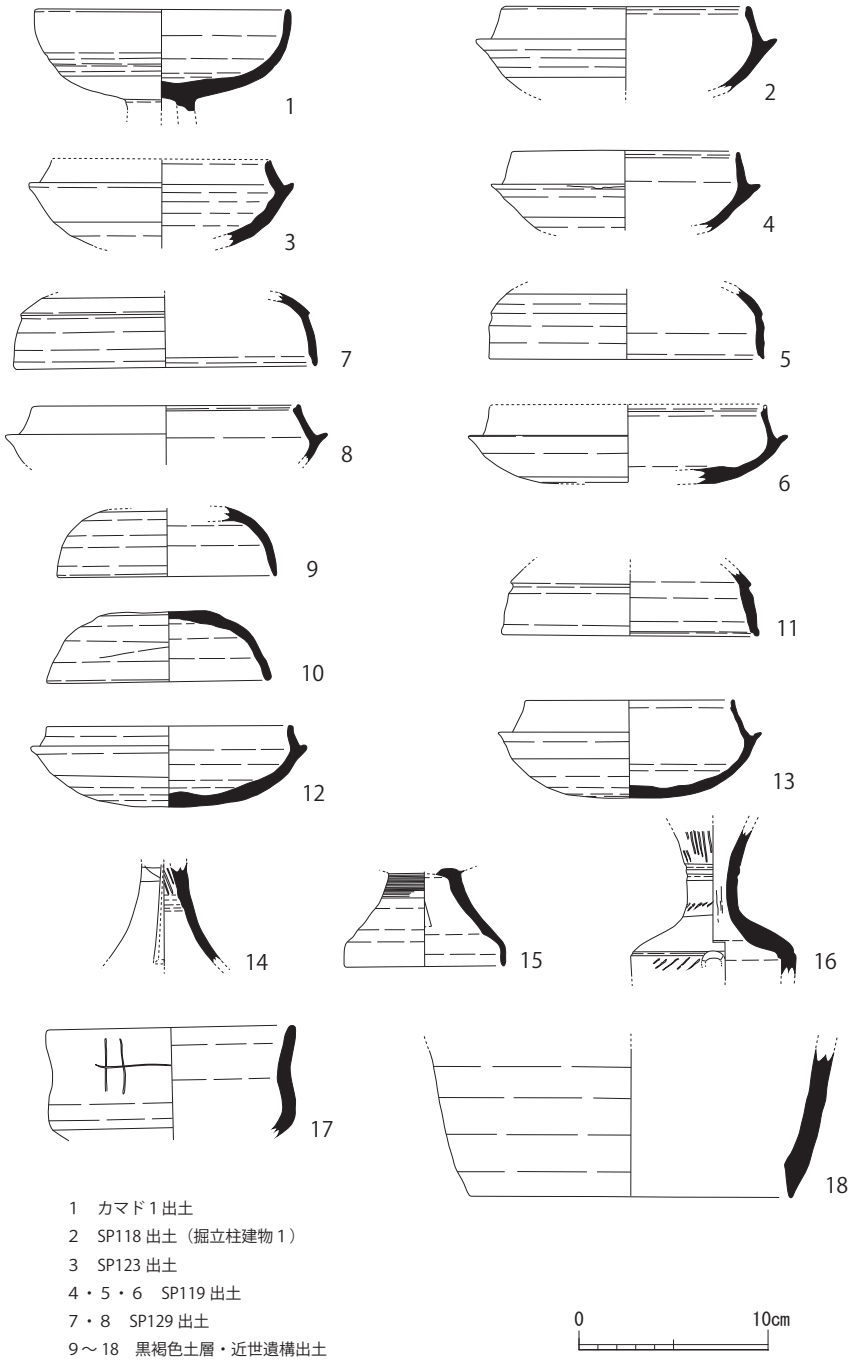
第 31 図　カマド 1 平面・断面図（1：5）

SP129 から出土した遺物で、７は須恵器の坏蓋、８は須恵器の坏身である。これらの出土遺物は概ね 6 世紀前半から中頃にかけてのものであり、調査区の南側の基盤層面ではこの時期に活発な活動が行われているようである。

また遺構は検出していないが、調査区全体を通して弥生土器片の混入がわずかに認められる。本町遺跡は弥生時代中期から終末期にかけて盛行する新免遺跡に隣接しており、調査地は新免遺跡から派生するのムラの縁辺部であった可能性がある。しかし、6 世紀代の大規模な開発活動によって、弥生時代の遺構は削平を受けたものと考えられる。



第 32 図　掘立柱建物 1 平面・断面図（1：50）

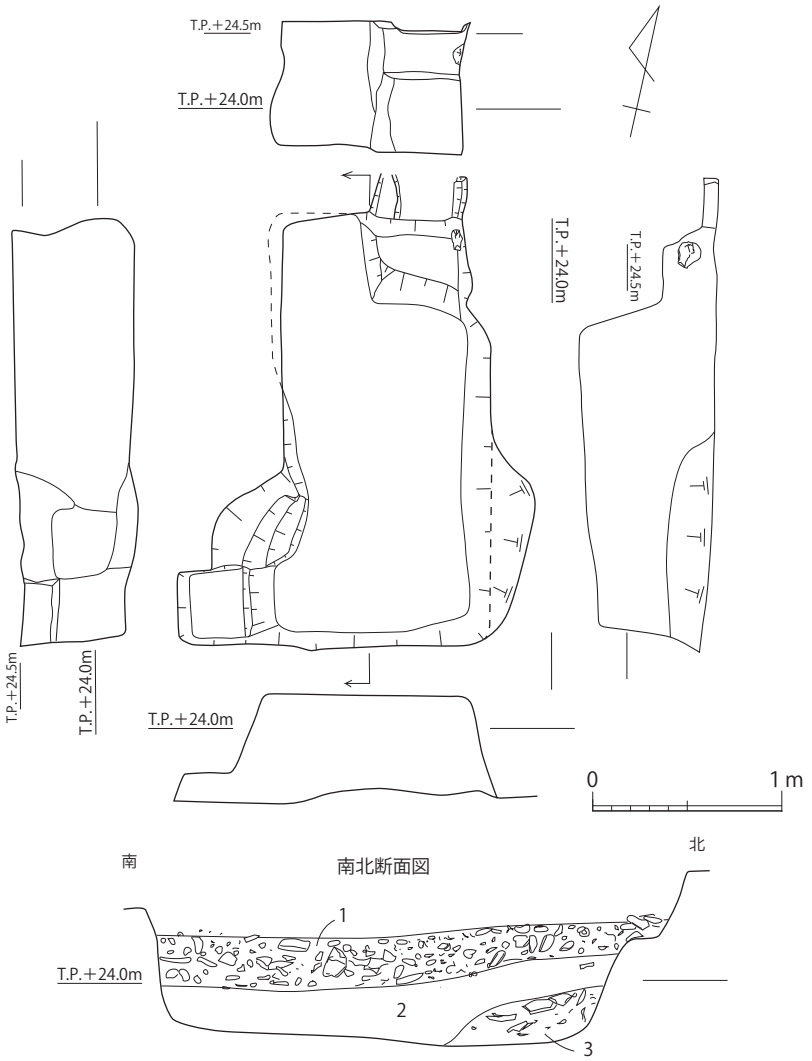


第 33 図　古墳時代後期 出土遺物（1：4）

近代（第二次世界大戦時）

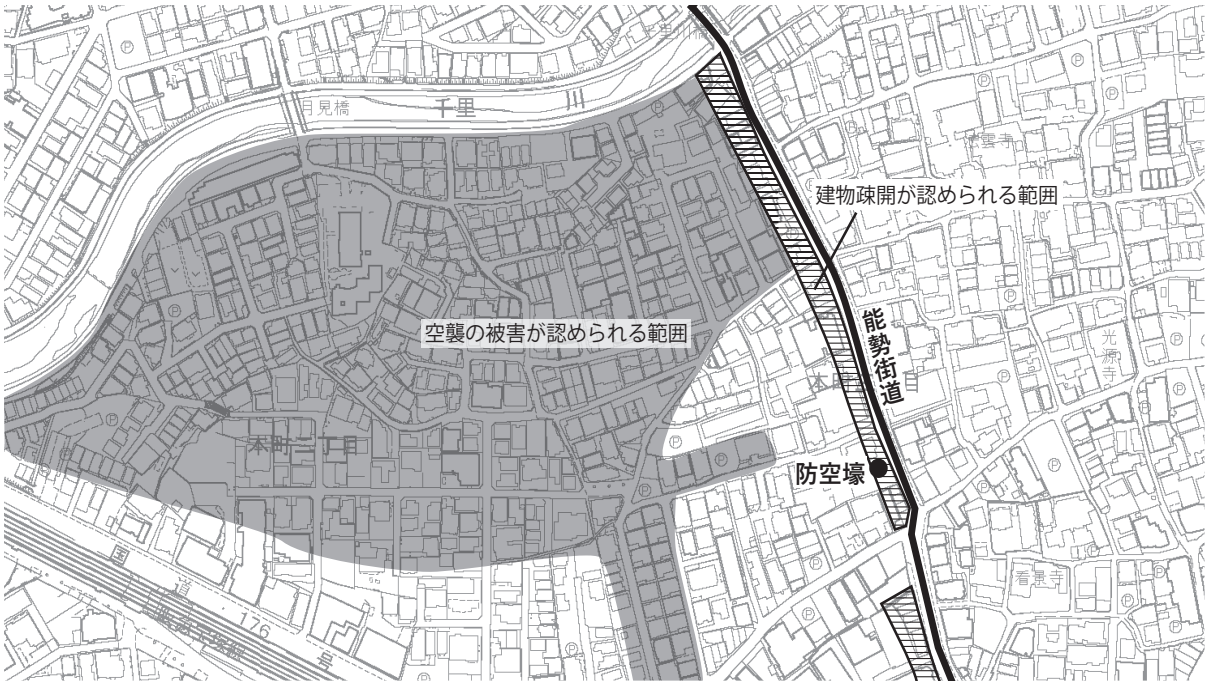
今回の調査では第二次世界大戦時に掘削された防空壕を 1 基検出した（第 34 図）。以下、この検出した防空壕について報告したい。防空壕は調査区の東側で検出した素掘りの地下室で、北側・西側にそれぞれ階段が設けられており、出入りできるようになっている。調査時点での防空壕は深さが 70cm ほどであったが、基盤層面での調査であったため、本来はもう少し高さがあり、階段も数段あったものと考えられる。地下室の平面は約 1 m× 2 mの約 2 ㎡の床面積で、最大で大人 5 人程度の収容面積であったと考えられる。

今回検出した防空壕は土地所有者が実際に入った経験をお持ちであったため、調査期間中聞き取り調査を実施した。この防空壕は所有者宅の庭に存在していたようである。北側の階段は家屋側へ、西側の階段は長屋門側につながっていたとのことである。所有者は第二次世界大戦時、国民学校の高学年であったらしく、３～４人の家族で生活していたとの話が聴取できた。よって、調査成果と合わせると、この防空壕は家族３～４人が入れば十分な設計の元、掘削されたようである。豊中市内では昭和 20 年（1945 年）6 月以降複数回の空襲被害にあっており、死者数は 500 人を越えるなど、大阪市・堺市に次ぐ被害にあっている。近接する新免遺跡第 69 次調査では昭和 20 年（1945 年）6 月 7 日に投下された直径約 16m の 500kg 爆弾の爆弾穴が検出されている。本町地区も同日にかなりの被害を受けており、大阪市所蔵の昭和 17 年（1942 年）の航空写真と GHQ 撮影の昭和 22 年から 23 年（1947 ～ 1948 年）の航空写真を比較すると、調査地から 100m 程離れた西側一帯の家屋密集地帯が、焼け野原になっている様子が確認できる（第 35 図）。所有者は戦火が激しくなった頃



1．桟瓦片、一部丸瓦・平瓦（軒丸瓦・軒平瓦含む）の一括廃棄
2．2.5Y5/2 暗灰黄色細粒砂に磁器片や基盤層ブロックなどがところどころ混じる。
3．7.5Y6/1 灰色細粒砂に瓦片多く含む

第 34 図　防空壕 平面・断面・見通し図（1：40）



第 35 図　昭和 23 年（1948 年）の航空写真から分かる空襲被害と建物疎開状況

に学童疎開されたとのことで、戦後帰宅した際は建物疎開で家屋・防空壕共に取り壊されていたようである。実際に上記の戦中・戦後の航空写真を見比べると、調査地東側の能勢街道が、戦後かなり拡幅している様子が確認できる。調査地一帯はかろうじて大きな空襲被害を免れているため、能勢街道沿いの建物疎開の様子を鮮明に確認することができる。今回検出した防空壕の上層は大量の瓦片で埋められていた。様々な観点から考察すると、所有者が学童疎開された後に、所有者宅は建物疎開の対象となり、取り壊した家屋の屋根瓦で防空壕を埋め立てたものと考えられる。

3．まとめ

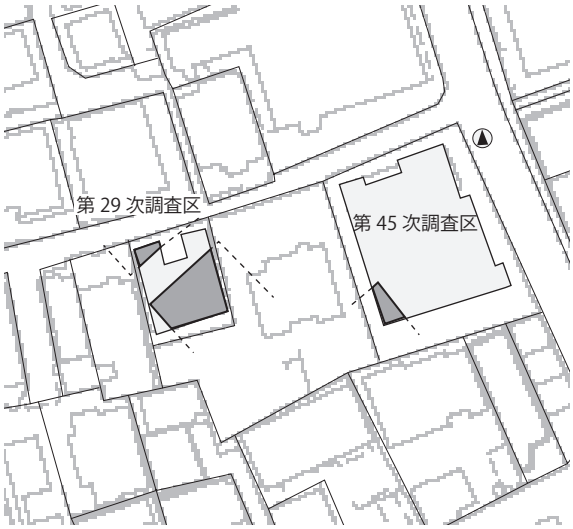
近世

今回の調査地は、近世段階の「新免村」の集落内に位置している。新免村については本町遺跡第 40 次調査で 15 ～ 16 世紀頃から近世にかけての集落遺構が検出されており、中世後半期から続く集落であることが確認されている。今回の調査では 18 世紀後半以降の集落関連遺構が検出された。東隣りには能勢街道が通っているが、調査地周辺が新免村の集落域になった時期は近世後半期とみて間違いないだろう。奈良時代から近世までの中間時期の遺構・遺物は全く確認されなかったため、奈良時代以降、近世後半期までは耕地などであったと考えられる。

飛鳥～奈良時代

今回の調査では飛鳥時代の総柱の掘立柱建物、奈良時代の溝状遺構などが確認された。飛鳥時代の掘立柱建物については、西側の本町遺跡第 29 次調査で検出された大型建物と同じ方位であるため、一連の建物群として捉えることができる（第 36 図）。本町遺跡第 29 次調査で検出された大型建物は庇付きの豪族居館とも捉えることのできる規模の建物である。過去の概要報告（豊中市教育

委員会 2006）では、古墳時代のものと報告されているため、今回の調査成果も併せて建物群の時期や性格の再検討が必要である。また黒褐色土層中から須恵器のいわゆる鉄鉢形の鉢が出土した。本町遺跡の東には飛鳥時代頃に金寺山廃寺が成立していることが判明している。桜井谷窯跡群の須恵器生産で栄えた本町遺跡の集落が、古代寺院である金寺山廃寺の母体集落に変化していった様子が想定される。そのなかで一連の建物群の位置付けがどのようなものなのかは、今後の調査成果も踏まえ慎重に検討していきたい。



第 36 図　本町遺跡の建物群推定図

古墳時代後期

今回の調査で遺構・遺物の数が圧倒的に多かったのが 6 世紀代の古墳時代後期である。調査では竪穴住居 9 棟、掘立柱建物 1 棟が確認されたが、遺構埋土の重なりによる黒褐色土層の堆積が最大で層厚 50cm ほどもあったことを踏まえると、未検出に終わった竪穴住居や掘立柱建物の数は相当あるものと考えられる。黒褐色土層は上層・下層ともに 6 世紀前半から後半にかけての遺物が出土していることから、6 世紀代の約 100 年に相当な開発活動が行われたことが想定される。同時期に盛行する須恵器の生産遺跡が、市北部一帯に広がる桜井谷窯跡群である。今回の調査で出土した須恵器片は、約 1 割程度の割合で、焼成不良品や焼け歪みのものを含んでいた。調査地北側の第 12 次調査では溝状遺構から焼け歪みを含む多くの須恵器が出土しており、この集落で須恵器を集積・選別していたことは間違いないと思われる。

桜井谷窯跡群の操業が本格化する時期に、隣接する新免遺跡でまず集落開発が行われている。新免遺跡では同様に、須恵器の廃棄遺構が見つかっていることから、集積・選別していたことが推定される。新免遺跡での須恵器関連の本格的な集落の成立は TK23 ～ TK47 期頃の 5 世紀後半～末あたりと考えられる。本町遺跡では今回の調査成果でも MT15 ～ TK10 期の 6 世紀前半～中頃と、新免遺跡にやや遅れて集落が成立している。しかし、新免遺跡・本町遺跡ともに桜井谷窯跡群の操業に関わる集落であることは間違いないものと考えられる。桜井谷窯跡群に関わる集落としては、内田遺跡や柴原遺跡、熊野田遺跡、羽鷹下池南遺跡などがあげられるが、これまでの発掘調査や確認調査の成果も踏まえると、遺構の数や集落跡の面積において、新免遺跡・本町遺跡が群を抜いている。新免遺跡・本町遺跡は 5 世紀後半から 6 世紀代にかけて桜井谷窯跡群に従事した工人などの一大集落であった可能性も十分考えられる。

豊中市内では 5 世紀前半までは桜塚古墳群を造営した勢力が盛行していたが、5 世紀後半までには桜塚古墳群の造墓活動は終了する。新免古墳群や穂積古墳、利倉南古墳群などの小規模古墳も 6 世紀前半まで造墓活動が行われるが、桜井谷窯跡群・新免遺跡・本町遺跡が盛行する 6 世紀代には豊中市内全体でも造墓活動は行われなくなる。この時期に造墓活動が盛んになる地域は池田市や箕面市・川西市・宝塚市であり、この背景には政治的な情勢変動が読み取れる。桜井谷窯跡群での須恵器生産もこの政治情勢の中に組み込まれるものと考えられるが、今後の調査成果も踏まえ、明ら

かにしていきたい。

近代（第二次世界大戦期）

今回の調査では第二次世界大戦時の防空壕を検出した。本町一帯は豊中空襲の被害が激しかった地帯である。検出した防空壕は、幸いにも土地所有者が、太平洋戦争期に実際に入った経験のあるものであった。検出した防空壕を考古学的に調査したことに加え、聞き取り調査も行えたことは、第二次世界大戦期の豊中市内の実態解明にとって貴重な資料となった。建物疎開で壊された建物の瓦で防空壕が埋められた様子や、家屋解体の経験談などは第二次世界大戦期の情勢の混乱を生々しく感じ取ることができる。新免遺跡第 69 次調査で検出された爆弾穴なども含め、考古学的に調査された戦争遺跡の一端として、今回の調査成果が戦争資料として今後活用ができれば幸いである。

註

豊中市教育委員会 2006『文化財ニュース No.33』

陣内高志 2017『本町遺跡第 43 次発掘調査調査報告書』豊中市教育委員会

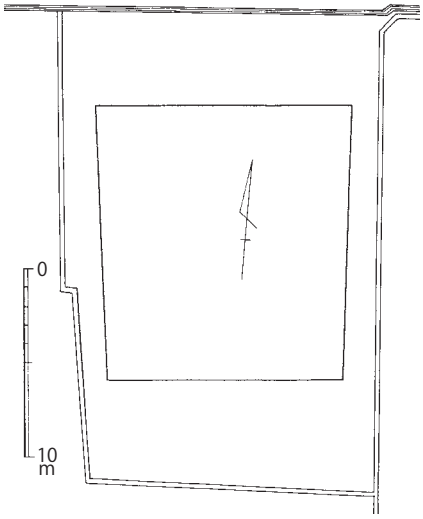
第Ⅴ章　小曽根遺跡第 36 次（今西氏屋敷第 13 次）調査

1．調査の経緯

当該調査地は、豊中市浜 1 丁目 424 － 3、426 に所在し、小曽根遺跡と重複して、国指定史跡春日大社南郷目代今西氏屋敷の推定地の中央付近にあり、旧字「南郷」の集落の一画をなす。

令和 5 年（2023 年）3 月 31 日付けで提出された埋蔵文化財発掘の届出に基づき、5 月 25 日に確認調査を実施した。中近世の遺物包含層等が検出されたため、今西氏屋敷関連遺構を対象とした発掘調査を行うこととなった。

発掘調査は 191.4㎡の範囲を令和 5 年（2023 年）6 月 22 日～8 月 31 日までの期間で実施した。

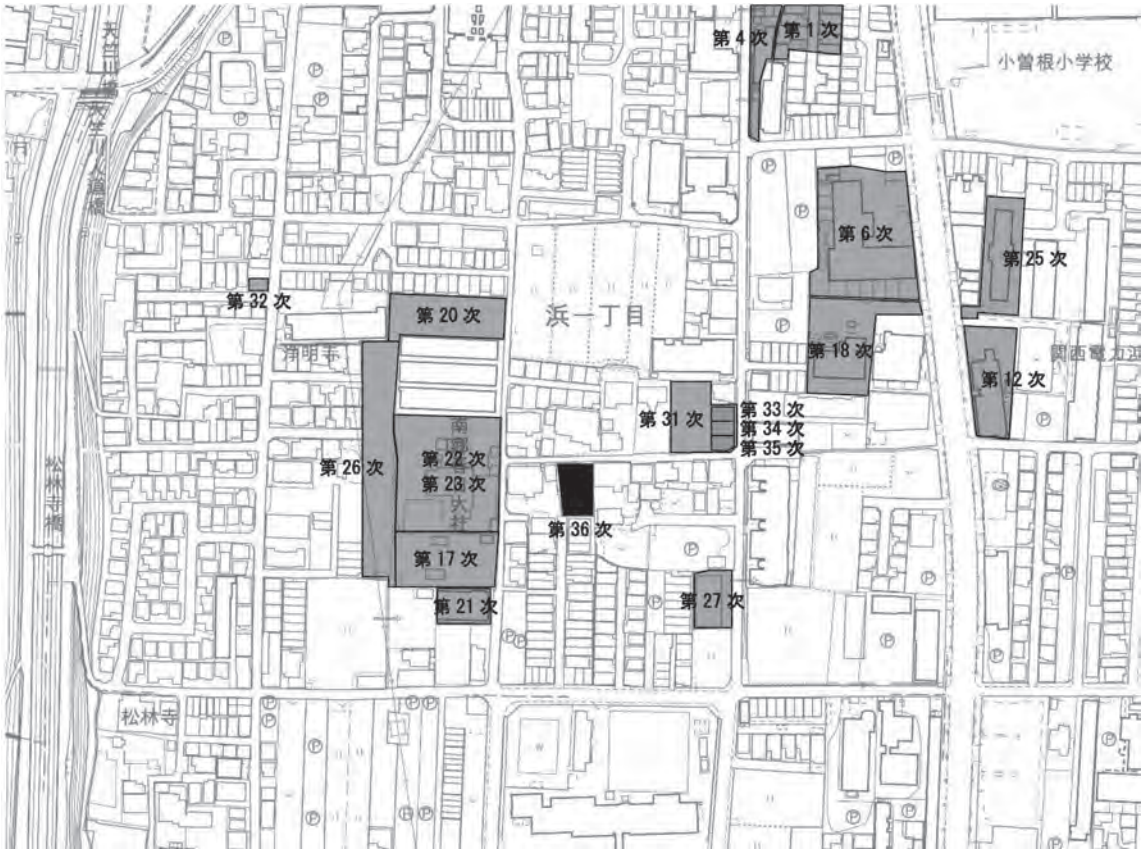


第 37 図　調査範囲図（1：400）

2．調査の成果

（1）遺跡の概要

春日大社南郷目代今西氏屋敷は、奈良春日社（現・春日大社）領荘園「垂水西牧榎坂郷」に春日社社家から下向した今西氏の荘官屋敷で、方二町の推定地全域が埋蔵文化財包蔵地として保護されている。また、



第 38 図　調査地位置図

中世以来、今西氏が居住し続けており、現屋敷内にある南郷春日神社本殿（春日大社若宮社殿を近世に移築）、現屋敷の南西に現存する今西家墓所等を合わせ希少な史跡となっている。現屋敷の周囲を囲繞する15 世紀代の堀跡等を中心とした部分が国の史跡に指定されていて、推定地の東辺では 13 世紀代以降の堀跡が既往の調査で確認されている。

（２）基本層序

当該調査地は、現屋敷長屋門の正面に東西方向に展開する近世以来の字「南郷」の集落の西部にあたる。字「南郷」の集落付近では小曽根遺跡に特徴的な弥生～古墳時代の遺構面が検出されておらず、現状では今西氏屋敷関連の遺構や遺物包含層に限定されている。また、近年の調査で字「南郷」の集落の東側に南北方向に掘削された小規模な堀跡が、複数条並行して検出されていて、屋敷の推定地東端を界するため設置されたものと考えられる。

調査地全体の現地表は概ね T.P.+3.3 mである。現地表下から順に、現代の盛土・整地土（層厚約 0.4 m）、黄灰色系シルトを主体とした近代以降の整地土（層厚約 0.2 m）が調査地全体にみられる。調査以前の敷地は現行の道路面とほぼ同程度の地表上に、さらにそれ以前は道路面より 0.5 m程度低かったという伝聞があり、調査成果と齟齬はない。近代の整地土直下には淘汰不良の灰色系粗粒砂（層厚約 0.1 m）が堆積し、近代以降、調査地付近に複数回の浸水被害があったことが窺える。その下部には、酸化鉄が斑文状に沈着した暗灰黄色系シルト（層厚約 0.3 m）が堆積し、上面が近世以降の遺構面をなす。この堆積層以下は調査区全体がほぼ無遺物となり、灰色系で細礫や植物遺体を含む淘汰不良の砕屑物が厚く堆積し、最下部（T.P.+2.0 m付近）ではオリーブ黒色を呈する粘性の強いシルト層に到達する。これらは現在でも含水率が非常に高く、天竺川起源の氾濫性堆積と後背湿地の堆積であることが推察される。

（３）検出した遺構と遺物

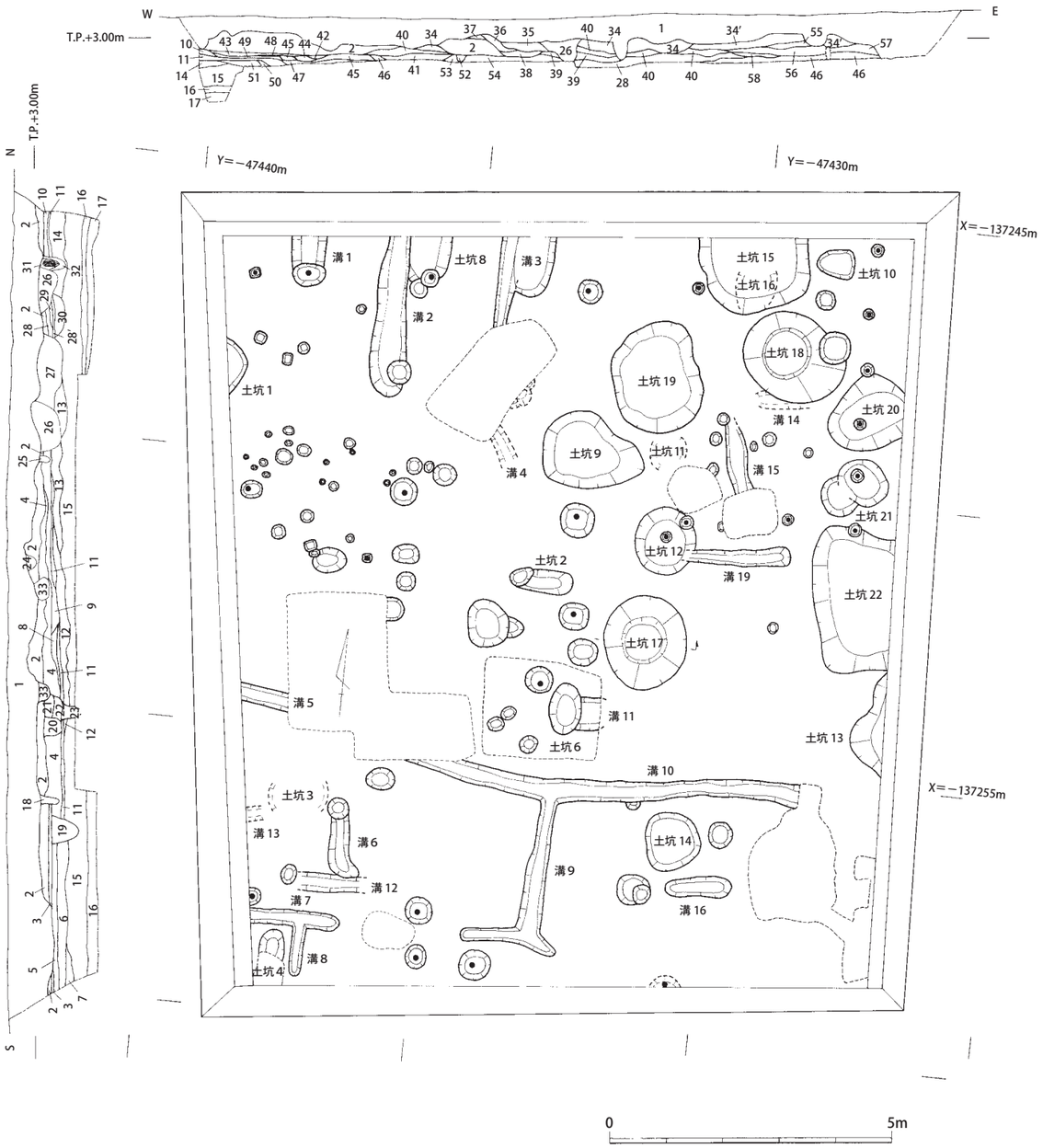
当該調査区内では、第 39 図に示すとおり、近世以降の土坑（井戸含む）22 基、溝 18 条、ピット（柱穴含む）94 基を検出した。

土坑は主に廃棄土坑として掘削されたもの（土坑 9・11・12・13・15・19・22）と、井戸や水溜めとして利用されたもの（土坑 14・17・18・20・21）に区分され、いずれも調査区北東部に集中している。このうち廃棄土坑の多くは平面が不定形で幅 1.5 m前後、深さが概ね 0.3 m程度の擂鉢状を呈する。一方、井戸等として利用された土坑は、平面が楕円形で径約 1 m、深さ 0.5 ～ 0.8 m程度を測り、中央付近に井筒が設置された痕跡が残る（第 40 図）。各々の井戸は比較的浅いが、調査地周辺の地下水位が高いため有効に機能していたものと考えられる。江戸後期から近代に営まれたものと考えられる。

溝は、遺存した深度が約 5cm 程度と浅く短いため、その機能は不明確であるが、ピットの集中する調査区西半部に多いことから、建物に伴う排水溝として設置されたと考えられる。溝 9・10 は溝内部に細礫あるいは瓦片が間隙なく充填されていて、暗渠として設置されたものである。

ピット（柱穴含む）は溝と同様に、大半が調査区西半部で検出された。柱根として松杭が打設されたものが多く、松杭の径の大小によって区分される（第 39 図中、黒丸印）。調査以前に建っていた主屋、離れ等とその分布が一致し、かつ近世の土坑等に後出すること、また近代以降に地盤補強の手段として松杭が盛行したことを勘案して、昭和期後半に建替えられた建築に伴うものと考えられる。ピットについては確実に近世に遡ると判断されるものはなかった。

当該調査区では、遺物のほとんどが土坑から出土しており、肥前系磁器を中心とした近世以降の日常雑



第 39 図　調査区平面・断面図（1：100）

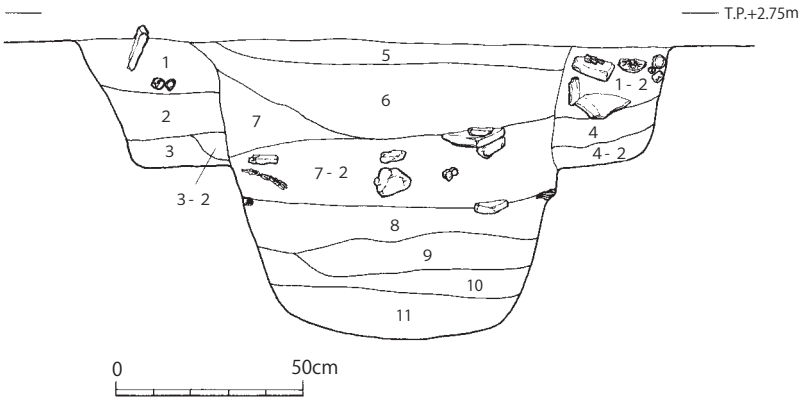
【 調査区西壁及び北壁　土色・土質 】

1. 現代の盛土及び整地土。
2. 暗灰黄色（2.5Y4/2）極細粒砂（～中粒砂）。部分的にオリーブ褐色（2.5Y4/3～4/4）を呈する。明黄褐色（2.5Y6/8）シルトブロック、炭化物片、細礫を微量含む。近代以降の整地土。
3. 灰黄色（2.5Y6/2）シルト（～中粒砂）。灰白色（2.5Y8/2）細粒砂（～中粒砂）が平行葉理をなす。小規模洪水堆積による砕屑物。
4. 暗灰黄色（2.5Y5/2）中粒砂（～極細粒砂）。部分的に黄褐色（10YR5/8）を呈し、やや粗粒傾向の箇所がある。
5. 灰色（5Y5/1）細粒砂（～中粒砂）。部分的に炭化物片や焼土ブロックを多く含む。近代以降の火災に伴う整地土。
6. 黄灰色（2.5Y5/1）細粒砂（～シルト）。炭化物片を微量含み淘汰不良。下半部に酸化第二鉄が斑紋状に沈着し灰黄褐色（10YR4/2）を呈する。
7. 灰色（7.5Y4/1）シルト（～極細粒砂）。シルト質が強い。15 層堆積末期の砕屑物。
8. 暗灰黄色（2.5Y4/2）細粒砂（～シルト）。部分的に明黄褐色（10YR6/8）を呈し、やや粗粒傾向の箇所がある。
9. 黄褐色（2.5Y5/3～5/4）中粒砂（～細礫）。涵養源は不明であるが帯水状態にある。下部層理面に酸化第二鉄の沈着が顕著で、褐色（10YR4/4）を呈する。
10. 灰白色（5Y8/1～8/2）シルト（～極細粒砂）。部分的に明黄褐色（2.5Y5/6）を呈する。
11. 黄灰色（2.5Y6/1）シルト（～極細粒砂）。シルト質が強く、上部は 9 層の影響で黄褐色（10YR5/6）を呈する。
12. 黄灰色（2.5Y6/1～5/1）シルト（～中粒砂）。黄灰色（2.5Y6/1）シルトブロックを微量含む。含水率がやや高い。
13. 黄灰色（2.5Y4/1）極細粒砂（～細粒砂）。灰白色（7.5Y8/1）シルトブロックを 5%程度含み、しまり不良。含水率がやや高い。
14. 暗黄灰色（2.5Y4/2）極細粒砂（～細粒砂）。部分的に灰色（N5/1）を呈し、やや粗粒傾向の箇所がある。青灰色（5B6/1）シルト（～粘土）ブロック、炭化物片を微量含む。
15. 灰色（7.5Y4/1）シルト（～細粒砂）。部分的に浅黄色（2.5Y7/4）を呈する。灰色（7.5Y5/1）粘土（～シルト）ブロック、炭化物片、植物遺体を微量含む。層厚が 0.4m を超え、細礫を多く含む。天竺川氾濫原の一部を構成する淘汰不良の砕屑物である。
16. 灰色（7.5Y4/1～10Y4/1）細粒砂（～シルト）。下部に向かって細粒化している。15 層堆積初期の砕屑物。
17. オリーブ黒色（5Y3/1～3/2）シルト（～細粒砂）。粘質で有機質を多く含むため含水率も高い。最上部に植物遺体が多く集積し、ほぼ止水環境であったことが窺われる。天竺川氾濫原の後背湿地。
18. 灰黄色（7.5Y6/2）シルト（～中粒砂）。近代以降のピット埋土。
19. 灰黄褐色（10YR6/2）細粒砂（～シルト）。炭化物片を 5%程度含む。下部は粘質でグライ化。近世以降のピット埋土。
20. 黄灰色（2.5Y6/1）細粒砂（～シルト）。灰白色（10YR8/2）シルトブロックを 10%程度含む。酸化第二鉄の沈着が顕著。近世以降のピット埋土。
21. 暗灰黄色（2.5Y5/2）中粒砂（～極細粒砂）。褐灰色（10YR5/1）シルトブロックを 20%程度含む。
22. 褐灰色（10YR6/1）細粒砂（～シルト）。
23. 黄灰色（2.5Y6/1～5/1）シルト（12 層由来）及び灰色（7.5Y4/1）シルト（15 層由来）のブロックが混在。
24. 黄灰色（2.5Y4/1）シルト（～細粒砂）。部分的にオリーブ褐色（2.5Y4/4～4/6）を呈する。灰黄色（2.5Y7/2）～黄褐色（10YR5/8）シルト（～極細粒砂）ブロックを 5%程度含む。細礫を微量含む。近代以降のピット埋土。
25. 黄灰色（2.5Y4/1）極細粒砂（～中粒砂）。部分的に黄褐色（10YR5/6～5/8）を呈する。
26. 近代以降の攪乱土。
27. 灰黄色（2.5Y5/2～4/2）中粒砂（～細粒砂）。明黄褐色（2.5Y6/8）細粒砂（～極細粒砂）及び明黄褐色（2.5Y7/6～6/6）極細粒砂（シルト）ブロックを 5%程度含み、下部に炭化物片の集積が見られる。
28. 黄灰色（2.5Y6/1）シルト（～極細粒砂）。　**28′** はやや粘質。
29. 暗灰黄色（2.5Y5/2）シルト（～極細粒砂）。黄褐色（2.5Y5/6）極細粒砂（～シルト）ブロックを 5%程度含む。酸化第二鉄の沈着が顕著。
30. 黄灰色（2.5Y4/1）極細粒砂（～中粒砂）。部分的に暗灰黄色（2.5Y5/2）を呈する。灰色（7.5Y4/1）粘土ブロック、炭化物片、細礫を微量含む。
31. にぶい黄色（2.5Y6/3）粗粒砂（～中粒砂）。含水率高い。近代以降の地盤補強杭（松材）ピット埋土。
32. オリーブ灰色（2.5GY5/1）～青灰色（5B5/1）シルト（～極細粒砂）。31 層に同じ。
33. 中～大礫で構成されるが、間隙を細礫で充填。近現代の暗渠。
34. にぶい黄褐色（10YR5/4～4/4）細粒砂（～シルト）。部分的に明黄褐色（2.5Y7/6）を呈する。34′層は粒形がやや細かい。
35. 黄灰色（2.5Y5/3～5/4）極細粒砂（～中粒砂）。部分的に黄褐色（10YR5/8）を呈し、細礫を微量含む。
36. 黒褐色（2.5Y3/2）極細粒砂（～中粒砂）。明黄褐色（2.5Y7/6～6/6）シルトブロックを 30%程度含む。炭化物片を微量含み、やや粘質。
37. にぶい黄褐色（10YR5/4～4/3）極細粒砂（～中粒砂）。暗灰黄色（2.5Y5/2）及び明黄褐色（2.5Y7/6～6/8）シルトブロックを 5%程度含む。炭化物片を微量含む。
38. 暗黄灰色（2.5Y4/2）細粒砂（～中粒砂）。浅黄色（2.5Y7/3～7/4）極粗粒砂をブロック状に含む。遺構埋土か。
39. 褐色（7.5YR4/6～10YR4/4）細粒砂（～シルト）。部分的に黄褐色（2.5Y5/3）を呈する。細礫を微量含む。
40. 暗灰黄色（2.5Y4/2）極細粒砂（～細粒砂）。上部に黄褐色（2.5Y5/3）極細粒砂（～シルト）が堆積。溝 2 埋土。
41. 暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト（～中粒砂）。下底部層理面に酸化第二鉄の沈着が顕著。土坑 8 埋土。
42. 暗灰黄～黄灰色（2.5Y5/2～6/1）中粒砂（～極細粒砂）。部分的に黄褐色（2.5Y5/6）を呈する。
43. 黄灰色（2.5Y4/1）シルト（～細粒砂）。炭化物片を微量含む。部分的に黄褐色（2.5Y5/6）を呈する。
44. 暗灰黄色（2.5Y5/2）中粒砂（～シルト）。下底部に沿って炭化物片を含む。溝 1 埋土。
45. 黄灰色（2.5Y4/1～6/1）シルト（～細粒砂）。下底部層理面に酸化第二鉄が沈着しオリーブ灰色（5Y5/4）を呈する。
46. 黄灰色（2.5Y5/1～4/1）極細粒砂（～中粒砂）。黄色（2.5Y7/8）シルトブロックを 20%程度含む。
47. 黒褐色（2.5Y3/1）極細粒砂（～細粒砂）。黄灰色（2.5Y5/1～4/1）極細粒砂（～細粒砂）をブロック状に含む。
48. 黄灰色（2.5Y4/1）シルト（細粒砂）。
49. 黄灰色（2.5Y5/1）中粒砂（～細粒砂）。黄灰色（2.5Y5/6）中粒砂をブロック状に含み、炭化物片を微量含む。
50. 黄灰色（2.5Y5/1～6/1）シルト（～細粒砂）。淘汰不良でややグライ化。
51. 黄灰色（2.5Y5/1～4/1）シルト（～細粒砂）。明緑灰色（5G7/1）及び灰色（10Y4/1）シルトブロックを斜交葉理状に 20%程度含む。
52. 灰黄色（2.5Y6/2）～暗灰黄色（2.5Y5/2）粗粒砂（～細粒砂）。53 層とともにピット埋土を構成する砕屑物。
53. 褐灰色（10YR6/1）中粒砂（～細粒砂）。全体に酸化第二鉄の沈着により褐色（10YR4/4）～暗褐色（10YR3/4）を呈する。ピット柱痕か。
54. 黄灰色（2.5Y5/1）～暗黄灰色（2.5Y4/2）粗粒砂（～細粒砂）。部分的に褐灰色（2.5Y4/4）を呈する。細礫を含み、しまり不良。
55. 灰白色（10YR8/1）極細粒砂（～シルト）。暗灰黄色（2.5Y5/2）シルトブロックを 1%程度含む。土坑 15 埋土上層。
56. 褐灰色（10YR6/1）極細粒砂（～中粒砂）。下部に酸化第二鉄の沈着が顕著。暗灰黄色（2.5Y5/2）シルトブロックを 2%程度含む。土坑 15 埋土。
57. 褐灰色（10YR5/1）極細粒砂（～中粒砂）。斑紋状に酸化第二鉄が沈着。
58. 暗灰黄色（2.5Y5/2）細粒砂（～中粒砂）。下部に下部に酸化第二鉄の沈着が顕著。

器である。また、暗渠となる溝や土坑から、雑器同様に近世以降の均整唐草文軒平瓦、巴文軒丸瓦、桟瓦等が多く出土している。

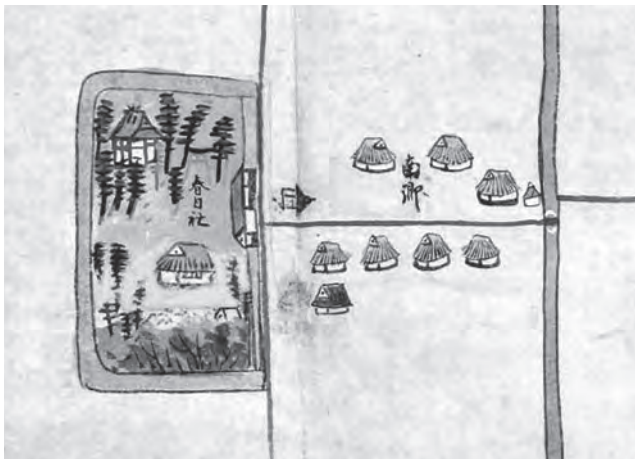
比較的出土量の多い土坑 9〔図版 29（1)〕では、1 ～ 5 の碗、6 の瓶、7・9 の皿、8 の硯などがある。1 は梅文染付碗で口径 11.0cm、高さ 5.3cm を測る。2 は梅文染付碗で口径 10.0cm、高さ 5.8cm を測る。3 は梅文染付碗で高台内に不明銘があり、口径 10.5cm、高さ 5.1cm を測る。4 は草花文染付碗で口径 10.8cm、高さ 5.6cm を測る。5 は梅文染付碗で高台内に不明銘があり、口径 10.0cm、高さ 5.0cm を測る。また、1・4・5 の見込みには蛇の目釉剥ぎが施されている。6 は小型の草花文染付瓶で内面は無釉である。肥前以外の生産地の可能性がある。胴部最大径 8.0cm、残存高 4.5cm を測る。7 は唐津小皿で口径 12.6cm、高さ 3.3cm を測る。9 は唐草文染付小皿で内面には花鳥文が描かれ、見込みは蛇の目釉剥ぎが施される。口径 12.4cm、高さ 3.2cm を測る。8 は黒色粘板岩製で残存長 9.1cm、幅 4.0cm、厚さ 1.1cm を測る。これらは概ね 18 世紀中葉から後半の所産であると考えられる。

その他〔図版 29（2)〕、土坑 15 では、1 の皿や 2 ～ 5 の擂鉢のほか、京・信楽系の碗や皿の小片が出土している。1 は唐草文染付中皿で見込には松が描かれ、高台内には二重囲み渦福の福字がある。口径 20.0cm、高さ 3.9cm を測る。2 ～ 5 は堺焼の擂鉢で素地が橙色を呈し、各々口径 35cm 前後を測る。土坑（井戸）17 の掘形埋土から、6・8・9 の碗、7 の蓋が出土している。6 は灰褐色を呈する無文の碗でやや深い。口径 9.4cm、高さ 8.2cm を測る。8 は染付丸形碗で、青海波文を中心として菊花文等が施され、発色が非常に鮮やかである。口径 7.0cm、残存高 6.4cm を測る。9 は色絵筒形碗で口径 11.8cm、高さ 4.8cm を測る。7 は木葉様文染付蓋でおそらく端反碗に伴うものと考えられる。見込みには松が描かれ、口縁内面には雷文が巡る。口径 9.0cm、高さ 2.3cm を測る。土坑 20 からは 10 の褐色の釉を施した細頸の瓶が



1．暗灰黄色（2.5Y5/2）細粒砂（～中粒砂）。明黄褐色（2.5Y6/6 ～ 6/8）極細粒砂（～中粒砂）ブロックを微量含む。瓦片、陶磁器片、木片、中礫を多く含む。井戸掘形埋土。
1-2．1 層に近似。極細粒砂ブロックが含まれず、遺物量が多い。
2．暗灰黄色（2.5Y5/2）中粒砂（～粗粒砂）。明黄褐色（2.5Y6/6）中粒砂をブロック状に含む。井戸掘形埋土。
3．黄灰色（2.5Y5/1）細粒砂（～粗粒砂）。灰色（N7/0）シルトブロックを 2%程度含む。部分的に暗灰黄色（2.5Y5/2）を呈する。井戸掘形埋土。
3-2．3 層に 7 層ブロックを斜交葉理状に含む。
4．暗灰黄色～黄灰色（2.5Y5/2 ～ 5/1）細粒砂（～中粒砂）。
4-2．4 層に灰黄色（2.5Y6/2）細粒砂ブロックを 5%程度含む。
5．暗灰黄色（2.5Y5/2）細粒砂（～極細粒砂）。細礫を多く含み、炭化物片を微量含む。
6．暗灰黄色（2.5Y5/2）極細粒砂（～中粒砂）。暗灰黄色（2.5Y4/2）極細粒砂（～細粒砂）ブロックを 10%程度含む。細礫を多く含み、炭化物片を微量含む。
7．黒褐色（2.5Y3/2）シルト（～中粒砂）。灰黄色（2.5Y6/2）細粒砂（～極細粒砂）ブロックを 10%程度含む。炭化物片を微量含む。
7-2．7 層と酷似。瓦片、木片及び中礫を多く含む。井戸廃絶後、埋戻し初期の堆積。
8．灰色（5Y5/1）シルト（～細粒砂）。当該層最上位に遺存した井筒の竹製タガが巡る。
9．灰色（5Y6/1 ～ 5/1）中粒砂（～極細粒砂）。灰黄色（2.5Y6/2）中粒砂（～極細粒砂）が葉理状に混在する。
10．灰色（7.5Y4/1）シルト（～細粒砂）。含水率がやや高く、上部に比して細粒化が顕著。
11．黒褐色（2.5Y3/1 ～ 3/2）シルト（～細粒砂）。含水率高い。

第 40 図　土坑（井戸）17 断面図（1：20）



第 41 図　「小曽根郷六箇村絵図之写」に見える字南郷の集落　伝・文化七年（1810 年）

出土している。備前にみられる胴下半に明瞭な稜を有する形状で非常に薄手である。胴部最大径 13.3cm、底部径 9.0cm、残存高 20.0cm を測る。土坑 22 では 11 の扇に草花文染付広東形碗が出土している。見込みに「寿」が描かれ、口径 12.6cm、高さ 7.4cm を測る。これらは概ね 18 世紀後半から 19 世紀以降の所産と考えられる。

なお、瓦器埦、青磁碗、備前系の擂鉢等、中世後期の所産と考えられる遺物もわずかに出土しているが、いずれも現代の攪乱等から単体かつ小片で出土し、特に瓦器椀片は摩滅が顕著であることから、調査地以外から後世に移動したものと推定される。

3．まとめ

当該調査区で検出された遺構群を大別すると、近世段階では、調査区西半部にピット（柱穴）が集中し、東半部には廃棄土坑や井戸が集中することから、調査区西半部が居住域、東半部が作業域であったことが推定される。江戸後期の「小曽根郷六箇村絵図之写」（第 41 図）に描かれた字南郷の集落には、今西氏屋敷長屋門前にある猿田彦社、東端の末社を除いて、7 棟の茅葺建物と 1 棟の瓦葺建物がある。この茅葺建物のうち、東西道路の南で西端に描かれているものが、時期的にも今回の調査区で検出された江戸中・後期から幕末（18 世紀後半～ 19 世紀）に至る遺構群と符合する。また、昭和期後半以前の主屋は絵図同様に茅葺であったとの伝聞もあるため、土坑に廃棄されたり溝（暗渠）に充填された瓦片は、当該調査区の南側にあたる部分に描かれた瓦葺の建物からもたらされたものと見ても大過ないと考えられる。

当該調査区では、今西氏屋敷の成立時期である中世前期あるいは成熟期とも言える中世後期に遡る遺構が検出されなかったが、近世から近代にかけての集落の実態をある程度把握することができた。今後の調査では、現屋敷の長屋門から東に展開する字「南郷」の集落の成立前後で、該期の遺構がどのように分布し、変遷を遂げていくのか、慎重に検討していく必要がある。

第Ⅵ章　確認調査の成果（2022 年）

令和 4 年（2022 年）1 月から 12 月の間に個人住宅を対象に行った確認調査は 55 件を数える。このうち、16 件の調査で遺構等が確認されたが、建物に伴う基礎掘削が遺構面に達しないことなどから、本格的な発掘調査を行うには至っていない。

以下、確認調査の概要について報告する。第 42 図に掲載した確認調査地点位置図の番号および各確認調査の番号は、下表の番号に対応する。

第 1 表　令和 4 年（2022 年）確認調査一覧表

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査原因	調査対象面積（㎡）	遺構等の有無	調査後の処置	担当者	備考
1	柴原遺跡	柴原町 1 丁目 10-4 の一部	20220113	個人住宅建設	47.92	無	着工	陣内	
2	新免遺跡	末広町 1 丁目 124-10,-11,-13,-14	20220113	個人住宅建設	66.25	有	慎重工事	小堀	基礎浅
3	山ノ上遺跡	宝山町 63-14	20220127	個人住宅建設	40.36	有	再立会後、慎重工事	小堀	基礎浅
4	桜塚古墳群・曽根遺跡	曽根西町 3 丁目 66	20220127	個人住宅建設	67.18	無	着工	陣内	
5	桜塚古墳群	南桜塚 2 丁目 18-7 の一部	20220203	個人住宅建設	70.88	無	着工	橋田	
6	新免遺跡	玉井町 2 丁目 123-3	20220210	個人住宅建設	64.17	未	着工	陣内	盛土内
7	桜井谷窯跡群	東豊中町 1 丁目 137-4,-5	20220224	個人住宅建設	101.02	無	着工	陣内	
8	岡町南遺跡・桜塚古墳群	岡町南 2 丁目 1-15 の一部	20220303	個人住宅建設	71.22	未	慎重工事	小堀	基礎浅
9	桜塚古墳群	曽根西町 4 丁目 103-3	20220303	個人住宅建設	61.69	無	着工	小堀	
10	桜塚古墳群	南桜塚 1 丁目 40-3 の一部	20220303	個人住宅建設	91.50	有	再立会後、慎重工事	小堀	基礎浅
11	岡町北遺跡・桜塚古墳群	岡町北 2 丁目 22-1 の一部	20220317	個人住宅建設	53.09	未	着工	陣内	盛土内
12	穂積遺跡	服部南町 3 丁目 27-21,-33	20220407	個人住宅建設	56.70	無	着工	小堀	
13	内田遺跡	桜の町 3 丁目 152-1,-2 の各一部	20220407	個人住宅建設	66.73	無	着工	小堀	
14	島田遺跡	庄内幸町 2 丁目 65	20220421	個人住宅建設	91.09	無	着工	陣内	
15	新免遺跡	玉井町 2 丁目 193、193-2,-3,-4 の各一部	20220428	個人住宅建設	85.25	有	再立会後、慎重工事	中村・小堀	盛土内
16	桜井谷窯跡群	上野西 2 丁目 498-1	20220512	個人住宅建設	58.38	無	着工	陣内	
17	蛍池遺跡	螢池中町 1 丁目 43-1、48-2 の各一部	20220519	個人住宅建設	49.41	無	着工	中村・小堀	
18	桜塚古墳群	岡町南 1 丁目 101-1 の一部	20220526	個人住宅建設	51.12	無	着工	中村・小堀	
19	岡町南遺跡・桜塚古墳群	岡町南 2 丁目 84 の一部	20220526	個人住宅建設	31.67	有	慎重工事	中村・小堀	包含層のみ・無遺物
20	山ノ上遺跡	立花町 1 丁目 60-1	20220609	個人住宅建設	53.41	有	慎重工事	小堀・渡邉	包含層のみ
21	小曽根遺跡	北条町 2 丁目 97-3	20220616	個人住宅建設	118.50	無	着工	中村・小堀	
22	新免遺跡	玉井町 2 丁目 136-2,-3、137-2	20220616	個人住宅建設	90.98	未	着工	陣内	盛土内
23	小曽根遺跡	北条町 1 丁目 31-15	20220616	個人住宅建設	33.95	無	着工	陣内	
24	桜塚古墳群	南桜塚 1 丁目 155-6	20220623	個人住宅建設	66.13	無	着工	小堀	
25	桜塚古墳群	南桜塚 3 丁目 10-10	20220630	個人住宅建設	119.53	有	協議後、本調査	中村・小堀	桜塚古墳群 15 次
26	小曽根遺跡	北条町 1 丁目 297-4	20220707	個人住宅建設	44.25	無	着工	中村・小堀	
27	穂積遺跡	服部西町 4 丁目 230-2	20220714	個人住宅建設	104.05	無	着工	中村・陣内	
28	穂積遺跡	服部西町 2 丁目 1307-2 の一部	20220714	個人住宅建設	72.87	有	再立会後、着工	中村・陣内	計画変更
29	桜塚古墳群	南桜塚 2 丁目 24-1 の一部	20220721	個人住宅建設	92.74	無	着工	陣内	
30	桜井谷窯跡群	東豊中町 3 丁目 165-14	20220728	個人住宅建設	48.46	無	着工	中村・陣内	
31	本町遺跡	本町 3 丁目 312-4	20220804	個人住宅建設	46.05	有	再立会後、慎重工事	小堀	基礎浅
32	新免遺跡	玉井町 2 丁目 72、76-3	20220804	個人住宅建設	197.34	有	協議後、本調査	小堀	新免 75 次
33	新免遺跡	末広町 3 丁目 17	20220825	個人住宅建設	322.76	有	再立会後、慎重工事	小堀	遺構密度極少
34	柴原遺跡	柴原町 1 丁目 1-2,2-5	20220901	個人住宅建設	49.68	未	着工	陣内	盛土内
35	岡町北遺跡・桜塚古墳群	岡町北 1 丁目 40-1	20220908	個人住宅建設	39.76	無	着工	小堀	
36	桜塚古墳群	南桜塚 3 丁目 126	20220908	個人住宅建設	178.20	無	着工	陣内	
37	桜塚古墳群	南桜塚 1 丁目 7、12 の各一部	20220915	個人住宅建設	53.82	未	着工	陣内	盛土内
38	上津島南遺跡	今在家町 182-3、208 の各一部	20220915	個人住宅建設	61.21	無	着工	陣内	
39	利倉西遺跡	利倉西 2 丁目 69-3	20220922	個人住宅建設	50.92	無	着工	陣内	
40	穂積遺跡	服部本町 2 丁目 2-1,-2	20220929	個人住宅建設	44.72	有	再立会後、着工	陣内	基礎浅
41	曽根遺跡	曽根西町 3 丁目 17-9	20220929	個人住宅建設	60.87	有	再立会後、着工	陣内	盛土内
42	本町遺跡	本町 3 丁目 312-4	20221006	個人住宅建設	46.47	有	再立会後、着工	中村・小堀	盛土内
43	利倉遺跡	利倉 1 丁目 902 の一部	20221020	個人住宅建設	88.85	有	再立会後、慎重工事	中村・陣内	近世のみ
44	本町遺跡	本町 4 丁目 124-1	20221020	個人住宅建設	97.72	無	着工	小堀	
45	小曽根遺跡	小曽根 1 丁目 1678-6	20221027	個人住宅建設	80.07	無	着工	小堀	
46	穂積遺跡	服部西町 2 丁目 62-6 の一部	20221027	個人住宅建設	68.23	無	着工	小堀	
47	穂積遺跡	服部西町 3 丁目 1440-1 の一部	20221110	個人住宅建設	79.49	無	着工	陣内	
48	岡町北遺跡・桜塚古墳群	岡町北 3 丁目 17、17-1 の各一部	20221110	個人住宅建設	63.18	無	着工	陣内	
49	岡町北遺跡・桜塚古墳群	岡町北 3 丁目 17、17-1 の各一部	20221110	個人住宅建設	62.91	無	着工	陣内	
50	桜塚古墳群・岡町遺跡	中桜塚 2 丁目 430、430-2	20221124	個人住宅建設	43.50	無	着工	小堀	
51	桜井谷窯跡群	上新田 1 丁目 870-1	20221124	個人住宅建設	74.21	無	着工	小堀	
52	山ノ上遺跡	宝山町 116-7,-12	20221208	個人住宅建設	46.73	無	慎重工事	小堀	
53	桜塚古墳群	南桜塚 1 丁目 35-2	20221208	個人住宅建設	60.89	無	着工	中村	
54	新免遺跡	立花町 1 丁目 18-3	20221208	個人住宅建設	149.49	有	再立会後、慎重工事	中村・小堀	近世・遺構密度少
55	少路遺跡	春日町 2 丁目 62-4	20221215	個人住宅建設	53.82	無	着工	中村	

第 42 図　確認調査地点位置図

2022 － 01　柴原遺跡

調査日：令和 4 年（2022 年）1 月 13 日

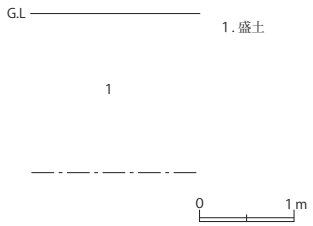
調査場所：豊中市柴原町 1 丁目 10 － 4 の一部

調査対象面積：47.92㎡

調査の方法：重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 170㎝）内において、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 43 図　トレンチ断面図

2022 － 02　新免遺跡

調査日：令和 4 年（2022 年）1 月 13 日

調査場所：豊中市末広町 1 丁目 124 － 10 － 11, － 13, － 14

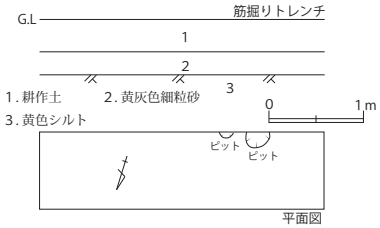
調査対象面積：66.25㎡

調査の方法：重機により筋掘りトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 60㎝において、基盤層及び遺構を検出した。

調査後の処置：基礎掘削は上層におさまることから、慎重工事を指示。

第 44 図　トレンチ掘削状況



第 45 図　トレンチ平面・断面図

2022 － 03　山ノ上遺跡

調査日：令和 4 年（2022 年）1 月 27 日

調査場所：豊中市宝山町 63 － 14

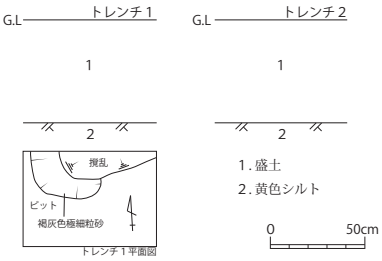
調査対象面積：40.36㎡

調査の方法：重機によりトレンチ 2 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：トレンチ 1 の地表下 55㎝の基盤層において、遺構を検出した。

調査後の処置：基礎掘削は遺構面の直上付近となることから、再立会後、慎重工事を指示。

第 46 図　トレンチ掘削状況



第 47 図　トレンチ平面・断面図

2022 － 04　桜塚古墳群・曽根遺跡

調査日：令和４年（2022 年）１月 27 日

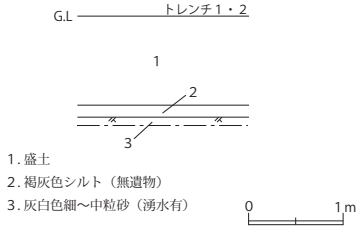
調査場所：豊中市曽根西町３丁目 66

調査対象面積：67.18㎡

調査の方法：重機によりトレンチ２か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 105㎝において基盤層を検出したが、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 48 図　トレンチ断面図

2022 － 05　桜塚古墳群

調査日：令和４年（2022 年）２月３日

調査場所：豊中市南桜塚２丁目 18 － 7 の一部

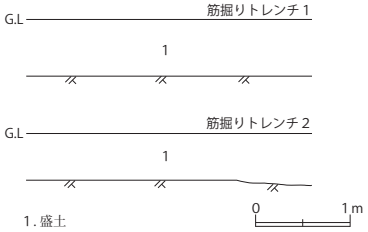
調査対象面積：70.88㎡

調査の方法：重機により筋掘りトレンチ２か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 50 ～ 60㎝において基盤層を検出したが、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。

第 49 図　トレンチ掘削状況



第 50 図　トレンチ断面図

2022 － 06　新免遺跡

調査日：令和４年（2022 年）２月 10 日

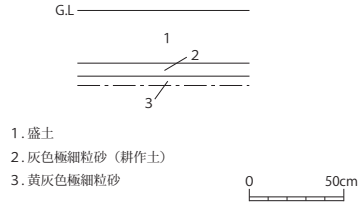
調査場所：豊中市玉井町２丁目 123 － 3

調査対象面積：64.17㎡

調査の方法：重機によりトレンチ１か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 40㎝）内において、明確な遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：基礎掘削は盛土内におさまることから、確認調査後、着工を指示。



第 51 図　トレンチ断面図

2022 － 07　桜井谷窯跡群

調査日：令和 4 年（2022 年）2 月 24 日

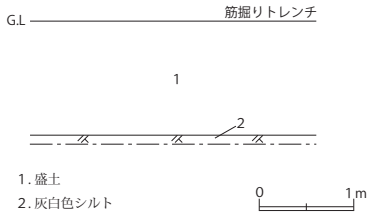
調査場所：豊中市東豊中町 1 丁目 137 － 4, － 5

調査対象面積：101.02㎡

調査の方法：重機により筋掘りトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 120㎝において基盤層を検出したが、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 52 図　トレンチ断面図

2022 － 08　岡町南遺跡・桜塚古墳群

調査日：令和 4 年（2022 年）3 月 3 日

調査場所：豊中市岡町南 2 丁目 1 － 15 の一部

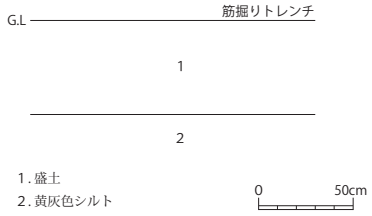
調査対象面積：71.22㎡

調査の方法：重機により筋掘りトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 50㎝）内において、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：基礎掘削は盛土内におさまるが、周辺は遺構の検出が多く、未検出の基盤層面に遺構が存在する可能性も否定できないことから、慎重工事を指示。

第 53 図　トレンチ掘削状況



第 54 図　トレンチ断面図

2022 － 09　桜塚古墳群

調査日：令和 4 年（2022 年）3 月 3 日

調査場所：豊中市曽根西町 4 丁目 103 － 3

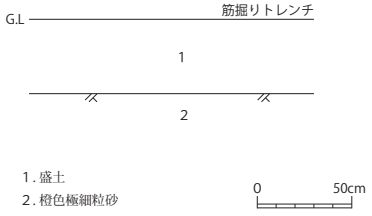
調査対象面積：61.69㎡

調査の方法：重機により筋掘りトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 40㎝において基盤層を検出したが、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。

第 55 図　トレンチ掘削状況



第 56 図　トレンチ断面図

2022 － 10　桜塚古墳群

調査日：令和４年（2022 年）３月３日

調査場所：豊中市南桜塚１丁目 40 － ３の一部

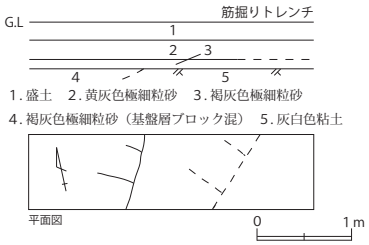
調査対象面積：91.50㎡

調査の方法：重機により筋掘りトレンチ１か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 50㎝において、北西方向に沈む古墳周溝の可能性のある溝状遺構を検出した。

調査後の処置：基礎掘削は遺構面に至らないことから、再立会後、慎重工事を指示。

第 57 図　トレンチ掘削状況



第 58 図　トレンチ平面・断面図

2022 － 11　岡町北遺跡・桜塚古墳群

調査日：令和４年（2022 年）３月 17 日

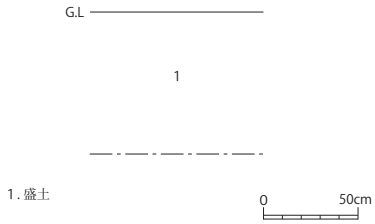
調査場所：豊中市岡町北２丁目 22 － １の一部

調査対象面積：53.09㎡

調査の方法：重機によりトレンチ１か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 75㎝）内において、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：基礎掘削は盛土内におさまることから、確認調査後、着工を指示。



第 59 図　トレンチ断面図

2022 － 12　穂積遺跡

調査日：令和４年（2022 年）４月７日

調査場所：豊中市服部南町３丁目 27 － 21, － 33

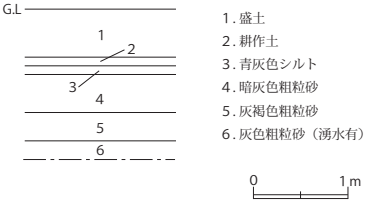
調査対象面積：56.70㎡

調査の方法：重機によりトレンチ１か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 160㎝）内において、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。

第 60 図　トレンチ掘削状況



第 61 図　トレンチ断面図

2022 － 13　内田遺跡

調査日：令和 4 年（2022 年）4 月 7 日

調査場所：豊中市桜の町 3 丁目 152
－ 1, － 2 の各一部

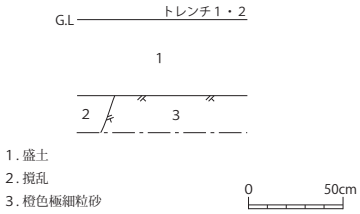
調査対象面積：66.73㎡

調査の方法：重機によりトレンチ 2 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 40㎝において基盤層を検出したが、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：基礎掘削は盛土内におさまることから、確認調査後、着工を指示。

第 62 図　トレンチ掘削状況



第 63 図　トレンチ断面図

2022 － 14　島田遺跡

調査日：令和 4 年（2022 年）4 月 21 日

調査場所：豊中市庄内幸町 2 丁目 65

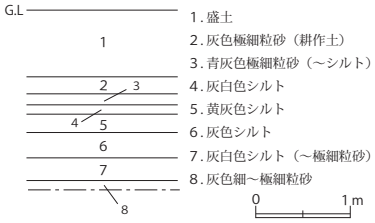
調査対象面積：91.09㎡

調査の方法：重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 190㎝）内において、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。

第 64 図　トレンチ掘削状況



第 65 図　トレンチ断面図

2022 － 15　新免遺跡

調査日：令和 4 年（2022 年）4 月 28 日

調査場所：豊中市玉井町 2 丁目 193、193 － 2
－ 3, － 4 の各一部

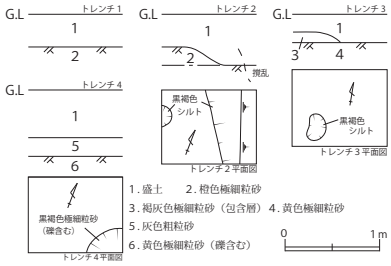
調査対象面積：85.25㎡

調査の方法：重機によりトレンチ 4 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：トレンチ 2・3・4 の基盤層面において、遺構を検出した。

調査後の処置：基礎掘削は盛土内または包含層中におさまることから、再立会後、慎重工事を指示。

第 66 図　トレンチ掘削状況



第 67 図　トレンチ平面・断面図

2022 － 16　桜井谷窯跡群

調査日：令和 4 年（2022 年）5 月 12 日

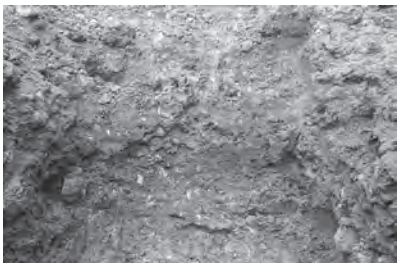
調査場所：豊中市上野西 2 丁目 498 － 1

調査対象面積：58.38㎡

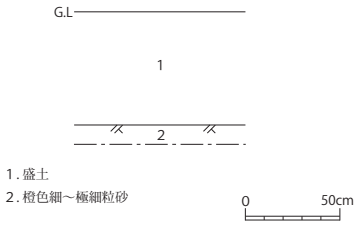
調査の方法：重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 60㎝において基盤層を検出したが、窯跡関連の明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 68 図　トレンチ掘削状況



第 69 図　トレンチ断面図

2022 － 17　蛍池遺跡

調査日：令和 4 年（2022 年）5 月 19 日

調査場所：豊中市螢池中町 1 丁目 43 － 1、48 － 2 の各一部

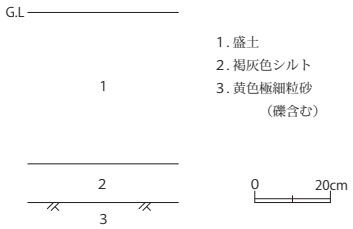
調査対象面積：49.41㎡

調査の方法：重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 50㎝において基盤層を検出したが、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。

第 70 図　トレンチ掘削状況



第 71 図　トレンチ断面図

2022 － 18　桜塚古墳群

調査日：令和 4 年（2022 年）5 月 26 日

調査場所：豊中市岡町南 1 丁目 101 － 1 の一部

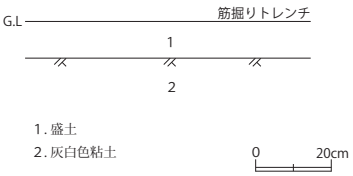
調査対象面積：51.12㎡

調査の方法：重機により筋掘りトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 10㎝において基盤層を確認したが、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。

第 72 図　トレンチ掘削状況



第 73 図　トレンチ断面図

2022 － 19　岡町南遺跡・桜塚古墳群

調査日：令和 4 年（2022 年）5 月 26 日

調査場所：豊中市岡町南 2 丁目 84 の一部

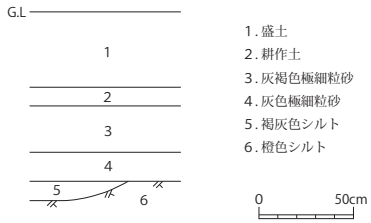
調査対象面積：31.67㎡

調査の方法：重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 90㎝において褐灰色シルト層（無遺物・谷埋土か）を検出したが、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：基礎周辺に遺構等が存在する可能性があると考えられたため、慎重工事を指示。

第 74 図　トレンチ掘削状況



第 75 図　トレンチ断面図

2022 － 20　山ノ上遺跡

調査日：令和 4 年（2022 年）6 月 9 日

調査場所：豊中市立花町 1 丁目 60 － 1

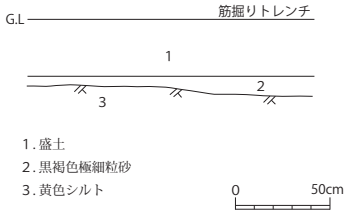
調査対象面積：53.41㎡

調査の方法：重機により筋掘りトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 30㎝において包含層と南に落ち込む旧地形を確認した。

調査後の処置：旧地形は人為的な遺構と判断されなかったため、確認調査後、慎重工事を指示。

第 76 図　トレンチ掘削状況



第 77 図　トレンチ断面図

2022 － 21　小曽根遺跡

調査日：令和 4 年（2022 年）6 月 16 日

調査場所：豊中市北条町 2 丁目 97 － 3

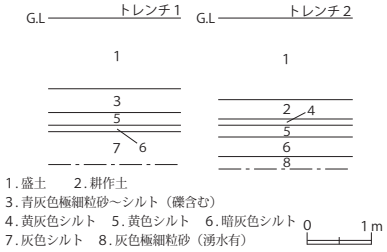
調査対象面積：118.50㎡

調査の方法：重機によりトレンチ 2 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 240㎝）内において、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。

第 78 図　トレンチ掘削状況



第 79 図　トレンチ断面図

2022 － 22　新免遺跡

調査日：令和 4 年（2022 年）6 月 16 日

調査場所：豊中市玉井町 2 丁目 136 － 2, － 3
137 － 2

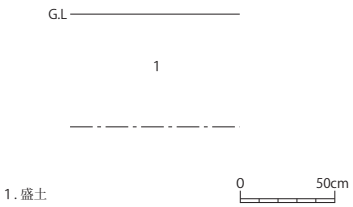
調査対象面積：90.98㎡

調査の方法：重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 60㎝）内において、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：基礎掘削は盛土内におさまることから、着工を指示。

第 80 図　トレンチ掘削状況



第 81 図　トレンチ断面図

2022 － 23　小曽根遺跡

調査日：令和 4 年（2022 年）6 月 16 日

調査場所：豊中市北条町 1 丁目 31 － 15

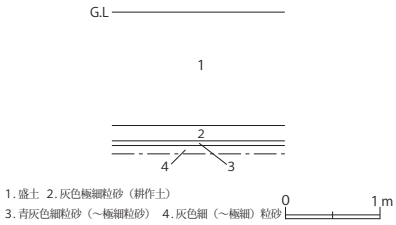
調査対象面積：33.95㎡

調査の方法：重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 150㎝）内において、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。

第 82 図　トレンチ掘削状況



第 83 図　トレンチ断面図

2022 － 24　桜塚古墳群

調査日：令和 4 年（2022 年）6 月 23 日

調査場所：豊中市南桜塚 1 丁目 155 － 6

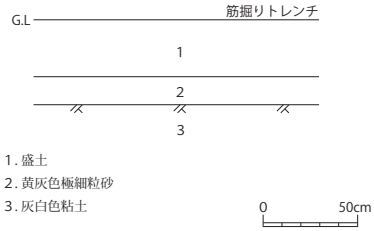
調査対象面積：66.13㎡

調査の方法：重機により筋掘りトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 45㎝において基盤層を検出したが、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。

第 84 図　トレンチ掘削状況



第 85 図　トレンチ断面図

2022 － 25　桜塚古墳群

調査日：令和 4 年（2022 年）6 月 30 日

調査場所：豊中市南桜塚 3 丁目 10 － 10

調査対象面積：119.53㎡

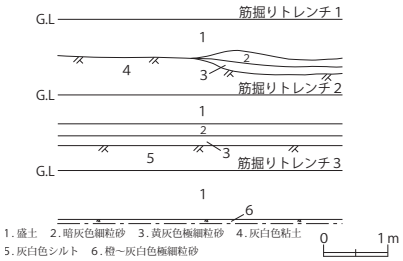
調査の方法：重機により筋掘りトレンチ 3 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：トレンチ 1 の地表下 55㎝において、須恵器片が出土した。

調査後の処置：協議後、本調査を行う。

（桜塚古墳群第 15 次調査）

第 86 図　トレンチ掘削状況



第 87 図　トレンチ断面図

2022 － 26　小曽根遺跡

調査日：令和 4 年（2022 年）7 月 7 日

調査場所：豊中市北条町 1 丁目 297 － 4

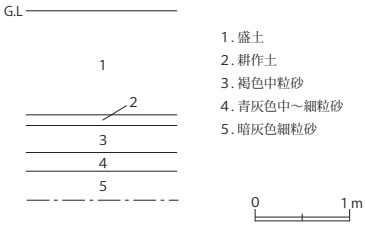
調査対象面積：44.25㎡

調査の方法：重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 200㎝）内において、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。

第 88 図　トレンチ掘削状況



第 89 図　トレンチ断面図

2022 － 27　穂積遺跡

調査日：令和 4 年（2022 年）7 月 14 日

調査場所：豊中市服部西町 4 丁目 230 － 2

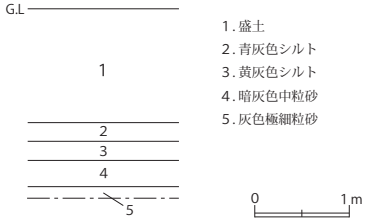
調査対象面積：104.05㎡

調査の方法：重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 200㎝）内において、明確な遺構等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。

第 90 図　トレンチ掘削状況



第 91 図　トレンチ断面図

2022 － 28　穂積遺跡

調査日：令和４年（2022 年）７月 14 日

調査場所：豊中市服部西町２丁目 1307 － ２の一部

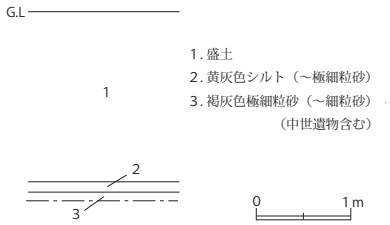
調査対象面積：72.87㎡

調査の方法：重機によりトレンチ１か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 190㎝において褐灰色極細粒砂（～細粒砂）層を検出し、層中より瓦器椀・土師器小皿が出土した。

調査後の処置：計画変更により再立会後、着工を指示。

第 92 図　トレンチ掘削状況



第 93 図　トレンチ断面図

2022 － 29　桜塚古墳群

調査日：令和４年（2022 年）７月 21 日

調査場所：豊中市南桜塚２丁目 24 － １の一部

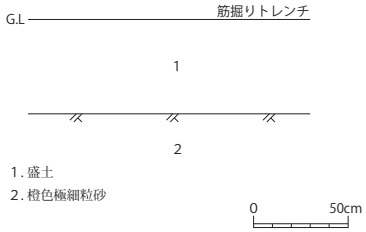
調査対象面積：92.74㎡

調査の方法：重機により筋掘りトレンチ１か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 50㎝において基盤層を検出したが、 古墳関連の遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：基礎掘削は盛土内におさまることから、確認調査後、着工を指示。

第 94 図　トレンチ掘削状況



第 95 図　トレンチ断面図

2022 － 30　桜井谷窯跡群

調査日：令和４年（2022 年）７月 28 日

調査場所：豊中市東豊中町３丁目 165 － 14

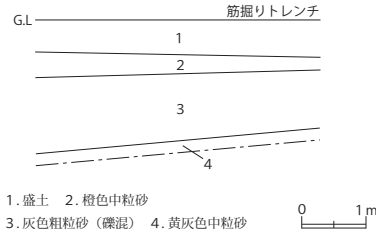
調査対象面積：48.46㎡

調査の方法：重機により筋掘りトレンチ１か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 230㎝）内において、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。

第 96 図　トレンチ掘削状況



第 97 図　トレンチ断面図

2022 － 31　本町遺跡

調査日：令和４年（2022 年）８月４日

調査場所：豊中市本町３丁目 312 － 4

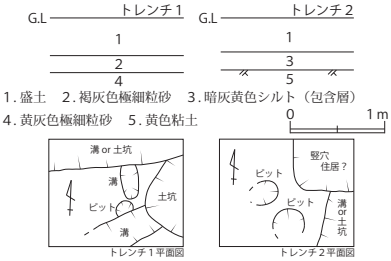
調査対象面積：46.05㎡

調査の方法：重機によりトレンチ２か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：トレンチ１の地表下 54㎝及びトレンチ２の地表下 52㎝において、遺構面をそれぞれを検出した。

調査後の処置：基礎掘削は遺構検出面に到達しないことから、再立会後、慎重工事を指示。

第 98 図　トレンチ掘削状況



第 99 図　トレンチ平面・断面図

2022 － 32　新免遺跡

調査日：令和４年（2022 年）８月４日

調査場所：豊中市玉井町２丁目 72、76 － 3

調査対象面積：197.34㎡

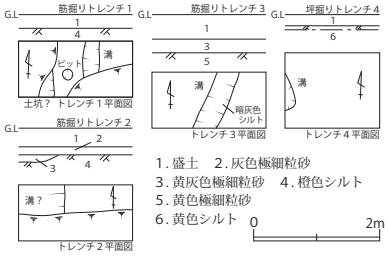
調査の方法：重機により坪掘りトレンチ１か所・筋掘りトレンチ３か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：すべてのトレンチにおいて、基盤層面に遺構を検出した。

調査後の処置：協議後、本調査を行った。

（新免遺跡第 75 次調査）

第 100 図　トレンチ掘削状況



第 101 図　トレンチ平面・断面図

2022 － 33　新免遺跡

調査日：令和４年（2022 年）８月 25 日

調査場所：豊中市末広町３丁目 17

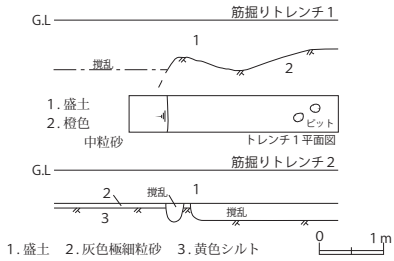
調査対象面積：322.76㎡

調査の方法：重機により筋堀りトレンチ２か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：トレンチ１においてピットの残欠を検出したが、撹乱により遺存状態が悪く、遺構密度も極めて少なかった。

調査後の処置：再立会後、慎重工事を指示。

第 102 図　トレンチ掘削状況



第 103 図　トレンチ平面・断面図

2022 － 34　柴原遺跡

調査日：令和４年（2022 年）９月１日

調査場所：豊中市柴原町１丁目１－２、２－５

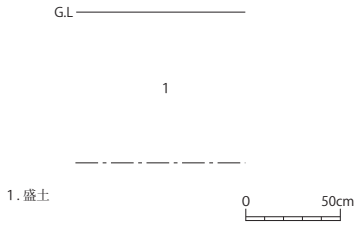
調査対象面積：49.68㎡

調査の方法：重機によりトレンチ１か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 80㎝）内において、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：基礎掘削は盛土内におさまることから、確認調査後、着工を指示。

第 104 図　トレンチ掘削状況



第 105 図　トレンチ断面図

2022 － 35　岡町北遺跡・桜塚古墳群

調査日：令和４年（2022 年）９月８日

調査場所：豊中市岡町北１丁目 40 － 1

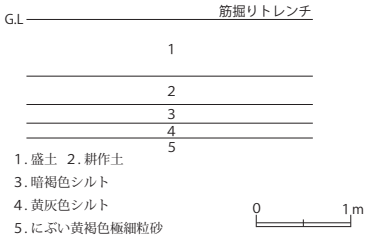
調査対象面積：39.76㎡

調査の方法：重機により筋堀りトレンチ１か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 90㎝において暗褐色シルト層（無遺物）を検出したが、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。

第 106 図　トレンチ掘削状況



第 107 図　トレンチ断面図

2022 － 36　桜塚古墳群

調査日：令和４年（2022 年）９月８日

調査場所：豊中市南桜塚３丁目 126

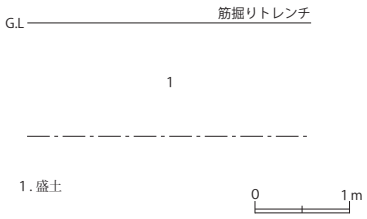
調査対象面積：178.20㎡

調査の方法：重機により筋掘りトレンチ１か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 120㎝）内において、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：基礎掘削は盛土内におさまることから、確認調査後、着工を指示。

第 108 図　トレンチ掘削状況



第 109 図　トレンチ断面図

2022 － 37　桜塚古墳群

調査日：令和 4 年（2022 年）9 月 15 日

調査場所：豊中市南桜塚 1 丁目 7、12 の各一部

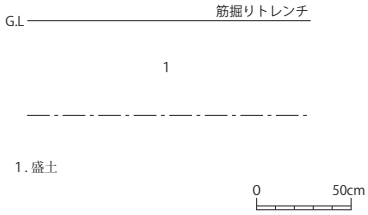
調査対象面積：53.82㎡

調査の方法：重機により筋堀りトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 50㎝）内において、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：基礎掘削は盛土内におさまることから、確認調査後、着工を指示。

第 110 図　トレンチ掘削状況



第 111 図　トレンチ断面図

2022 － 38　上津島南遺跡

調査日：令和 4 年（2022 年）9 月 15 日

調査場所：豊中市今在家町 182 － 3、208 の各一部

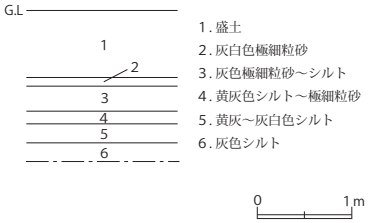
調査対象面積：61.21㎡

調査の方法：重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 160㎝）内において、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。

第 112 図　トレンチ掘削状況



第 113 図　トレンチ断面図

2022 － 39　利倉西遺跡

調査日：令和 4 年（2022 年）9 月 22 日

調査場所：豊中市利倉西 2 丁目 69 － 3

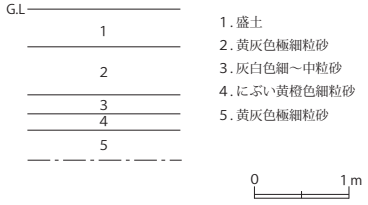
調査対象面積：50.92㎡

調査の方法：重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 160㎝）内において、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。

第 114 図　トレンチ掘削状況



第 115 図　トレンチ断面図

2022 － 40　穂積遺跡

調査日：令和 4 年（2022 年）9 月 29 日

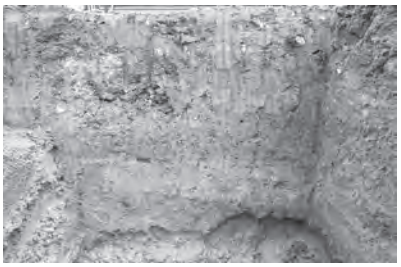
調査場所：豊中市服部本町 2 丁目 2 － 1, － 2

調査対象面積：44.72㎡

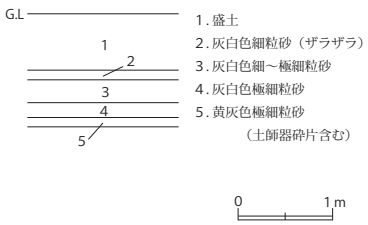
調査の方法：重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 110㎝において、土師器破片を含む遺物包含層を検出した。

調査後の処置：基礎掘削は盛土内におさまることから、再立会後、着工を指示。



第 116 図　トレンチ掘削状況



第 117 図　トレンチ断面図

2022 － 41　曽根遺跡

調査日：令和 4 年（2022 年）9 月 29 日

調査場所：豊中市曽根西町 3 丁目 17 － 9

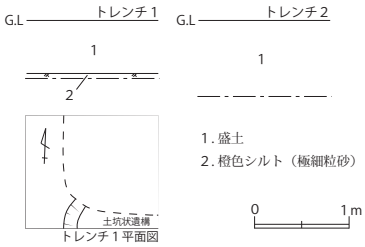
調査対象面積：60.87㎡

調査の方法：重機によりトレンチ 2 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：トレンチ 1 で地表下 55cm において基盤層を検出し、その上面で土坑状遺構を確認した。

調査後の処置：基礎深度は盛土内におさまることから、再立会後、着工を指示。

第 118 図　トレンチ掘削状況



第 119 図　トレンチ平面・断面図

2022 － 42　本町遺跡

調査日：令和 4 年（2022 年）10 月 6 日

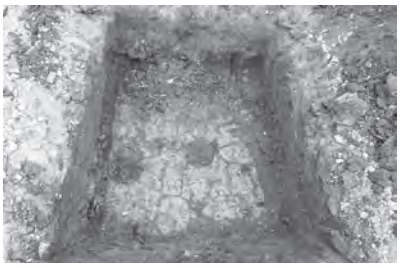
調査場所：豊中市本町 3 丁目 312 － 4

調査対象面積：46.47㎡

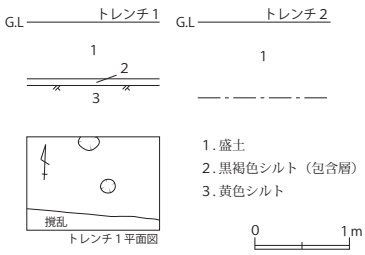
調査の方法：重機によりトレンチ 2 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：トレンチ 1 で地表下 66cm においてピットを検出した。

調査後の処置：基礎深度は盛土内におさまることから、再立会後、着工を指示。



第 120 図　トレンチ掘削状況



第 121 図　トレンチ平面・断面図

2022 － 43　利倉遺跡

調査日：令和 4 年（2022 年）10 月 20 日

調査場所：豊中市利倉 1 丁目 902 の一部

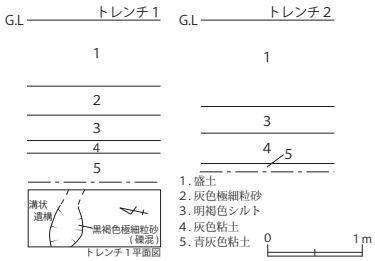
調査対象面積：88.85㎡

調査の方法：重機によりトレンチ 2 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：トレンチ 1 で地表下 100㎝において溝状遺構と土師器片が、トレンチ 2 で地表下 120cm において江戸時代以降の磁器片が見つかった。

調査後の処置：再立会後、慎重工事を指示。

第 122 図　トレンチ掘削状況



第 123 図　トレンチ平面・断面図

2022 － 44　本町遺跡

調査日：令和 4 年（2022 年）10 月 20 日

調査場所：豊中市本町 4 丁目 124 － 1

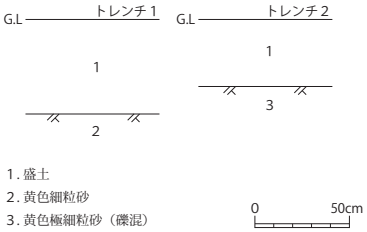
調査対象面積：97.72㎡

調査の方法：重機によりトレンチ 2 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 35・50㎝において基盤層を検出したが、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。

第 124 図　トレンチ掘削状況



第 125 図　トレンチ断面図

2022 － 45　小曽根遺跡

調査日：令和 4 年（2022 年）10 月 27 日

調査場所：豊中市小曽根 1 丁目 1678 － 6

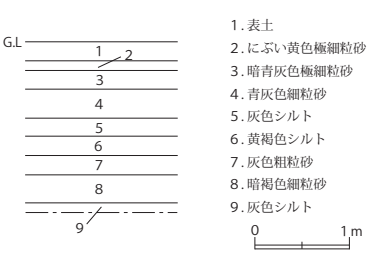
調査対象面積：80.07㎡

調査の方法：重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 180㎝）内において、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。

第 126 図　トレンチ掘削状況



第 127 図　トレンチ断面図

2022 － 46　穂積遺跡

調査日：令和 4 年（2022 年）10 月 27 日

調査場所：豊中市服部西町 2 丁目 62 － 6 の一部

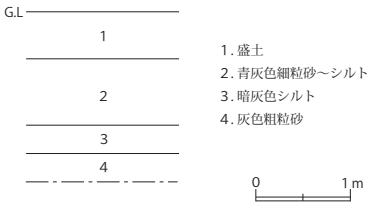
調査対象面積：68.23㎡

調査の方法：重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 180cm）内において、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。

第 128 図　トレンチ掘削状況



第 129 図　トレンチ断面図

2022 － 47　穂積遺跡

調査日：令和 4 年（2022 年）11 月 10 日

調査場所：豊中市服部西町 3 丁目 1440 － 1 の一部

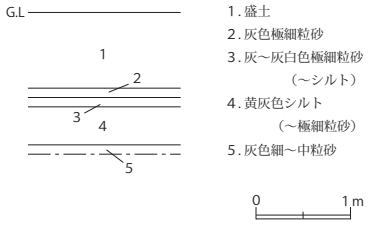
調査対象面積：79.49㎡

調査の方法：重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 150㎝）内において、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。

第 130 図　トレンチ掘削状況



第 131 図　トレンチ断面図

2022 － 48　岡町北遺跡・桜塚古墳群

調査日：令和 4 年（2022 年）11 月 10 日

調査場所：豊中市岡町北 3 丁目 17
17 － 1 の各一部

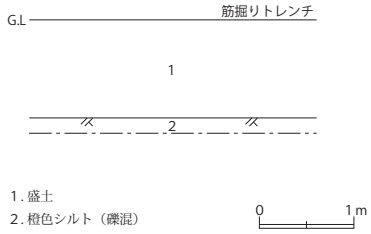
調査対象面積：63.18㎡

調査の方法：重機により筋掘りトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 105㎝において基盤層を検出したが、集落跡及び古墳関連の遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。

第 132 図　トレンチ掘削状況



第 133 図　トレンチ断面図

2022 － 49　岡町北遺跡・桜塚古墳群

調査日：令和 4 年（2022 年）11 月 10 日

調査場所：豊中市岡町北 3 丁目 17
17 － 1 の各一部

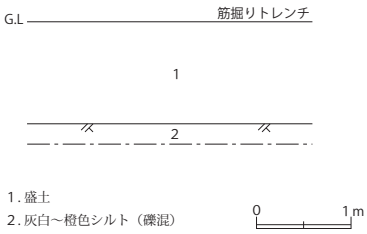
調査対象面積：62.91㎡

調査の方法：重機により筋掘りトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 110㎝において基盤層を検出したが、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。

第 134 図　トレンチ掘削状況



第 135 図　トレンチ断面図

2022 － 50　桜塚古墳群・岡町遺跡

調査日：令和 4 年（2022 年）11 月 24 日

調査場所：豊中市中桜塚 2 丁目 430、430 － 2

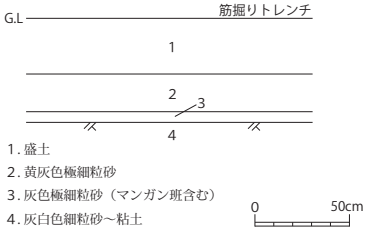
調査対象面積：43.50㎡

調査の方法：重機により筋掘りトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 55㎝において基盤層を検出したが、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。

第 136 図　トレンチ掘削状況



第 137 図　トレンチ断面図

2022 － 51　桜井谷窯跡群

調査日：令和 4 年（2022 年）11 月 24 日

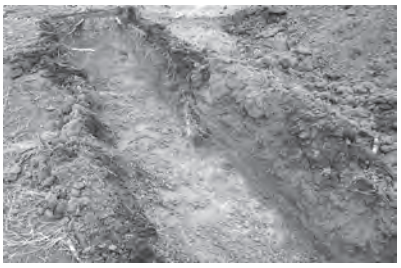
調査場所：豊中市上新田 1 丁目 870 － 1

調査対象面積：74.21㎡

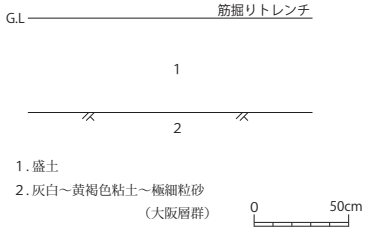
調査の方法：重機により筋掘りトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 50㎝において基盤層を検出したが、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 138 図　トレンチ掘削状況



第 139 図　トレンチ断面図

2022 － 52　山ノ上遺跡

調査日：令和４年（2022 年）12 月８日

調査場所：豊中市宝山町 116 － 7, － 12

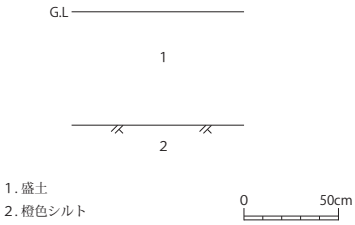
調査対象面積：46.73㎡

調査の方法：重機によりトレンチ１か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 60㎝において基盤層を検出したが、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、 慎重工事を指示。

第 140 図　トレンチ掘削状況



第 141 図　トレンチ断面図

2022 － 53　桜塚古墳群

調査日：令和４年（2022 年）12 月８日

調査場所：豊中市南桜塚１丁目 35 － 2

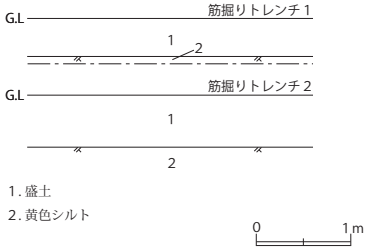
調査対象面積：60.89㎡

調査の方法：重機により筋掘りトレンチ２か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 40・55㎝において基盤層を検出したが、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。

第 142 図　トレンチ掘削状況



第 143 図　トレンチ断面図

2022 － 54　新免遺跡

調査日：令和４年（2022 年）12 月８日

調査場所：豊中市立花町１丁目 18 － 3

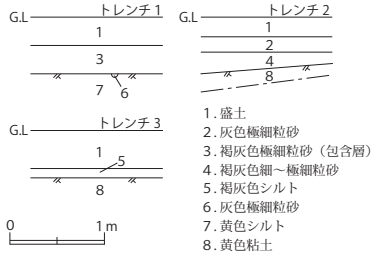
調査対象面積：149.49㎡

調査の方法：重機によりトレンチ３か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：トレンチ１の地表下 60㎝において遺構の残欠を検出したが、その他のトレンチでは明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：トレンチ１の遺構は近世以降のものと思われることから、再立会後、慎重工事を指示。

第 144 図　トレンチ掘削状況



第 145 図　トレンチ断面図

2022 － 55　少路遺跡

調査日：令和 4 年（2022 年）12 月 15 日

調査場所：豊中市春日町 2 丁目 62 － 4

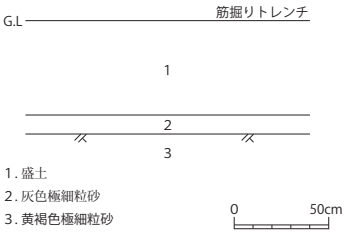
調査対象面積：53.82㎡

調査の方法：重機により筋掘りトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 60㎝において基盤層を検出したが、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。

第 146 図　トレンチ掘削状況



第 147 図　トレンチ断面図

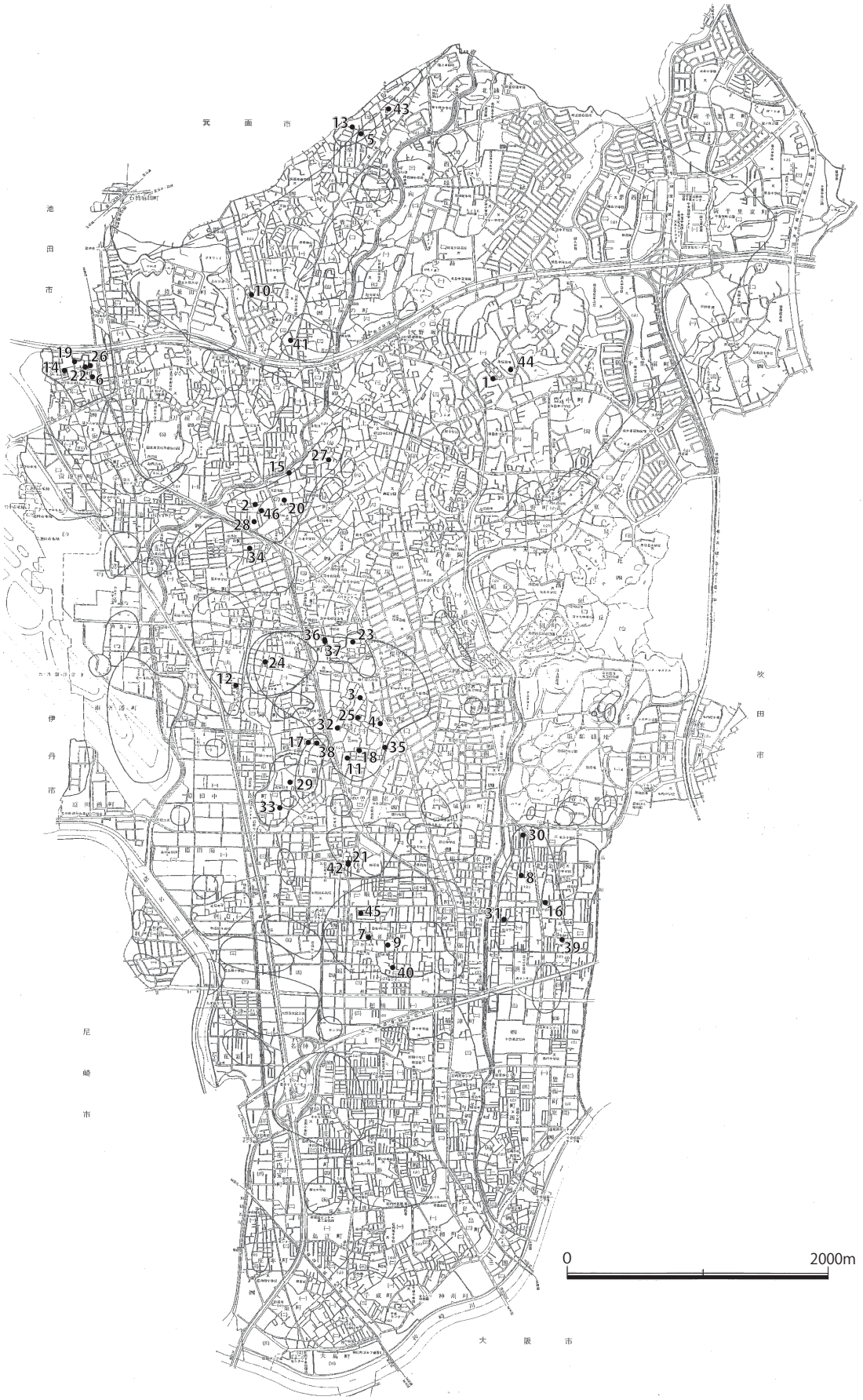
第Ⅶ章　確認調査の成果（2023 年）

令和５年（2023 年）１月から 12 月の間に個人住宅を対象に行った確認調査は 46 件を数える。このうち、８件の調査で遺構等が確認されたが、建物に伴う基礎掘削が遺構面に達しないことなどから、本格的な発掘調査を行うには至っていない。

以下、確認調査の概要について報告する。第 148 図に掲載した確認調査地点位置図の番号および各確認調査の番号は、下表の番号に対応する。

第２表　令和５年（2023 年）確認調査一覧表

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査原因	調査対象面積（㎡）	遺構等の有無	調査後の処置	担当者	備考
1	桜井谷窯跡群	東豊中町１丁目 60-31	20230119	個人住宅建設	134.22	無	着工	中村	
2	本町遺跡	本町３丁目 103-1、104-1	20230119	個人住宅建設	151.01	有	協議後、本調査	中村・陣内	本町 46 次
3	桜塚古墳群	中桜塚１丁目 158-2	20230126	個人住宅建設	69.82	無	着工	中村	
4	桜塚古墳群	南桜塚１丁目 7-3,-5	20230126	個人住宅建設	49.68	無	着工	中村	
5	太鼓塚古墳群・桜井谷窯跡群	永楽荘２丁目 294-1,-3 の各一部	20230126	個人住宅建設	55.89	無	着工	中村	
6	蛍池北遺跡	螢池北町１丁目 140-1 の一部	20230316	個人住宅建設	49.70	無	着工	中村	
7	穂積遺跡	服部西町３丁目 1371-1 の一部	20230323	個人住宅建設	28.48	無	着工	中村	
8	小曽根遺跡	北条町１丁目 43-1	20230427	個人住宅建設	120.07	無	着工	小堀	
9	穂積遺跡	服部西町２丁目 761-1 の一部	20230427	個人住宅建設	152.59	無	着工	小堀	
10	桜井谷窯跡群	柴原町５丁目 144-17	20230511	個人住宅建設	58.70	未	着工	橘田	盛土内
11	桜塚古墳群	曽根東町１丁目 24-2	20230518	分譲住宅建設	67.30	無	着工	中村	
12	山ノ上遺跡	宝山町 47、48-4 の各一部、41-3	20230525	個人住宅建設	75.12	無	着工	中村	
13	太鼓塚古墳群	永楽荘３丁目 74-2	20230525	個人住宅建設	95.69	無	着工	中村	
14	蛍池北遺跡	螢池北町２丁目 43-12	20230601	個人住宅建設	43.65	有	再立会後、慎重工事	中村	盛土内
15	本町遺跡	本町４丁目 166-3	20230615	個人住宅建設	51.43	無	着工	陣内	
16	小曽根遺跡	小曽根１丁目 449-1,-2	20230615	個人住宅建設	131.33	無	着工	中村	
17	桜塚古墳群	曽根東町１丁目 89-7,-8	20230615	個人住宅建設	59.85	無	着工	中村	
18	桜塚古墳群	南桜塚１丁目 154-7	20230629	個人住宅建設	70.00	無	着工	小堀	
19	蛍池北遺跡	螢池北町１丁目 160-1,-3	20230713	個人住宅建設	52.48	無	着工	小堀	
20	本町遺跡	本町３丁目 312-6	20230713	個人住宅建設	47.47	有	再立会後、慎重工事	中村	基礎浅
21	豊島北遺跡	曽根南町１丁目 154-13	20230713	個人住宅建設	39.69	未	着工	中村	盛土内
22	蛍池北遺跡	螢池北町１丁目 131-1	20230803	個人住宅建設	57.95	無	着工	小堀	
23	岡町遺跡・桜塚古墳群	中桜塚２丁目 100-6（17 号地）	20230810	個人住宅建設	51.34	有	再立会後、慎重工事	小堀	基礎浅
24	岡町北遺跡・桜塚古墳群	岡町北２丁目 38、39 の各一部	20230817	個人住宅建設	67.74	有	再立会後、着工	小堀	設計変更
25	桜塚古墳群	南桜塚１丁目 90-1 の一部	20230824	個人住宅建設	74.52	無	着工	小堀	
26	蛍池北遺跡	螢池北町１丁目 140-1	20230907	個人住宅建設	51.18	無	着工	中村	
27	本町遺跡	本町９丁目 81-6 の一部	20230907	個人住宅建設	60.24	未	着工	小堀	盛土内
28	本町遺跡	本町２丁目 2-6 の一部	20230914	個人住宅建設	79.87	有	再立会後、慎重工事	小堀	基礎浅
29	原田遺跡	原田元町２丁目 110-2 の一部	20230928	個人住宅建設	40.50	無	着工	小堀	
30	小曽根遺跡	北条町１丁目 18-33	20231012	個人住宅建設	33.12	無	着工	小堀	
31	小曽根遺跡	浜１丁目 344-11	20231019	個人住宅建設	54.65	無	着工	小堀	
32	桜塚古墳群	中桜塚１丁目 354-1,-9,-10	20231019	個人住宅建設	30.28	未	着工	小堀	基礎浅
33	原田遺跡	原田元町３丁目 25-2 の一部	20231026	個人住宅建設	56.53	有	再立会後、慎重工事	小堀	盛土内
34	新免遺跡	玉井町１丁目 196-2	20231026	個人住宅建設	84.35	無	着工	小堀	
35	桜塚古墳群	南桜塚１丁目 251 の一部	20231026	個人住宅建設	59.24	無	着工	小堀	
36	桜塚古墳群	岡町 12-1	20231102	個人住宅建設	31.05	未	着工	小堀	盛土内
37	桜塚古墳群	岡町 12-3	20231102	個人住宅建設	31.05	未	着工	小堀	盛土内
38	曽根遺跡	曽根西町３丁目 39-1 の一部	20231116	個人住宅建設	66.24	可	慎重工事	中村	盛土内
39	小曽根遺跡	小曽根１丁目 1678-1	20231130	個人住宅建設	123.80	未	再立会後、慎重工事	中村	基礎浅
40	穂積遺跡	服部寿町２丁目 739-5 の一部	20231130	個人住宅建設	69.72	無	着工	中村	
41	内田遺跡・桜井谷窯跡群	柴原町３丁目 114-7	20231130	個人住宅建設	49.10	可	慎重工事	中村	基礎浅
42	豊島北遺跡	曽根南町１丁目 154-50 の一部	20231214	個人住宅建設	39.18	未	着工	中村	基礎浅
43	太鼓塚古墳群	永楽荘３丁目 100-3	20231214	個人住宅建設	83.79	未	着工	小堀	盛土内
44	桜井谷窯跡群	東豊中町１丁目 118-4	20231214	個人住宅建設	69.26	無	着工	小堀	
45	穂積遺跡	服部西町３丁目 105-146	20231221	個人住宅建設	51.03	無	着工	橘田	
46	本町遺跡	本町３丁目 117	20231221	個人住宅建設	71.81	有	協議後、再立会予定	小堀	計画変更



第 148 図　確認調査地点位置図

2023 － 01　桜井谷窯跡群

調査日：令和 5 年（2023 年）1 月 19 日

調査場所：豊中市東豊中町 1 丁目 60 － 31

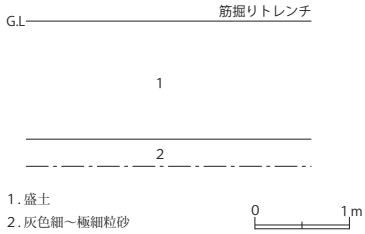
調査対象面積：134.22㎡

調査の方法：重機により筋掘りトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 155㎝）内において、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。

第 149 図　トレンチ掘削状況



第 150 図　トレンチ断面図

2023 － 02　本町遺跡

調査日：令和 5 年（2023 年）1 月 19 日

調査場所：豊中市本町 3 丁目 103 － 1、104 － 1

調査対象面積：151.01㎡

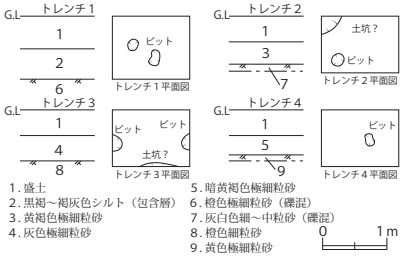
調査の方法：重機によりトレンチ 4 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：すべてのトレンチで遺構を検出し、トレンチ 1 では須恵器片と土師器片が出土した。

調査後の処置：協議後、本調査を行った。

（本町遺跡第 46 次調査）

第 151 図　トレンチ掘削状況



第 152 図　トレンチ平面・断面図

2023 － 03　桜塚古墳群

調査日：令和 5 年（2023 年）1 月 26 日

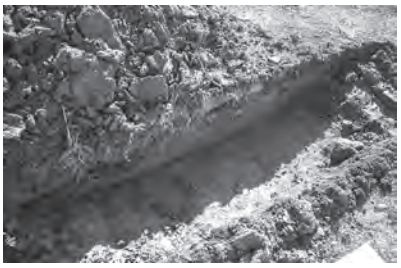
調査場所：豊中市中桜塚 1 丁目 158 － 2

調査対象面積：69.82㎡

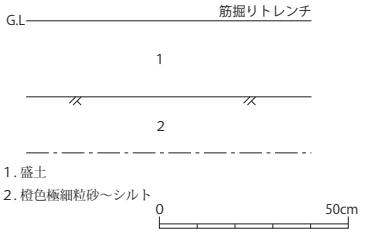
調査の方法：重機により筋掘りトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 20㎝において基盤層を検出したが、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 153 図　トレンチ掘削状況



第 154 図　トレンチ断面図

2023 － 04　桜塚古墳群

調査日：令和 5 年（2023 年）1 月 26 日

調査場所：豊中市南桜塚 1 丁目 7 － 3, － 5

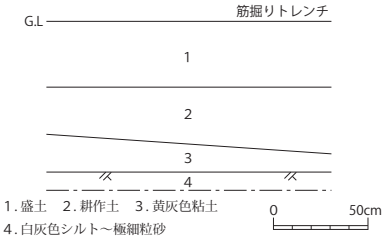
調査対象面積：49.68㎡

調査の方法：重機により筋掘りトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 80㎝において基盤層を検出したが、明確な遺構・遺物等は確認できなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。

第 155 図　トレンチ掘削状況



第 156 図　トレンチ断面図

2023 － 05 太鼓塚古墳群・桜井谷窯跡群

調査日：令和 5 年（2023 年）1 月 26 日

調査場所：豊中市永楽荘 2 丁目 294 － 1,
－ 3 の各一部

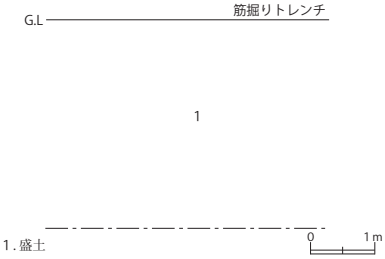
調査対象面積：55.89㎡

調査の方法：重機により筋掘りトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 330㎝) 内において、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：基礎掘削は盛土内におさまることから、確認調査後、着工を指示。

第 157 図　トレンチ掘削状況



第 158 図　トレンチ断面図

2023 － 06　蛍池北遺跡

調査日：令和 5 年（2023 年）3 月 16 日

調査場所：豊中市螢池北町 1 丁目 140 － 1 の一部

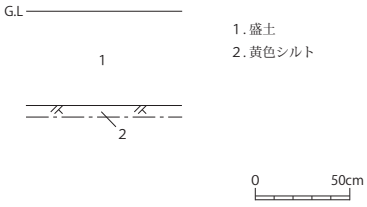
調査対象面積：49.70㎡

調査の方法：重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 50㎝において基盤層を検出したが、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。

第 159 図　トレンチ掘削状況



第 160 図　トレンチ断面図

2023 － 07　穂積遺跡

調査日：令和 5 年（2023 年）3 月 23 日

調査場所：豊中市服部西町 3 丁目 1371 － 1 の一部

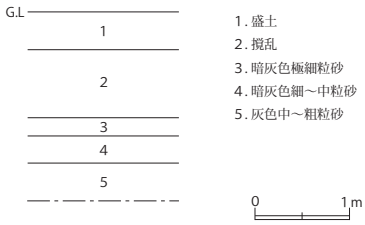
調査対象面積：28.48㎡

調査の方法：重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 200㎝）内において、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。

第 161 図　トレンチ掘削状況



第 162 図　トレンチ断面図

2023 － 08　小曽根遺跡

調査日：令和 5 年（2023 年）4 月 27 日

調査場所：豊中市北条町 1 丁目 43 － 1

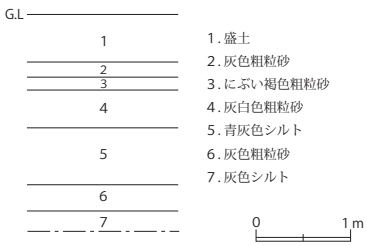
調査対象面積：120.07㎡

調査の方法：重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 230㎝）内において、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。

第 163 図　トレンチ掘削状況



第 164 図　トレンチ断面図

2023 － 09　穂積遺跡

調査日：令和 5 年（2023 年）4 月 27 日

調査場所：豊中市服部西町 2 丁目 761 － 1 の一部

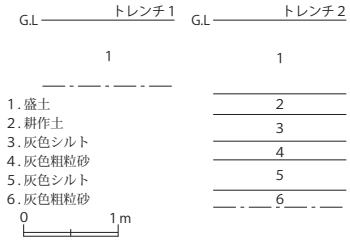
調査対象面積：152.59㎡

調査の方法：重機によりトレンチ 2 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 200㎝）内において、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。

第 165 図　トレンチ掘削状況



第 166 図　トレンチ断面図

2023 － 10　桜井谷窯跡群

調査日：令和 5 年（2023 年）5 月 11 日

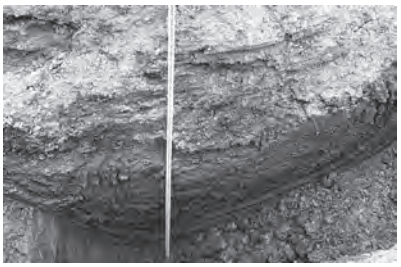
調査場所：豊中市柴原町 5 丁目 144 － 17

調査対象面積：58.70㎡

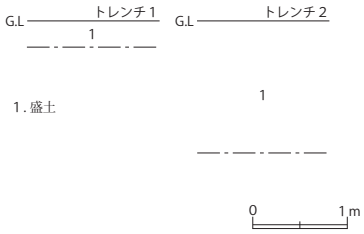
調査の方法：重機によりトレンチ 2 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 140㎝）内において、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：基礎掘削は盛土内におさまることから、確認調査後、着工を指示。



第 167 図　トレンチ掘削状況



第 168 図　トレンチ断面図

2023 － 11　桜塚古墳群

調査日：令和 5 年（2023 年）5 月 18 日

調査場所：豊中市曽根東町 1 丁目 24 － 2

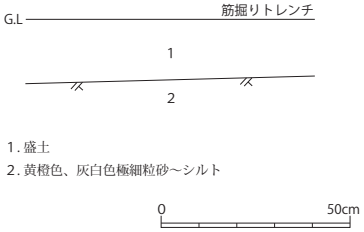
調査対象面積：67.30㎡

調査の方法：重機により筋掘りトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 15㎝において基盤層を検出したが、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。

第 169 図　トレンチ掘削状況



第 170 図　トレンチ断面図

2023 － 12　山ノ上遺跡

調査日：令和 5 年（2023 年）5 月 25 日

調査場所：豊中市宝山町 47、48 － 4 の各一部
41 － 3

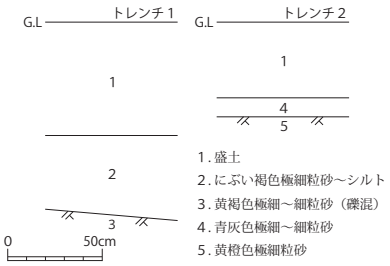
調査対象面積：75.12㎡

調査の方法：重機によりトレンチ 2 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 50・105㎝において基盤層を検出したが、明確な遺構等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。

第 171 図　トレンチ掘削状況



第 172 図　トレンチ断面図

2023 － 13　太鼓塚古墳群

調査日：令和 5 年（2023 年）5 月 25 日

調査場所：豊中市永楽荘 3 丁目 74 － 2

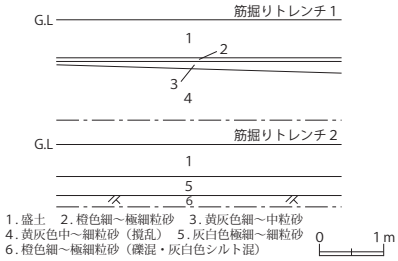
調査対象面積：95.69㎡

調査の方法：重機により筋掘りトレンチ 2 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：トレンチ 2 の地表下 80㎝において基盤層を検出したが、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。

第 173 図　トレンチ掘削状況



第 174 図　トレンチ断面図

2023 － 14　蛍池北遺跡

調査日：令和 5 年（2023 年）6 月 1 日

調査場所：豊中市螢池北町 2 丁目 43 － 12

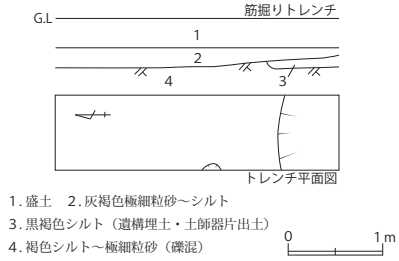
調査対象面積：43.65㎡

調査の方法：重機により筋掘りトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 40㎝において遺構を検出し、遺構埋土から土師器片が出土した。

調査後の処置：基礎掘削は盛土内におさまることから、再立会後、慎重工事を指示。

第 175 図　トレンチ掘削状況



第 176 図　トレンチ平面・断面図

2023 － 15　本町遺跡

調査日：令和 5 年（2023 年）6 月 15 日

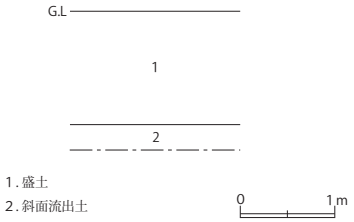
調査場所：豊中市本町 4 丁目 166 － 3

調査対象面積：51.43㎡

調査の方法：重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 150㎝）内において、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、慎重工事を指示。



第 177 図　トレンチ断面図

2023 － 16　小曽根遺跡

調査日：令和５年（2023 年）６月15日

調査場所：豊中市小曽根１丁目 449 － 1, － 2

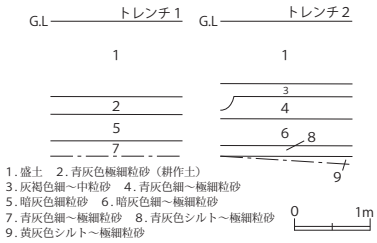
調査対象面積：131.33㎡

調査の方法：重機によりトレンチ２か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 190㎝）内において、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。

第 178 図　トレンチ掘削状況



第 179 図　トレンチ断面図

2023 － 17　桜塚古墳群

調査日：令和５年（2023 年）６月15日

調査場所：豊中市曽根東町１丁目 89 － 7, － 8

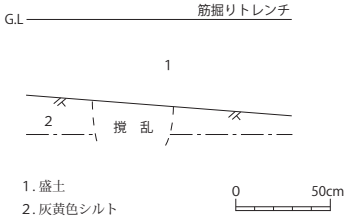
調査対象面積：59.85㎡

調査の方法：重機により筋掘りトレンチ１か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 35 ～ 50㎝において基盤層を検出したが、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。

第 180 図　トレンチ掘削状況



第 181 図　トレンチ断面図

2023 － 18　桜塚古墳群

調査日：令和５年（2023 年）６月29日

調査場所：豊中市南桜塚１丁目 154 － 7

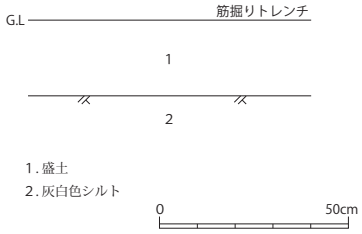
調査対象面積：70.00㎡

調査の方法：重機により筋掘りトレンチ１か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 20㎝において基盤層を検出したが、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。

第 182 図　トレンチ掘削状況



第 183 図　トレンチ断面図

2023 － 19　蛍池北遺跡

調査日：令和 5 年（2023 年）7 月 13 日

調査場所：豊中市螢池北町 1 丁目 160 － 1, － 3

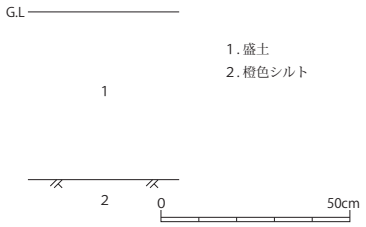
調査対象面積：52.48㎡

調査の方法：重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 44㎝において基盤層を検出したが、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：基礎掘削は盛土内におさまることから、確認調査後、着工を指示。

第 184 図　トレンチ掘削状況



第 185 図　トレンチ断面図

2023 － 20　本町遺跡

調査日：令和 5 年（2023 年）7 月 13 日

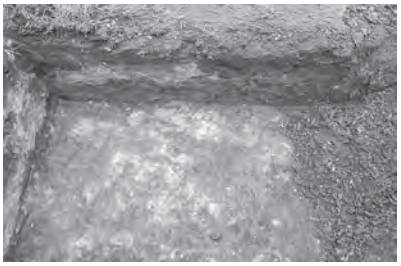
調査場所：豊中市本町 3 丁目 312 － 6

調査対象面積：47.47㎡

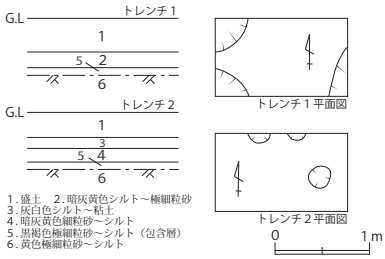
調査の方法：重機によりトレンチ 2 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：トレンチ 1 ・ 2 で地表下 50 ～ 54㎝において包含層を、地表下 57cm において遺構を検出した。

調査後の処置：基礎掘削は包含層に至らないことから、再立会後、慎重工事を指示。



第 186 図　トレンチ掘削状況



第 187 図　トレンチ平面・断面図

2023 － 21　豊島北遺跡

調査日：令和 5 年（2023 年）7 月 13 日

調査場所：豊中市曽根南町 1 丁目 154 － 13

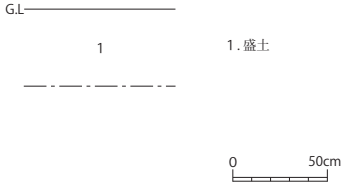
調査対象面積：39.69㎡

調査の方法：重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 40㎝）内において、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：基礎掘削は盛土内におさまることから、確認調査後、着工を指示。

第 188 図　トレンチ掘削状況



第 189 図　トレンチ断面図

2023 － 22　蛍池北遺跡

調査日：令和５年（2023 年）８月３日

調査場所：豊中市螢池北町１丁目 131 － 1

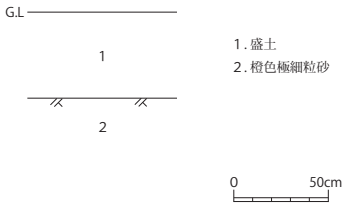
調査対象面積：57.95㎡

調査の方法：重機によりトレンチ１か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 45㎝において基盤層を検出したが、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：基礎掘削は盛土内におさまることから、確認調査後、着工を指示。

第 190 図　トレンチ掘削状況



第 191 図　トレンチ断面図

2023 － 23　岡町遺跡・桜塚古墳群

調査日：令和５年（2023 年）８月 10 日

調査場所：豊中市中桜塚２丁目 100 － 6（17 号地）

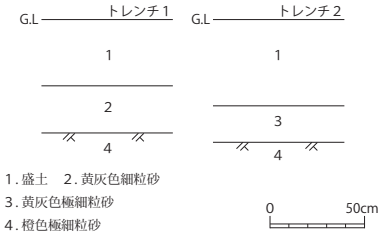
調査対象面積：51.34㎡

調査の方法：重機によりトレンチ２か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 60・65㎝において基盤層を検出したが、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：過去の確認調査において遺構を確認した敷地であることから、再立会後、慎重工事を指示。

第 192 図　トレンチ掘削状況



第 193 図　トレンチ断面図

2023 － 24　岡町北遺跡・桜塚古墳群

調査日：令和５年（2023 年）８月 17 日

調査場所：豊中市岡町北２丁目 38、39 の各一部

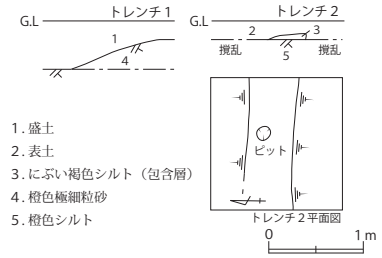
調査対象面積：67.74㎡

調査の方法：重機によりトレンチ２か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：トレンチ２の地表下 15㎝において土師器片を含む包含層を、地表下 20cm において基盤層面上にピットを検出した。

調査後の処置：基礎掘削深度は包含層に至らないことから、再立会後、着工を指示。

第 194 図　トレンチ掘削状況



第 195 図　トレンチ平面・断面図

2023 － 25　桜塚古墳群

調査日：令和 5 年（2023 年）8 月 24 日

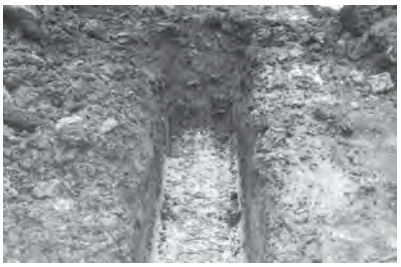
調査場所：豊中市南桜塚 1 丁目 90 － 1 の一部

調査対象面積：74.52㎡

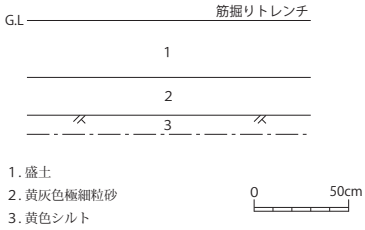
調査の方法：重機により筋掘りトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 50㎝において基盤層を検出したが、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 196 図　トレンチ掘削状況



第 197 図　トレンチ断面図

2023 － 26　蛍池北遺跡

調査日：令和 5 年（2023 年）9 月 7 日

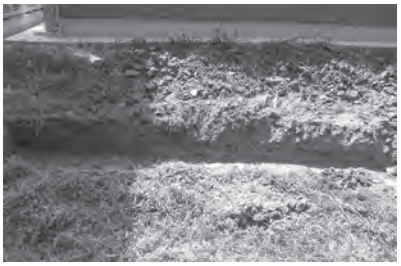
調査場所：豊中市螢池北町 1 丁目 140 － 1

調査対象面積：51.18㎡

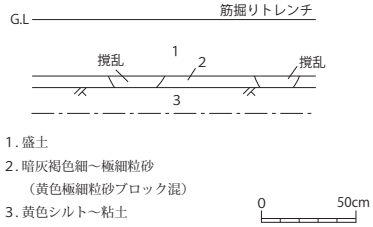
調査の方法：重機により筋掘りトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 35㎝において基盤層を検出したが、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 198 図　トレンチ掘削状況



第 199 図　トレンチ断面図

2023 － 27　本町遺跡

調査日：令和 5 年（2023 年）9 月 7 日

調査場所：豊中市本町 9 丁目 81 － 6 の一部

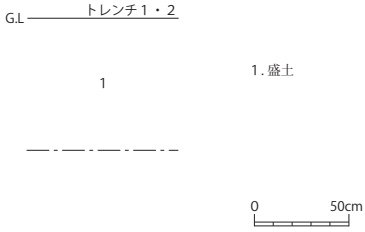
調査対象面積：60.24㎡

調査の方法：重機によりトレンチ 2 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 70㎝）内において、明確な遺構等は確認されなかった。

調査後の処置：基礎掘削は盛土内におさまることから、確認調査後、着工を指示。

第 200 図　トレンチ掘削状況



第 201 図　トレンチ断面図

2023 － 28　本町遺跡

調査日：令和５年（2023 年）９月 14 日

調査場所：豊中市本町２丁目２－６の一部

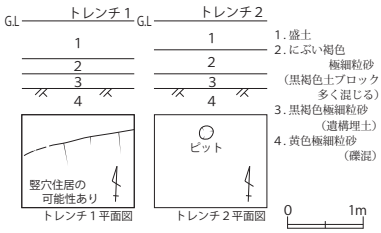
調査対象面積：79.87㎡

調査の方法：重機によりトレンチ２か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：トレンチ１・２で地表下 70㎝において遺構埋土を検出した。

調査後の処置：基礎掘削は遺構埋土に至らないことから、再立会後、慎重工事を指示。

第 202 図　トレンチ掘削状況



第 203 図　トレンチ平面・断面図

2023 － 29　原田遺跡

調査日：令和５年（2023 年）９月 28 日

調査場所：豊中市原田元町２丁目 110 － ２の一部

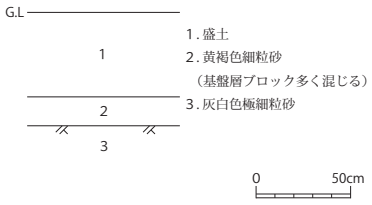
調査対象面積：40.50㎡

調査の方法：重機によりトレンチ１か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 60㎝において基盤層を検出したが、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。

第 204 図　トレンチ掘削状況



第 205 図　トレンチ断面図

2023 － 30　小曽根遺跡

調査日：令和５年（2023 年）10 月 12 日

調査場所：豊中市北条町１丁目 18 － 33

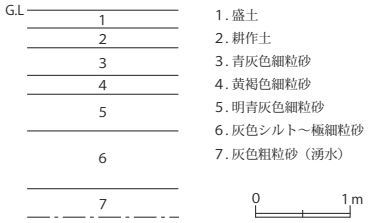
調査対象面積：33.12㎡

調査の方法：重機によりトレンチ１か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 220㎝）内において、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。

第 206 図　トレンチ掘削状況



第 207 図　トレンチ断面図

2023 － 31　小曽根遺跡

調査日：令和 5 年（2023 年）10 月 19 日

調査場所：豊中市浜 1 丁目 344 － 11

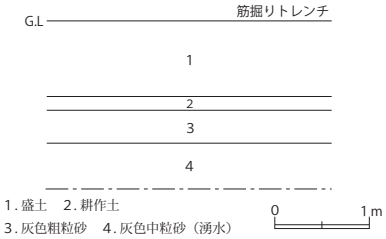
調査対象面積：54.65㎡

調査の方法：重機により筋掘りトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 180cm）内において、今西氏屋敷に関連する遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：基礎掘削は盛土内におさまることから、確認調査後、着工を指示。

第 208 図　トレンチ掘削状況



第 209 図　トレンチ断面図

2023 － 32　桜塚古墳群

調査日：令和 5 年（2023 年）10 月 19 日

調査場所：豊中市中桜塚 1 丁目 354 － 1, － 9, － 10

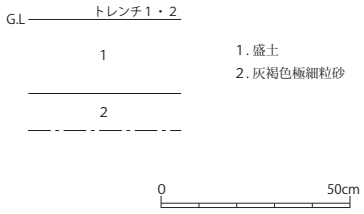
調査対象面積：30.28㎡

調査の方法：重機によりトレンチ 2 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 30㎝）内において、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。

第 210 図　トレンチ掘削状況



第 211 図　トレンチ断面図

2023 － 33　原田遺跡

調査日：令和 5 年（2023 年）10 月 26 日

調査場所：豊中市原田元町 3 丁目 25 － 2 の一部

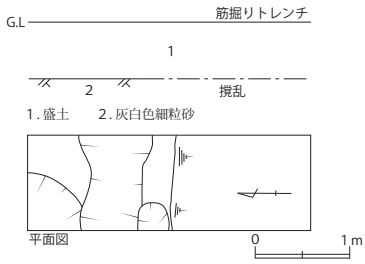
調査対象面積：56.53㎡

調査の方法：重機により筋掘りトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 60㎝の基盤層面において、多数の遺構を検出した。

調査後の処置：基礎掘削は盛土内におさまることから、再立会後、慎重工事を指示。

第 212 図　トレンチ掘削状況



第 213 図　トレンチ平面・断面図

2023 － 34　新免遺跡

調査日：令和５年（2023 年）10 月 26 日

調査場所：豊中市玉井町１丁目 196 － 2

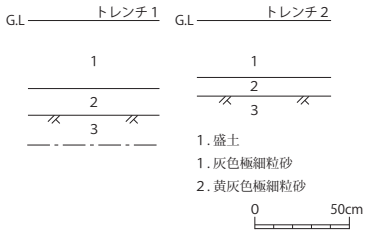
調査対象面積：84.35㎡

調査の方法：重機によりトレンチ２か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 40・50㎝において基盤層を検出したが、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。

第 214 図　トレンチ掘削状況



第 215 図　トレンチ断面図

2023 － 35　桜塚古墳群

調査日：令和５年（2023 年）10 月 26 日

調査場所：豊中市南桜塚１丁目 251 の一部

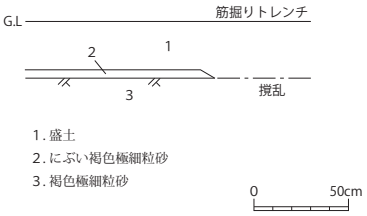
調査対象面積：59.24㎡

調査の方法：重機により筋掘りトレンチ１か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 30㎝において基盤層を検出したが、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。

第 216 図　トレンチ掘削状況



第 217 図　トレンチ断面図

2023 － 36　桜塚古墳群

調査日：令和５年（2023 年）11 月２日

調査場所：豊中市岡町 12 － 1

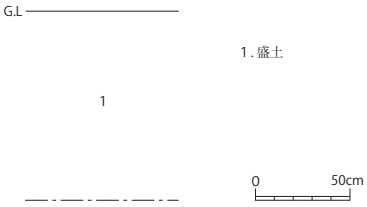
調査対象面積：31.05㎡

調査の方法：重機によりトレンチ１か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 100㎝）内において、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：基礎掘削は盛土内におさまることから、確認調査後、着工を指示。

第 218 図　トレンチ掘削状況



第 219 図　トレンチ断面図

2023 － 37　桜塚古墳群

調査日：令和 5 年（2023 年）11 月 2 日

調査場所：豊中市岡町 12 － 3

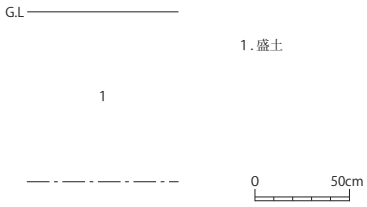
調査対象面積：31.05㎡

調査の方法：重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 90㎝）内において、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：基礎掘削は盛土内におさまることから、確認調査後、着工を指示。

第 220 図　トレンチ掘削状況



第 221 図　トレンチ断面図

2023 － 38　曽根遺跡

調査日：令和 5 年（2023 年）11 月 16 日

調査場所：豊中市曽根西町 3 丁目 39 － 1 の一部

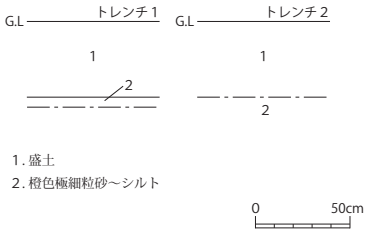
調査対象面積：66.24㎡

調査の方法：重機によりトレンチ 2 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 45㎝）内において、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：基礎掘削は盛土内におさまることから、確認調査後、慎重工事を指示。

第 222 図　トレンチ掘削状況



第 223 図　トレンチ断面図

2023 － 39　小曽根遺跡

調査日：令和 5 年（2023 年）11 月 30 日

調査場所：豊中市小曽根 1 丁目 1678 － 1

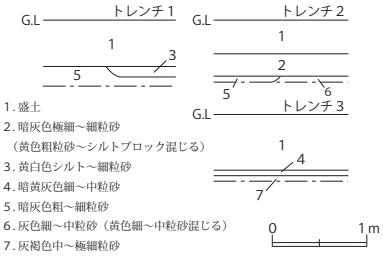
調査対象面積：123.80㎡

調査の方法：重機によりトレンチ 3 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 70㎝）内において、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：近隣では遺構・遺物等が確認されていることから、再立会後、慎重工事を指示。

第 224 図　トレンチ掘削状況



第 225 図　トレンチ断面図

2023 － 40　穂積遺跡

調査日：令和 5 年（2023 年）11 月 30 日

調査場所：豊中市服部寿町 2 丁目 739 － 5 の一部

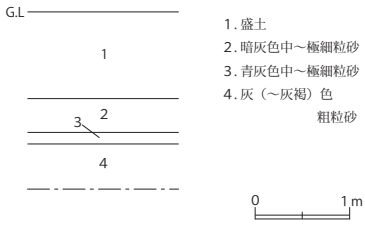
調査対象面積：69.72㎡

調査の方法：重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 190㎝）内において、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。

第 226 図　トレンチ掘削状況



第 227 図　トレンチ断面図

2023 － 41　内田遺跡・桜井谷窯跡群

調査日：令和 5 年（2023 年）11 月 30 日

調査場所：豊中市柴原町 3 丁目 114 － 7

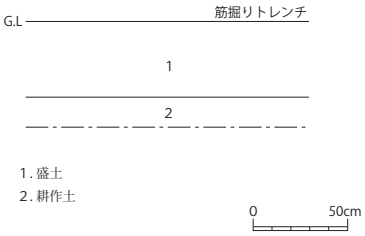
調査対象面積：49.10㎡

調査の方法：重機により筋掘りトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 55㎝）内において、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：周辺の状況からより深いところに遺構がある可能性があるため、慎重工事を指示。

第 228 図　トレンチ掘削状況



第 229 図　トレンチ断面図

2023 － 42　豊島北遺跡

調査日：令和 5 年（2023 年）12 月 14 日

調査場所：豊中市曽根南町 1 丁目 154 － 50 の一部

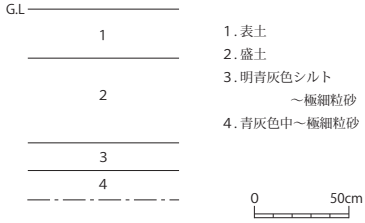
調査対象面積：39.18㎡

調査の方法：重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 100㎝）内において、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。

第 230 図　トレンチ掘削状況



第 231 図　トレンチ断面図

2023 － 43　太鼓塚古墳群

調査日：令和 5 年（2023 年）12 月 14 日

調査場所：豊中市永楽荘 3 丁目 100 － 3

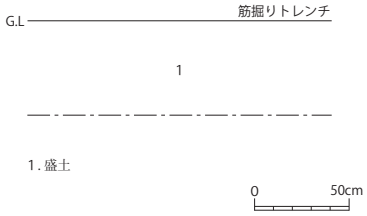
調査対象面積：83.79㎡

調査の方法：重機により筋掘りトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 50㎝）内において、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：基礎掘削は盛土内におさまることから、確認調査後、着工を指示。

第 232 図　トレンチ掘削状況



第 233 図　トレンチ断面図

2023 － 44　桜井谷窯跡群

調査日：令和 5 年（2023 年）12 月 14 日

調査場所：豊中市東豊中町 1 丁目 118 － 4

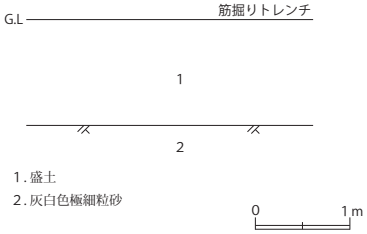
調査対象面積：69.26㎡

調査の方法：重機により筋掘りトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 110㎝において基盤層を検出したが、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。

第 234 図　トレンチ掘削状況



第 235 図　トレンチ断面図

2023 － 45　穂積遺跡

調査日：令和 5 年（2023 年）12 月 21 日

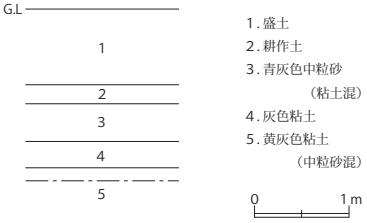
調査場所：豊中市服部西町 3 丁目 105 － 146

調査対象面積：51.03㎡

調査の方法：重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 180㎝）内において、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 236 図　トレンチ断面図

2023 － 46　本町遺跡

調査日：令和５年（2023 年）12 月 21 日

調査場所：豊中市本町３丁目 117

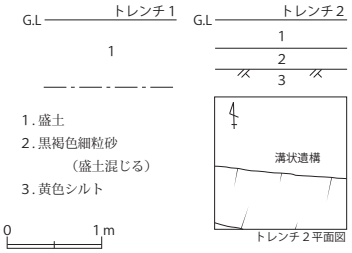
調査対象面積：71.81㎡

調査の方法：重機によりトレンチ２か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：トレンチ２の地表下 50㎝において基盤層及び遺構を検出し、土師器片・須恵器片が出土した。

調査後の処置：協議後、計画変更により再立会予定。

第 237 図　トレンチ掘削状況



第 238 図　トレンチ平面・断面図

写　真　図　版

図版１　桜塚古墳群第 15 次調査

（１）調査区西半部　全景（北から）

（２）調査区東半部　全景（北から）

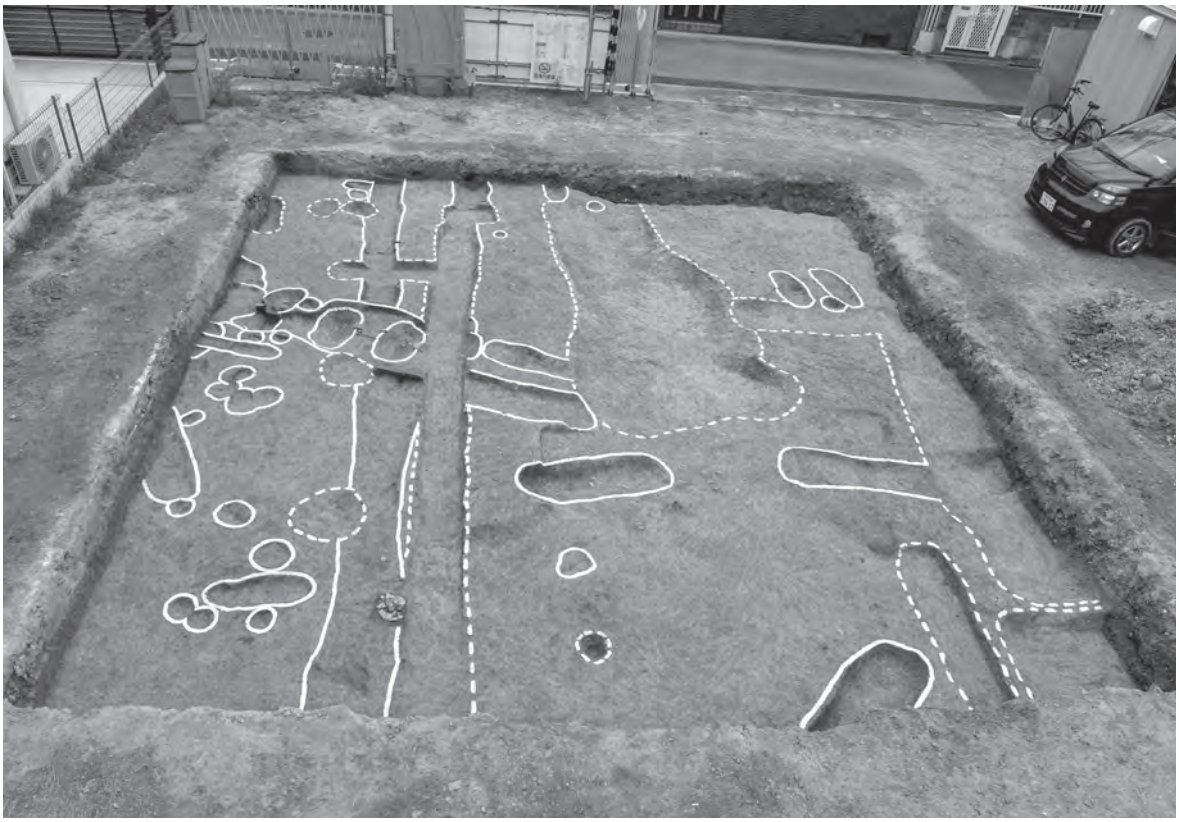
（１）落ち込み１西半部　断面（南から）

（２）出土遺物（1・２重機掘削、３確認調査）

図版３　新免遺跡第 75 次調査

（１）東半区検出状況（東から）

（２）西半区検出状況（東から）



（１）東半区完掘状況（北から）

（２）西半区完掘状況（東から）

図版５　新免遺跡第 75 次調査

（１）東半区完掘状況（東から）

（２）土坑１断面（北から）

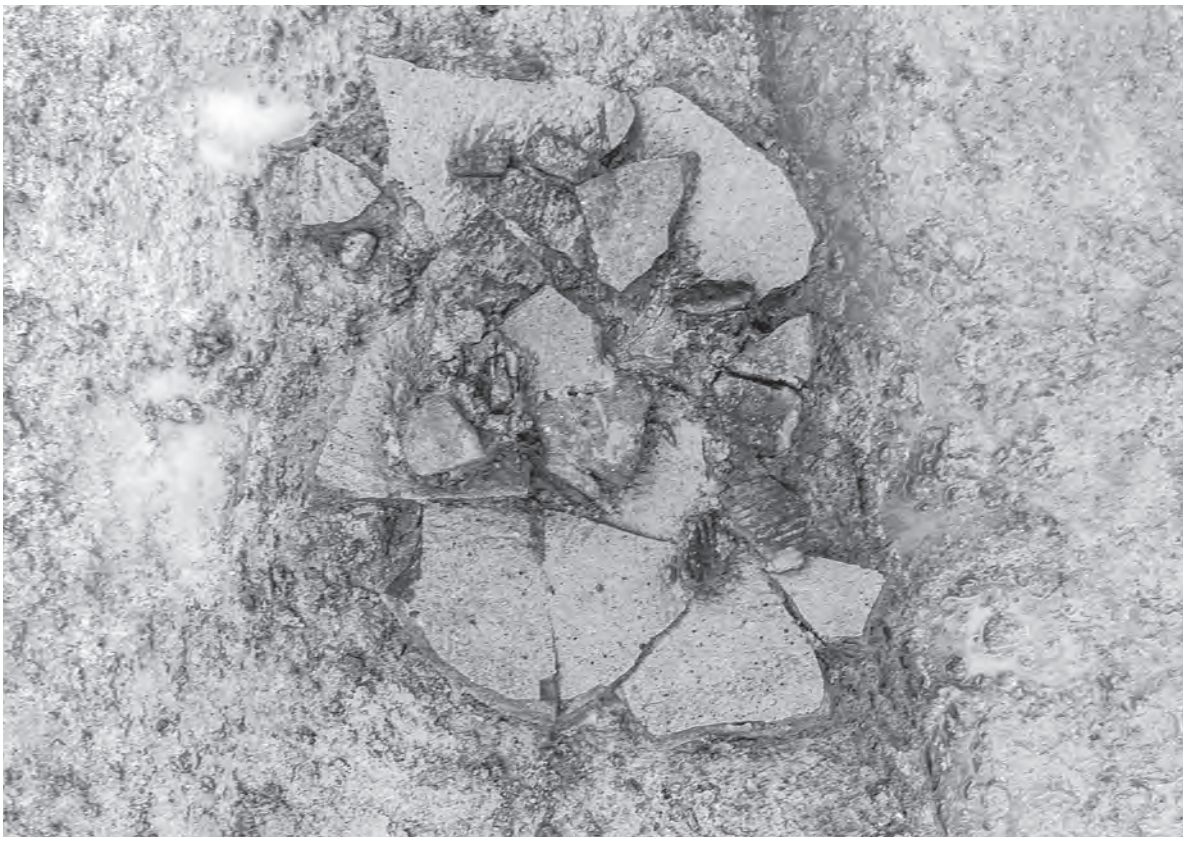
（1）土坑 1 完掘状況（北から）

（２）土坑 1 内ピット完掘状況（東から）

図版７　新免遺跡第 75 次調査

（１）ナイフ形石器出土状況（北から）

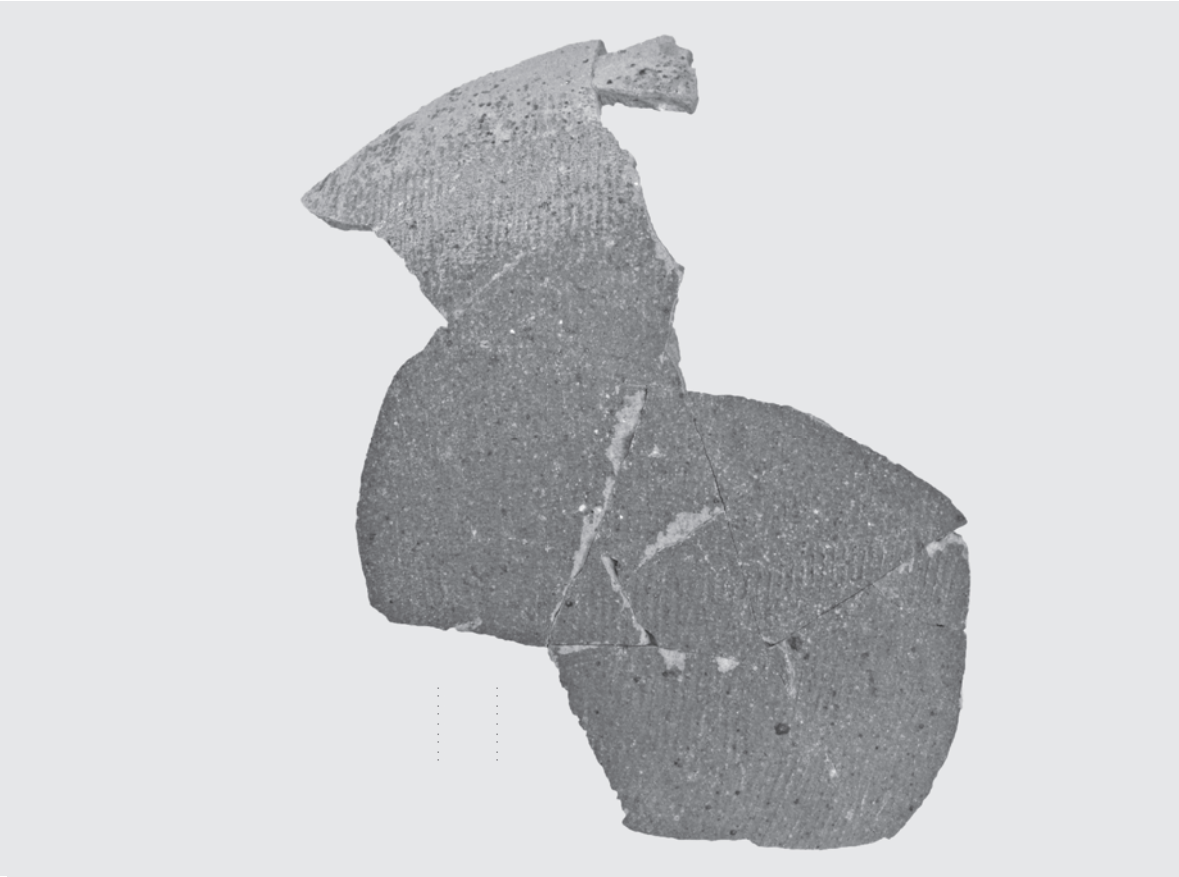
（２）溝１ 断面（東から）



（２）溝３ 須恵器甕 出土状況（北から）

（２）埋め戻し状況（北西から）

図版９　新免遺跡第 75 次調査



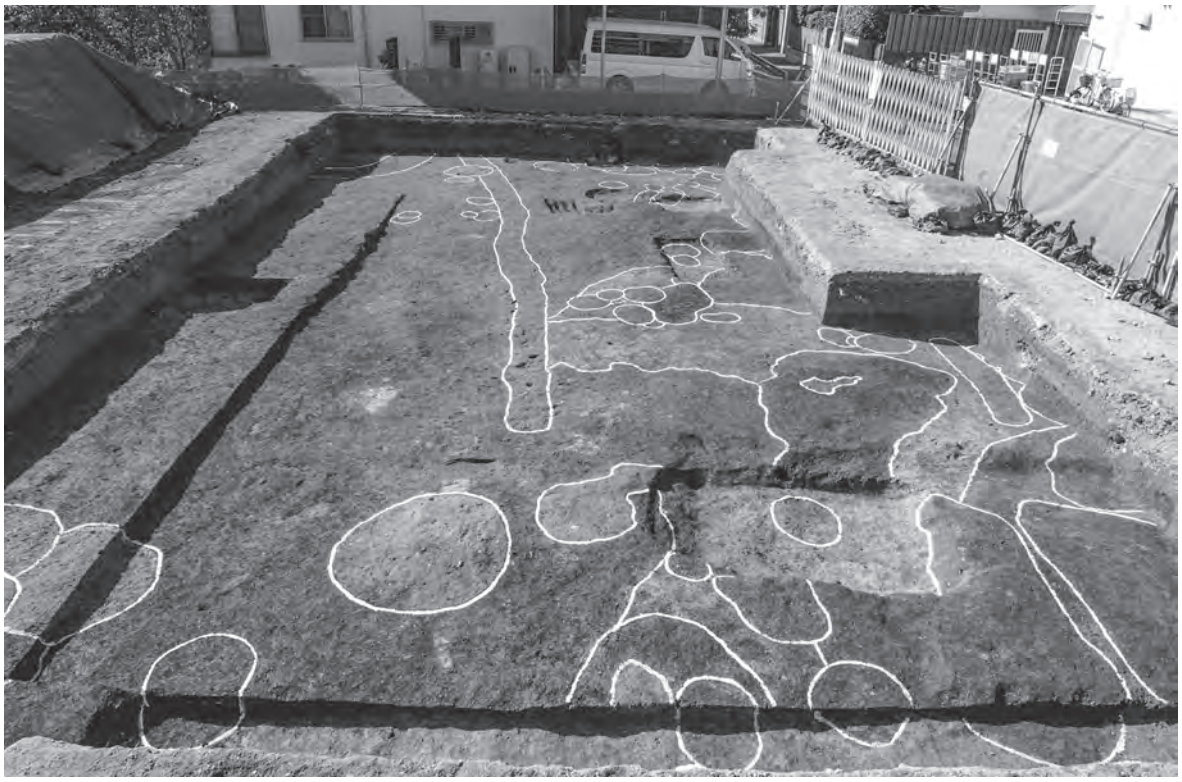
（1）溝３出土　須恵器　甕

（2）土坑１出土　ナイフ形石器

（1）調査前（東から）

（2）重機掘削（南から）

図版 11　本町遺跡第 45 次調査



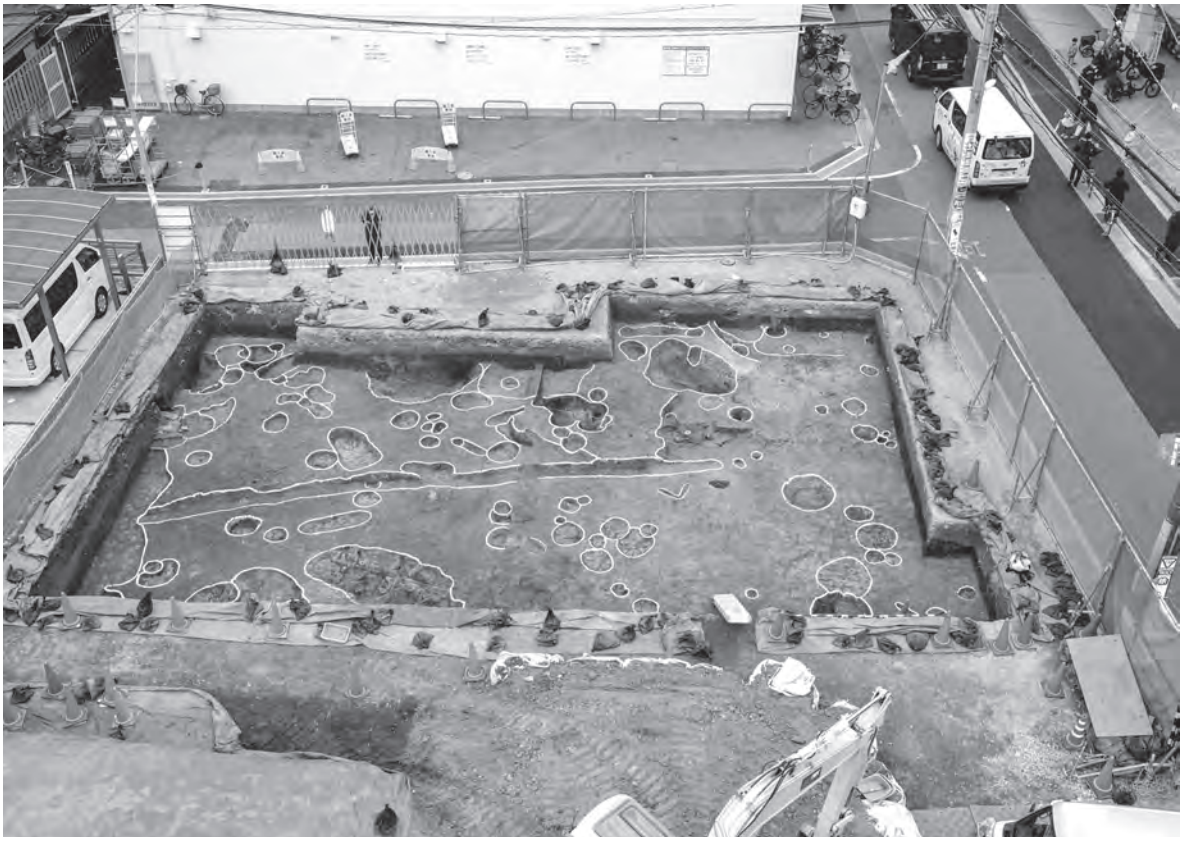
（1）北半区　黒褐色土層上面　遺構検出状況（東から）

（2）北半区　基盤層面　遺構検出状況（東から）

（1）南半区　基盤層面　遺構検出状況（北東から）

（2）調査区全域に層厚約 30 ～ 50cm の黒褐色堆積土層（6 世紀代に堆積）

図版 13　本町遺跡第 45 次調査



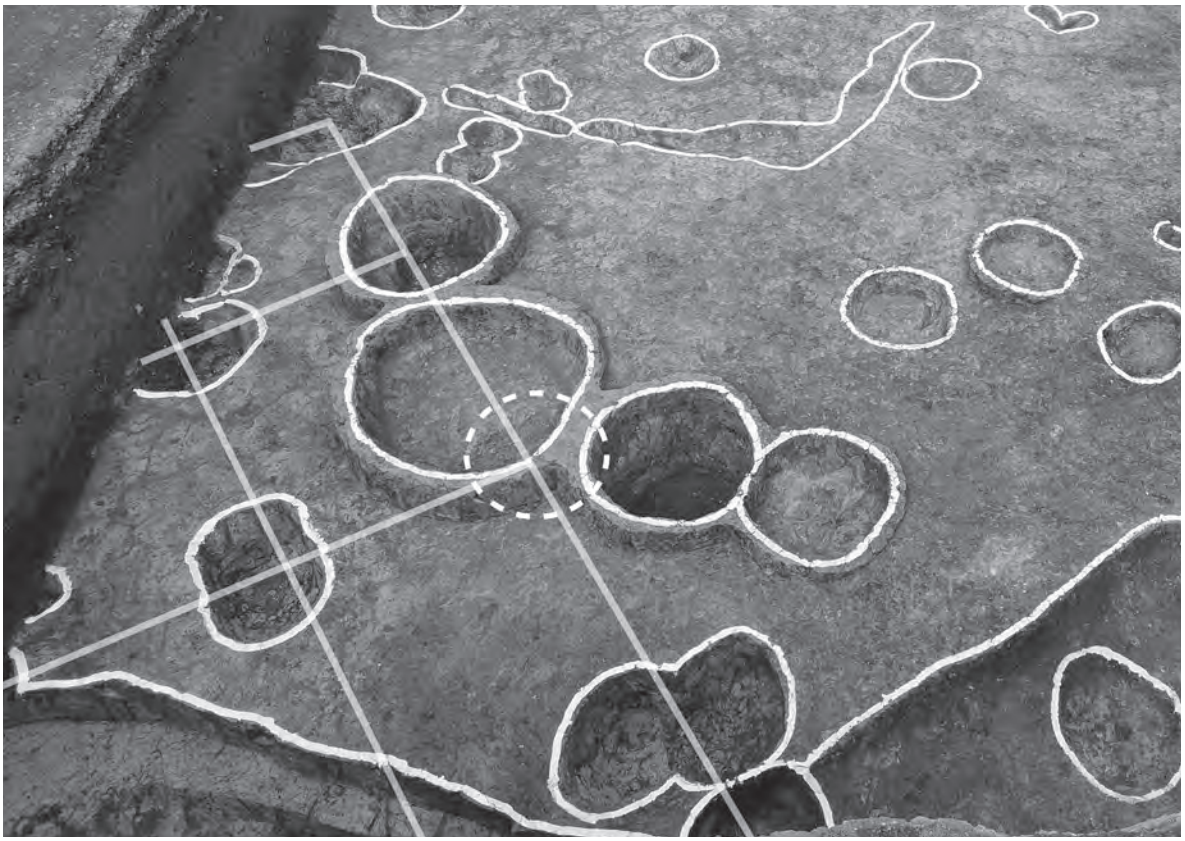
（1）北半区　完掘状況（南から）

（2）南半区　完掘状況（南から）

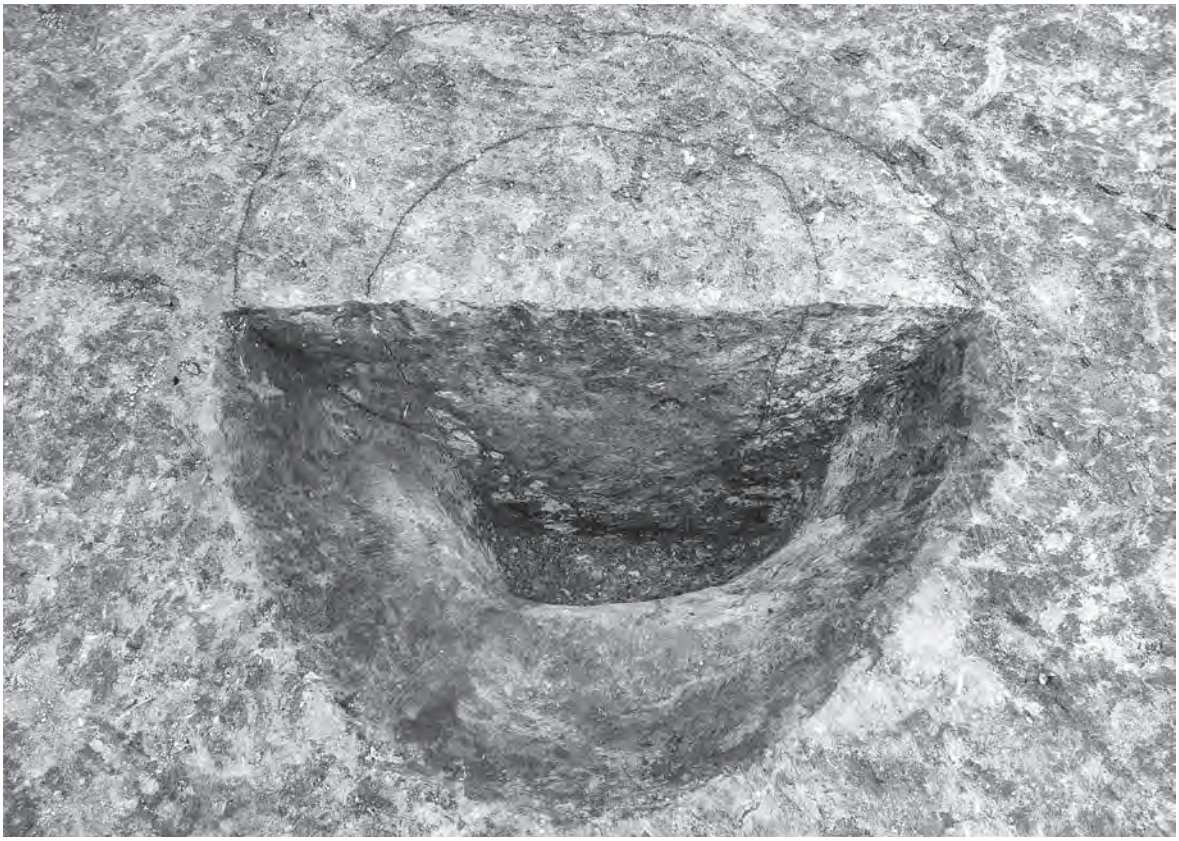
（1）井戸 3（南から）

（2）井戸 4（北から）

図版 15　本町遺跡第 45 次調査

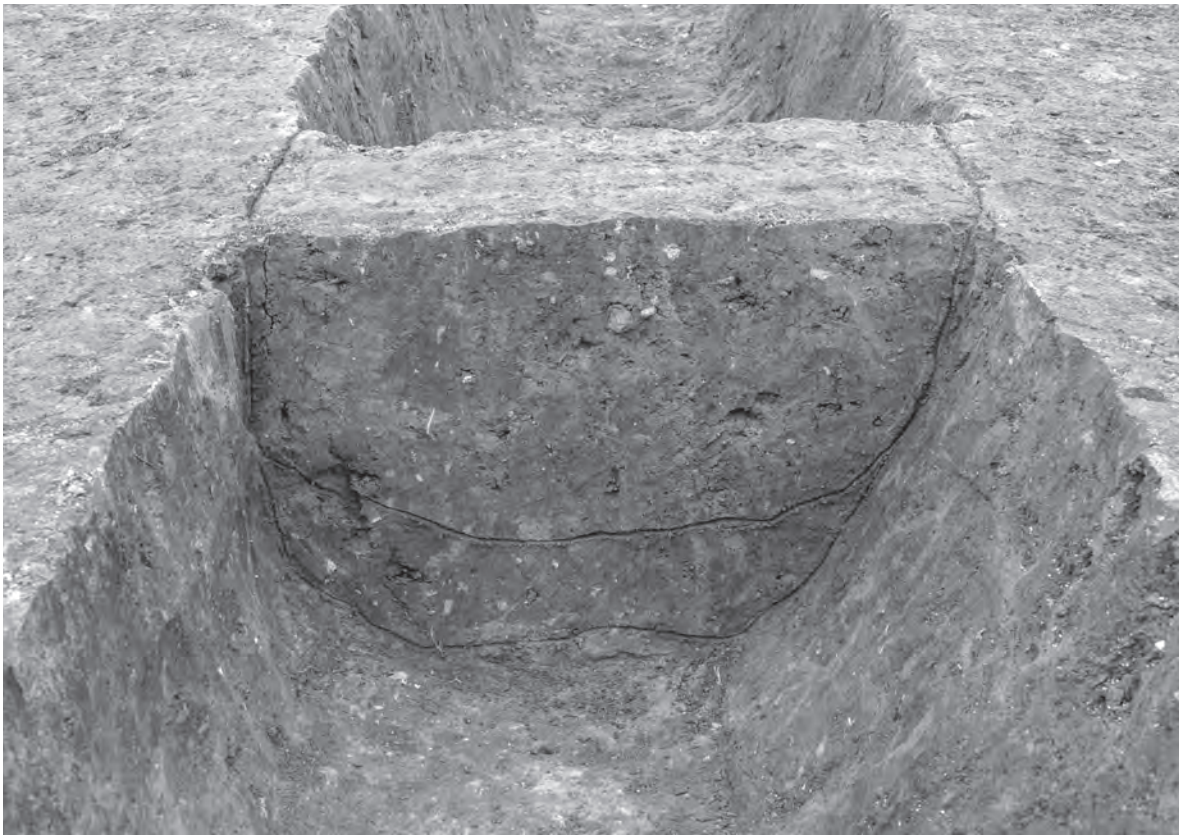


（１）掘立柱建物２（南から）



（２）SP132（掘立柱建物２柱穴）（南から）

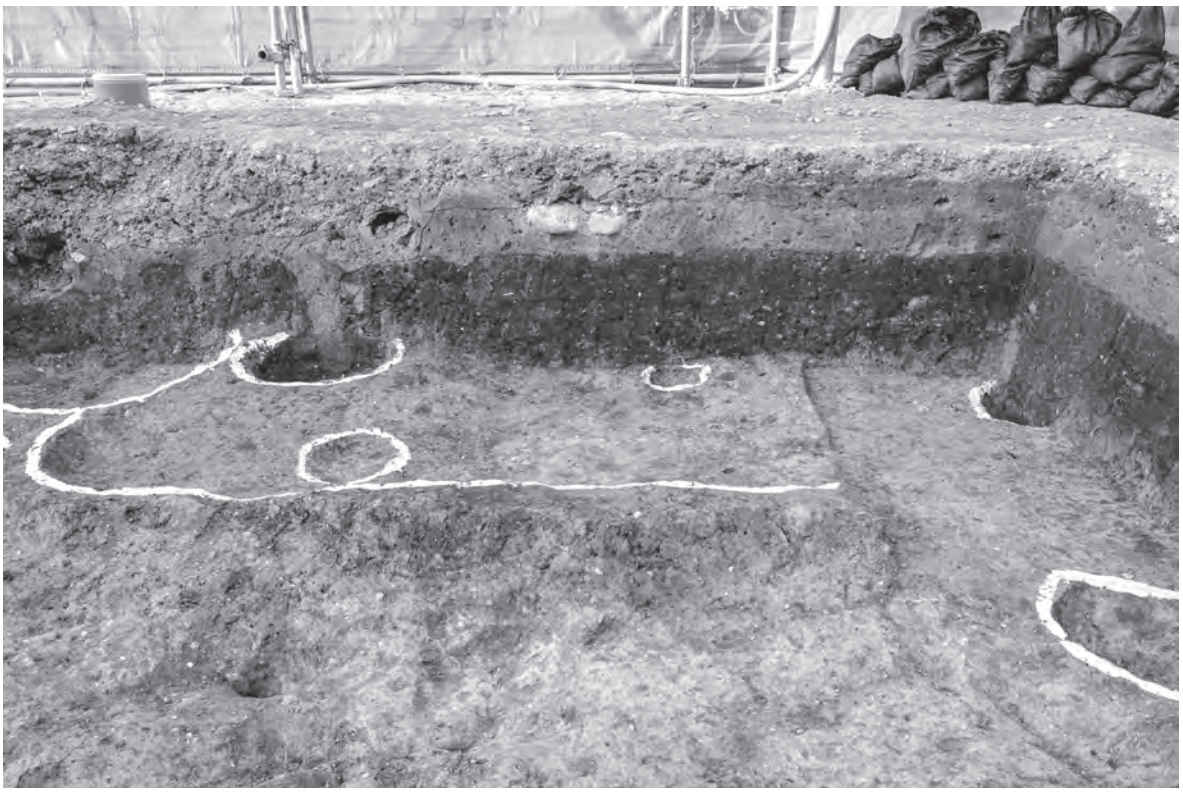
（1）溝 1　完掘状況（東から）



（2）溝 1　西アゼ（西から）

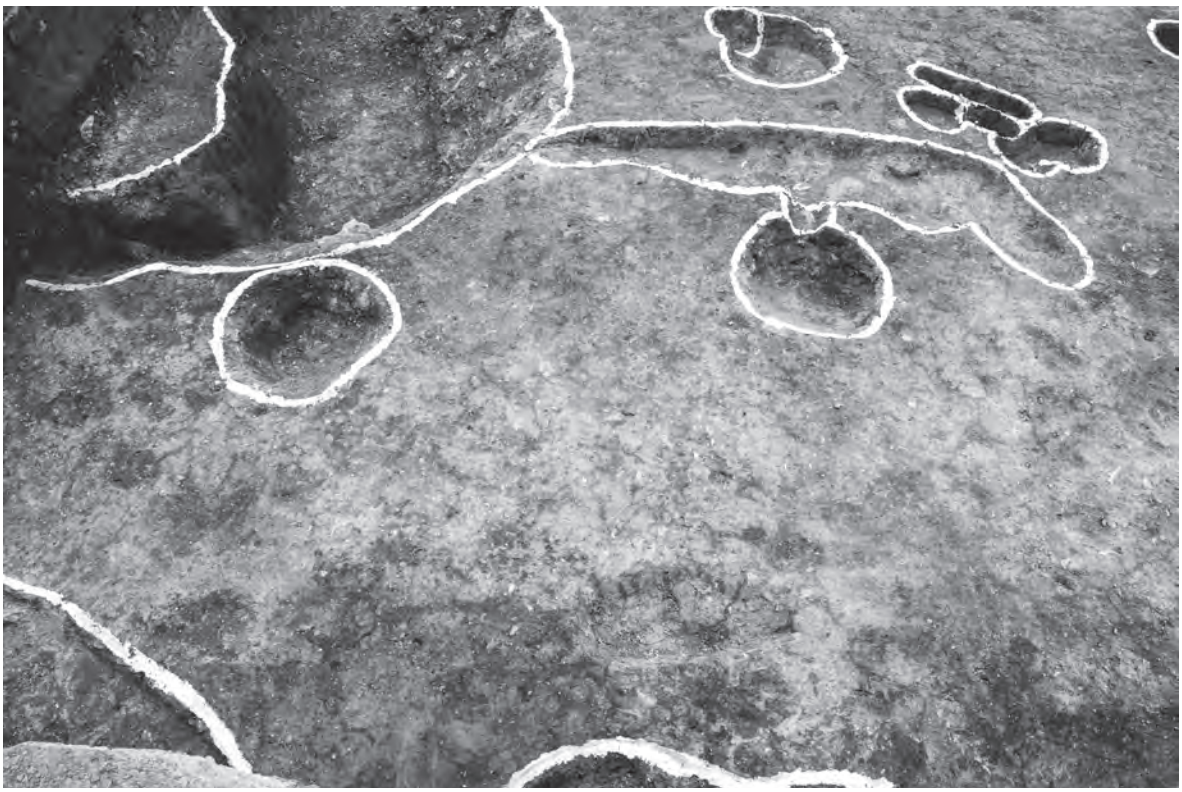
図版 17　本町遺跡第 45 次調査

（１）竪穴住居１（北西から）



（２）竪穴住居２（南から）

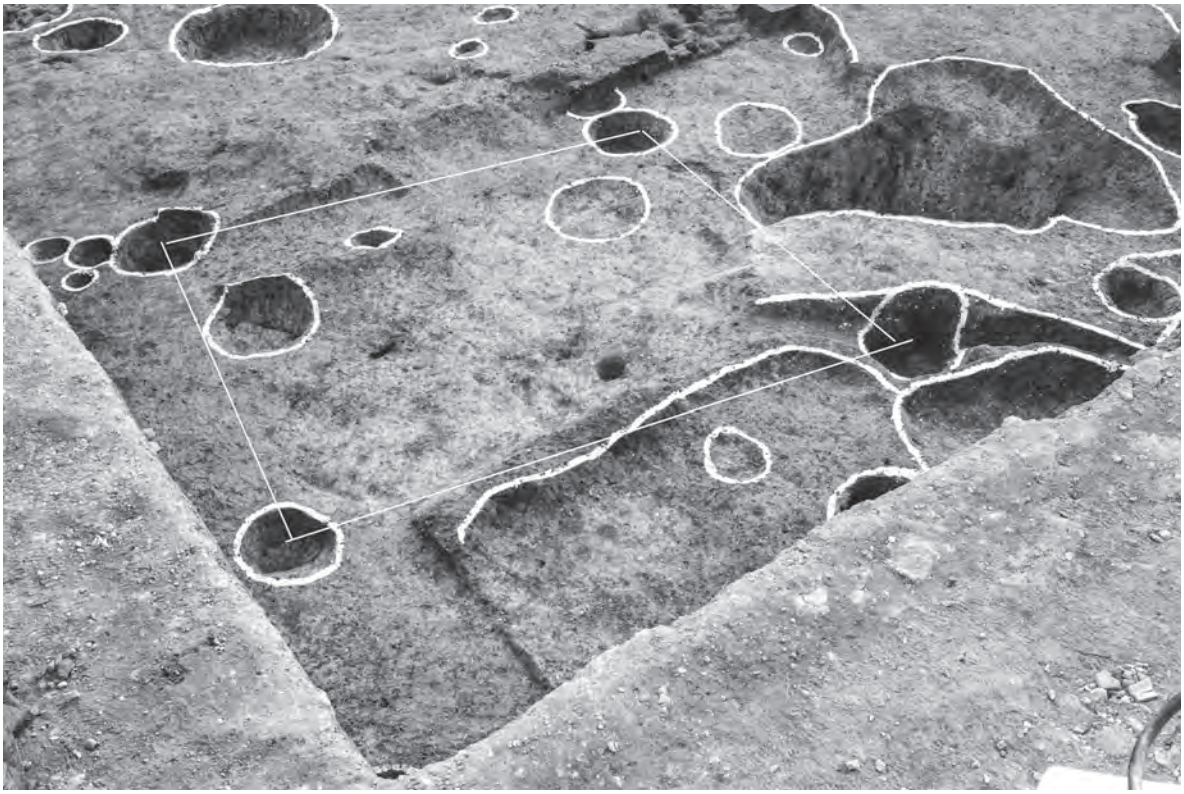
（1）竪穴住居３（南から）



（2）竪穴住居４（東から）

図版 19　本町遺跡第 45 次調査

（1）竪穴住居 5（東から）

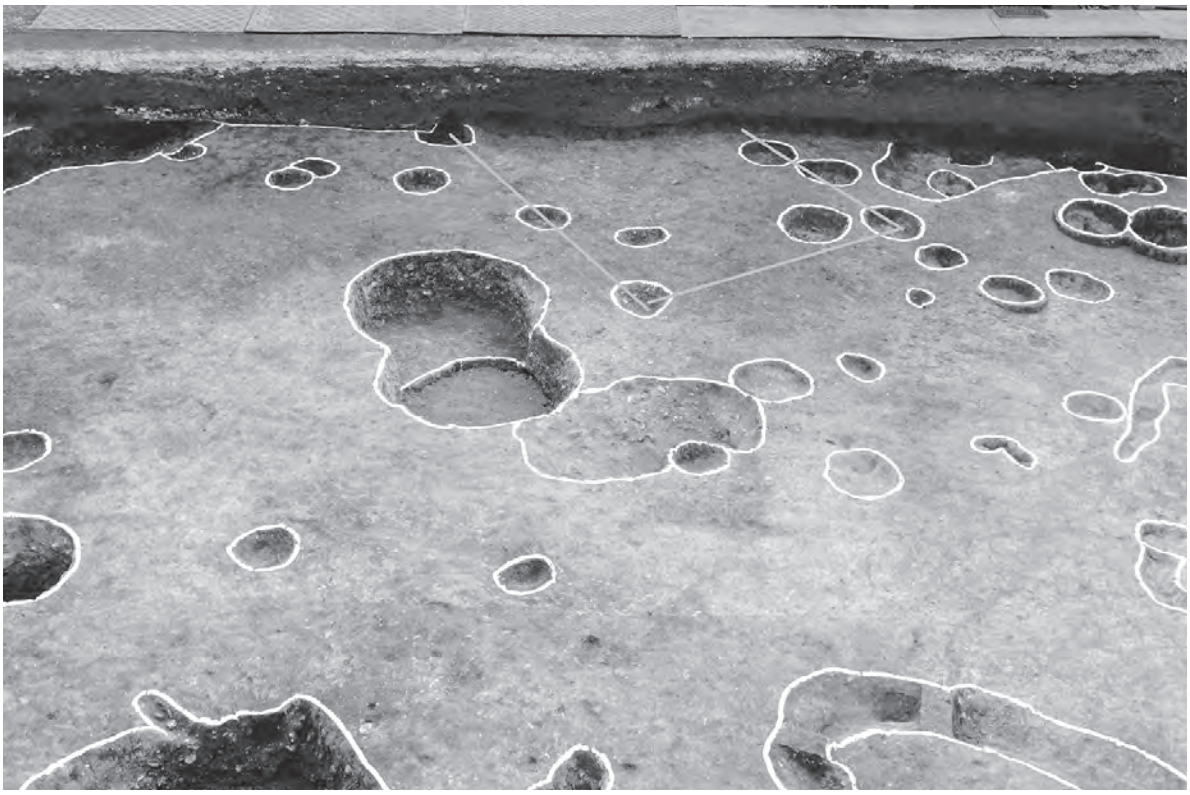


（2）竪穴住居 6（北から）

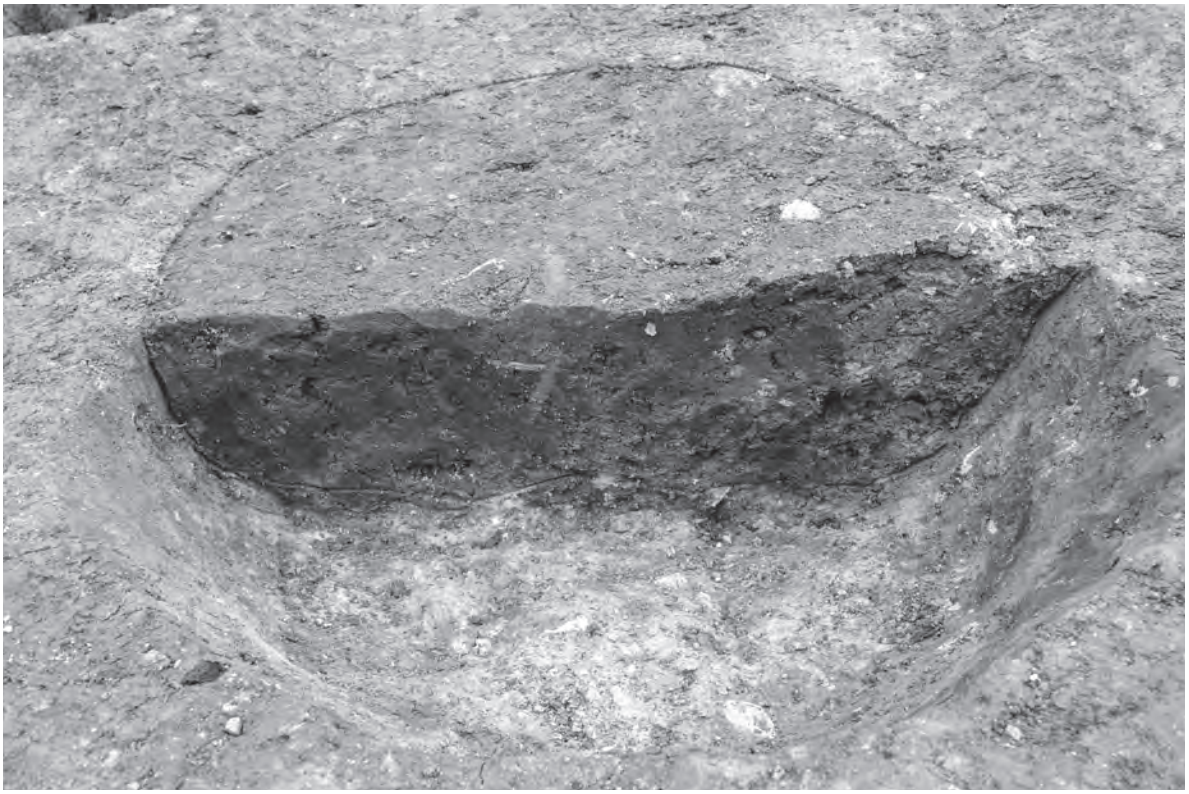
（1）土坑 44（左）・竪穴住居 7（右）（東から）

（2）カマド 1（北から）

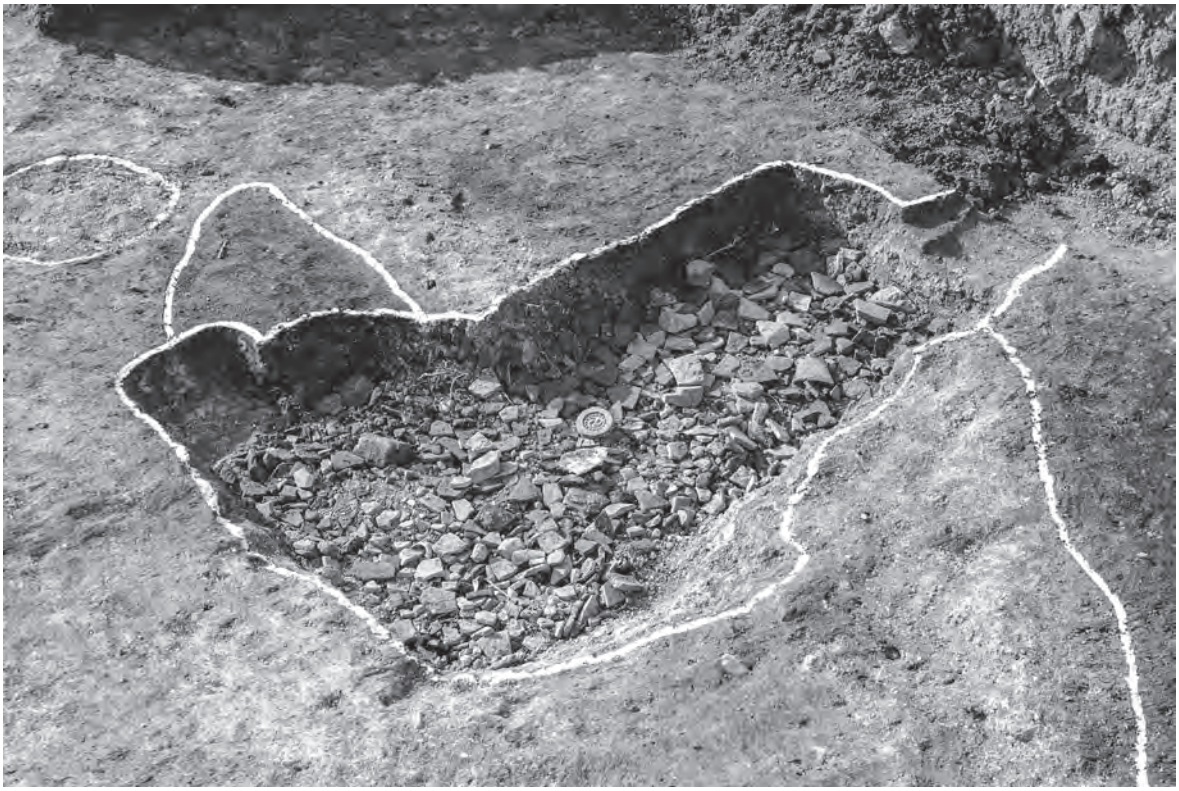
図版 21　本町遺跡第 45 次調査



（1）掘立柱建物 1（北から）



（2）SP126（掘立柱建物 1 柱穴）（南から）



（1）防空壕　検出状況（南東から）

（2）防空壕　断面（東から）

図版 23　本町遺跡第 45 次調査

（1）防空壕　完掘状況 1（南から）

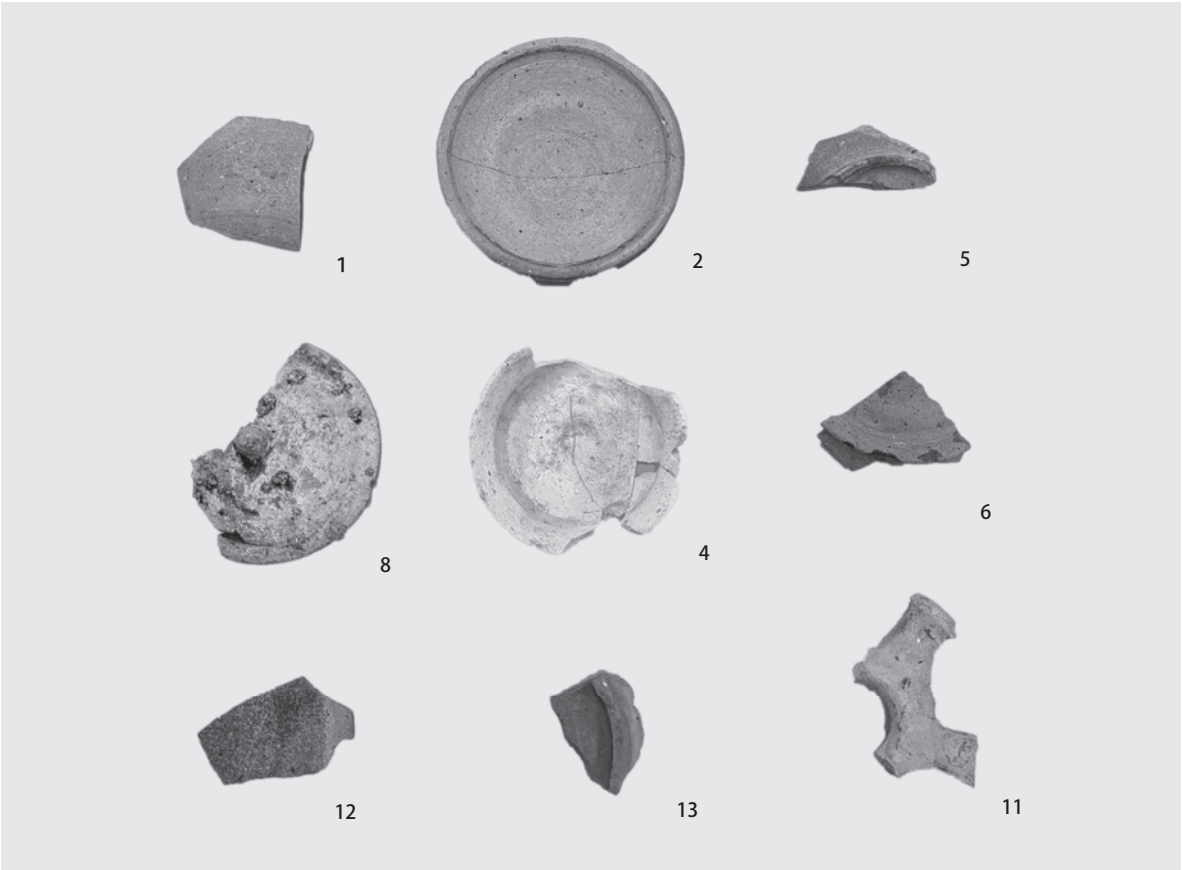
（2）防空壕　完掘状況 2（南から）

（1）現地説明会写真 1

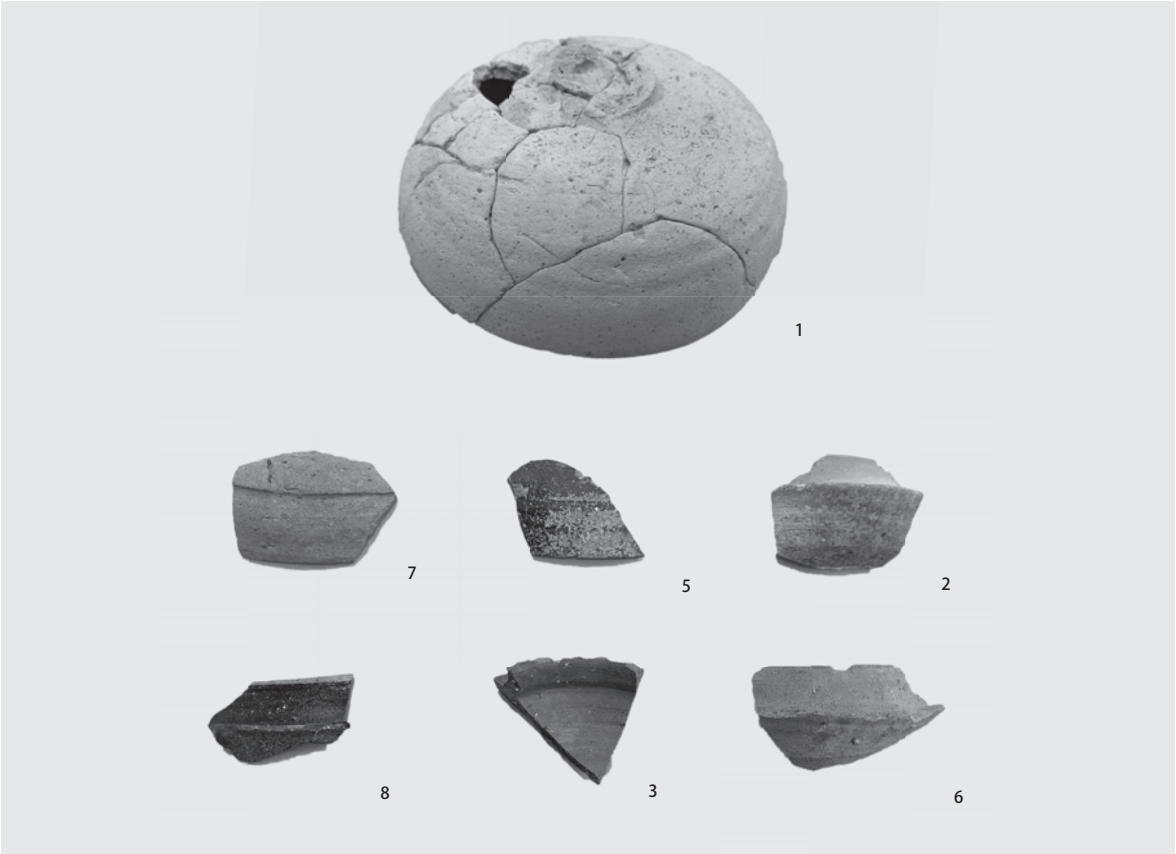
（2）現地説明会写真 2

図版 25　本町遺跡第 45 次調査

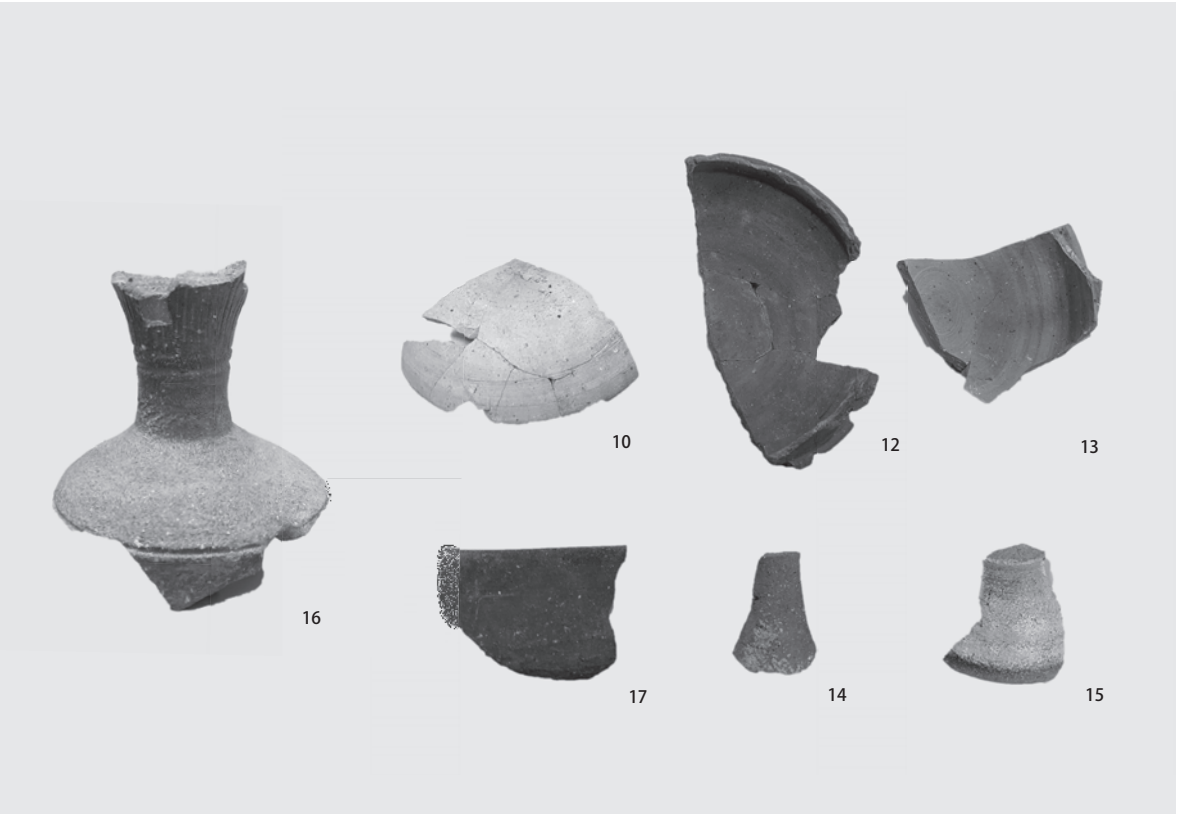
（1）近世出土遺物（第 21 図）



（2）飛鳥～奈良時代出土遺物（第 25 図）

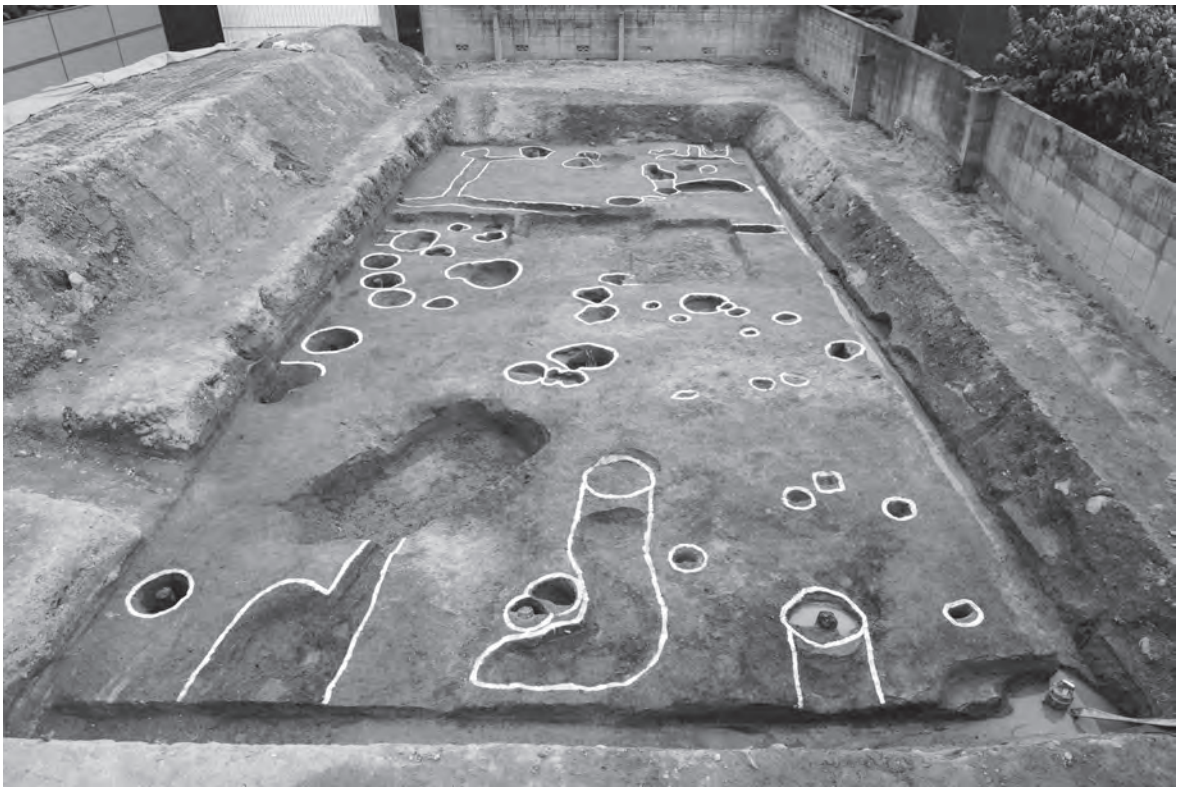


（1）古墳時代後期 遺構出土遺物（第 33 図）



（2）黒褐色土層内出土遺物（第 33 図）

図版 27　小曽根遺跡第 36 次調査（今西氏屋敷第 13 次）



（1）調査区西半部　遺構面全景（北から）

（2）調査区東半部　遺構面全景（北から）

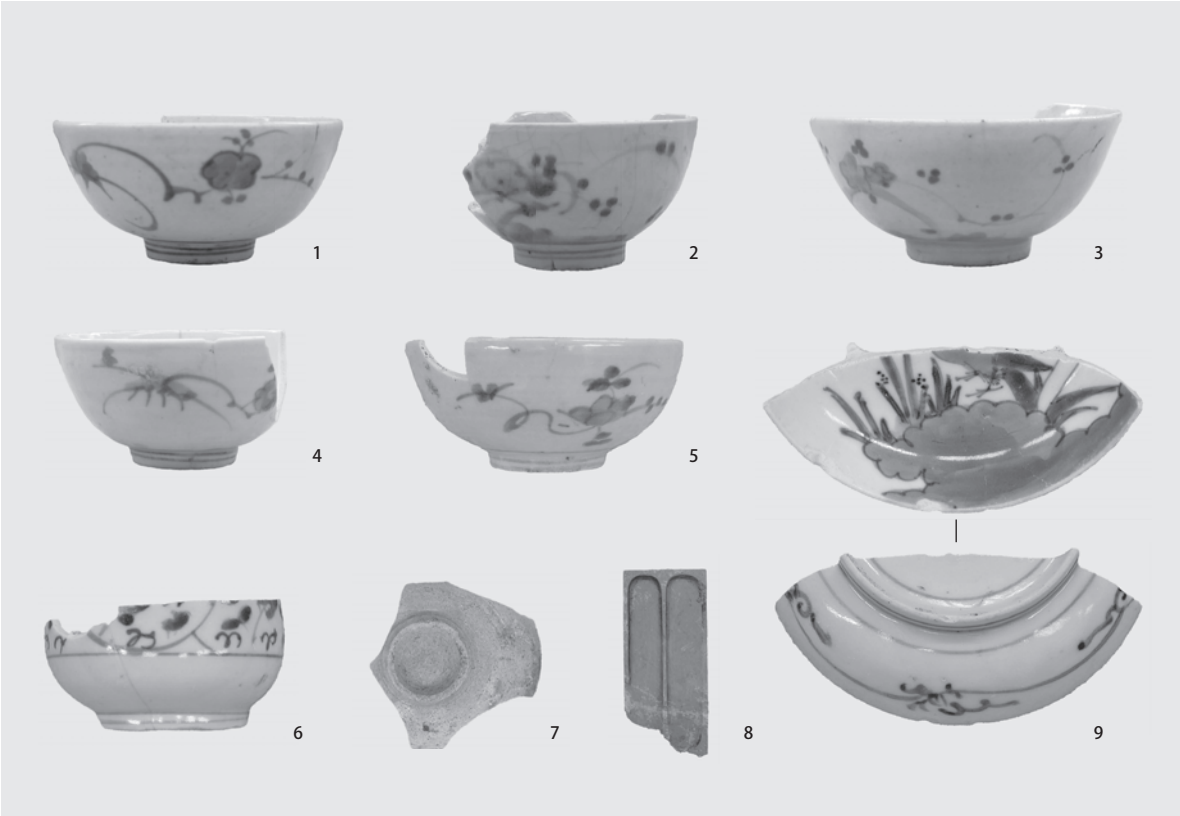
（1）調査区北壁断面（部分・南から）

（2）調査区西壁断面（部分・東から）

図版 29　小曽根遺跡第 36 次調査（今西氏屋敷第 13 次）

（1）土坑 9 遺物出土状況（西から）

（2）土坑（井戸）17 断面（南から）



（1）土坑 9 出土遺物

（2）土坑 15（1 ～ 5）・土坑 17（井戸：6 ～ 9）・土坑 20（10）・土坑 22（11）出土遺物

報告書抄録

ふりがな	とよなかし　まいぞうぶんかざい　はっくつちょうさ　がいよう
書名	豊中市埋蔵文化財発掘調査概要　令和４・５年度（2022・2023年度）
シリーズ名	豊中市文化財調査報告
シリーズ番号	第87集
編著者	小堀僚・中村美琴・清水篤・淺田尚子・井上陽波
編集機関	豊中市教育委員会（市町村コード27208）
所在地	〒561－8501　大阪府豊中市中桜塚３丁目１－１　TEL06－6858－2581
発行年月日	令和６年（2024年）３月31日

所収遺跡	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
桜塚古墳群（さくらづかこふんぐん）第15次	南桜塚（みなみさくらづか）３丁目 10-10	34°46′37″	135°28′25″	20220802～20220829	96.0㎡	個人住宅建築
新免（しんめん）遺跡 第75次	玉井町（たまいちょう）２丁目 72、76-3	34°47′13″	135°27′32″	20220829～20220927	160.0㎡	個人住宅建築
本町（ほんまち）遺跡 第45次	本町（ほんまち）３丁目51	34°47′23″	135°27′42″	20221222～20230331	415.0㎡	個人住宅・店舗・事務所建築
小曽根（おぞね）遺跡 第36次（今西氏屋敷（いまにししやしき）第13次）	浜（はま）１丁目 424-3、426	34°45′42″	135°28′54″	20230622～20230831	191.4㎡	個人住宅建築

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
桜塚古墳群 第15次	古墳群	古墳・近世	溝	埴輪、陶磁器	南天平塚古墳と同時期の埴輪片が出土
新免遺跡 第75次	集落跡	弥生・古墳・古代・中世～近世	溝・ピット	須恵器・瓦器・ナイフ形石器	鎌倉時代のピット群から旧石器時代のナイフ形石器が出土
本町遺跡 第45次	集落跡	古墳・古代・近世・近代	竪穴住居・溝・井戸・防空壕	須恵器	桜井谷窯跡群と密接な関わりのある集落遺構を検出
小曽根遺跡 第36次（今西氏屋敷 第13次）	屋敷	近世	集落遺構	陶磁器	近世に今西氏屋敷西側に発達する字「南郷」の集落遺構を検出

豊中市文化財調査報告　第 87 集
豊中市埋蔵文化財発掘調査概要
令和４・５年度（2022・2023 年度）
発行：豊中市教育委員会
豊中市中桜塚３丁目１－１
令和６年（2024 年）３月 31 日
印刷：株式会社きたがわぷりんと